

浜 松 市 教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和 7 年 5 月 2 1 日（水）

1 4 時 0 0 分

教 育 委 員 会 室

1 開 会

2 前回会議録の報告及び承認

3 会議録署名人の決定（鈴木委員、下鶴委員）

4 会期の決定

5 議 事

（1）議 案

【意見聴取案件】

第 36 号議案 浜松市立高等学校授業料等に関する条例の一部改正の議会提案について
（市立高等学校）

【議決案件】

第 37 号議案 令和 6 年度教育委員会評価・点検報告書（案）について （教育総務課）

（2）報 告

ア 令和 6 年度学校施設等の被害状況について （教育施設課・幼保運営課）

イ 令和 6 年度 教職員の体罰、不適切な言動及びセクシュアル・ハラスメントに関する調査結果について （教職員課）

ウ 令和 6 年度 問題行動、いじめ及び不登校の実態について （指導課・教育支援課）

エ 令和 7 年度浜松市放課後児童会登録児童数及び待機児童数について （教育総務課）

6 閉 会

第 3 6 号 議 案
令和 7 年 5 月 2 1 日 提 出

浜松市立高等学校授業料等に関する条例の一部改正の議会提案について

浜松市立高等学校授業料等に関する条例の一部を改正する条例を次のとおり議会に提案する。

浜松市長 中 野 祐 介

浜松市立高等学校授業料に関する条例の一部を改正する条例（案）

浜松市立高等学校授業料に関する条例（昭和 3 8 年浜松市条例第 5 0 号）の一部を次のように改正する。

改正前	改正後
(授業料等の納入) 第 3 条 （略） 2 市長は、前項の規定による授業料の納入が <u>困難であると認める者に対しては</u> 、同項に規定する区分を更に区分して納入させることができる。 3 ・ 4 （略）	(授業料等の納入) 第 3 条 （略） 2 市長は、前項の規定にかかわらず、市長が <u>特別の理由があると認めるときは</u> 、同項に規定する区分によらないで納入させることができる。 3 ・ 4 （略）

備考 改正箇所は、下線が引かれた部分である。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

浜松市立高等学校授業料に関する条例の一部改正について

(提案理由)

高校生等臨時支援事業の創設に伴い、国が補助する授業料相当額が、授業料の納期限内に納入されない見通しであることから納期限を猶予するため、条例の一部を改正するものです。

(改正内容)

高校生等への授業料の支援は、7月から申請手続きを開始し、授業料相当額の年額分を、年度末に一括して支給を予定していることから、浜松市立高等学校の授業料について、納入の区分に係る規定を改め対応するものです。

(施行期日等)

この条例は、公布の日から施行するものです。

(参考)

改正前			改正後		
(授業料等の納入)			(授業料等の納入)		
第3条 授業料は、次の表に定める区分に従い納入しなければならない。			第3条 授業料は、次の表に定める区分に従い納入しなければならない。		
期別	納入額	納期限	期別	納入額	納期限
1	年額の12分の3 に相当する額	7月31日	1	年額の12分の3 に相当する額	7月31日
2	年額の12分の5 に相当する額	10月31日	2	年額の12分の5 に相当する額	10月31日
3	年額の12分の4 に相当する額	翌年 1月31日	3	年額の12分の4 に相当する額	翌年 1月31日
2 市長は、前項の規定による授業料の納入が困難であると認める者に対しては、同項に規定する区分を更に区分して納入させることができる。			2 市長は、前項の規定にかかわらず、市長が特別の理由があると認めるときは、同項に規定する区分によらないで納入させることができる。		
3・4 (略)			3・4 (略)		

第 3 7 号 議 案

令和 7 年 5 月 2 1 日 提 出

令和 6 年度教育委員会点検・評価報告書（案）について

令和 6 年度教育委員会点検・評価報告書を次のように策定する。

教育長 野 秋 愛 美

令和 6 年度
教育委員会点検・評価報告書（案）

令和 7 年 5 月



浜松市教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	
1	経 緯	1
2	目 的	1
3	点検・評価の対象	1
4	学識経験を有する者の知見の活用	1
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会定例会・臨時会	2
2	教育委員会協議会	2
3	移動教育委員会	3
4	総合教育会議	5
5	その他会議	6
6	会議以外の活動	6
7	広報活動	7
III	点検・評価の結果	
1	第3次浜松市教育総合計画 後期計画 体系図	9
2	各政策・施策の評価・検証	10
	政策1 自分らしさを大切にする子供を育てます	
	政策2 夢と希望を持ち続ける子供を育てます	
	政策3 これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供を育てます	
	政策4 一人一人の可能性を引き出し伸ばします	
	政策5 園・学校や教職員の力を向上させます	
	政策6 子供の生活や学びを支える教育環境づくりを進めます	
	政策7 家庭や地域の力を生かした取組を推進します	
3	重点施策に関する調査結果の分析	78
IV	教育長・教育委員、有識者の意見	
1	教育長・教育委員の意見	88
2	有識者の意見	90
V	令和6年度の評価と今後の方向性	
	令和6年度の評価と今後の方向性	93
VI	【参考】教育委員会議案等と附属機関及び庁内会議	
1	教育委員会議案・報告事項	94
2	教育委員会の活動状況	98
3	附属機関及び庁内会議	100

I 点検・評価の概要

1 経緯

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)が一部改正され、すべての教育委員会は、平成20年4月から「毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、公表すること」が義務づけられました。

また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

2 目的

主要な施策の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育施策の推進を図ります。

また、教育委員会の活動状況と併せた報告書を作成し、議会への提出や公表をすることで、市民に信頼される教育行政を推進します。

3 点検・評価の対象

本報告書では、教育委員会の活動状況、教育施策の推進や改善のために設置されている附属機関、庁内会議の活動状況などのほか、「第3次浜松市教育総合計画 後期計画～はままつ人づくり未来プラン～」(以下「後期計画」という。)に掲載の施策や取組を点検・評価の対象とします。

施策の点検・評価は、後期計画の令和6年度における成果指標の達成状況や取組状況調査等に基づいた、評価・検証の結果を活用します。

《第3次浜松市教育総合計画 後期計画》

第3次浜松市教育総合計画 《基本構想10年》									
H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
前期5年					後期5年				

《取組状況調査 調査対象》

- ・市立小中学校 144校(小学校96校、中学校48校)
- ・第3次浜松市教育総合計画 後期計画 関係課 26課

《実態把握調査 調査対象》

年度		R2	R3	R4	R5	R6
調査方法		抽出	抽出	全校	抽出	抽出
児童	G1(48校)	小4	小5	小6		
	G2(48校)			小4	小5	小6
生徒	G1(24校)	中1	中2	中3		
	G2(24校)			中1	中2	中3
保護者		調査対象校の児童生徒の保護者				
地域住民		調査対象校の地域住民				
教員		校長、教頭、主幹教諭(教務主任)、授業を担当する正規教諭・任期付教諭、臨時的任用教諭、再任用職員(フルタイム)				

4 学識経験を有する者の知見の活用

「第4次浜松市教育総合計画策定委員会」や重点施策等について協議する推進部会※に参加する有識者から意見をいただきました。

※策定委員会の下部組織として子供の「生きる力」や「魅力ある教育環境整備」など、第4次計画の重要施策に関する3つの部会のほか第3次計画の評価・検証を行う部会を設置。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員会定例会・臨時会

教育委員会は、毎月1回の定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催しました。

会議では、市議会提案議案に対する意見聴取をはじめ、教育委員会規則の改正等の審議のほか、全国学力・学習状況調査の調査結果や博物館・美術館の事業等に関する報告に対して、各委員から様々な視点で意見が出され、活発な協議が行われました。

(1)開催回数等

年度等	令和5年度	令和6年度
開催回数	15回 (定例会12回、臨時会3回)	14回 (定例会12回、臨時会2回)
開催時間	1時間13分	1時間05分
傍聴者数	51人(延べ人数)	40人(延べ人数)

(2)審議案件 ※審議・報告案件の詳細はP94参照

内容	令和5年度	令和6年度
① 議会提出議案等に対する意見	14	31
② 人事に関する事	19	16
③ 教育委員会規則・規程等の制定・改廃	18	17
④ 教科書採択	2	2
⑤ 計画の策定	0	1
⑥ 教育委員会点検・評価等	0	1
⑦ 文化財の指定・解除	1	2
計	54	70

2 教育委員会協議会

教育委員会協議会は、定例会に合わせて開催し、教育課題などに対する国・県の動向や本市の状況、今後の方向性などについて、事務局から適宜報告を行いました。

(1)開催回数等

年度等	令和5年度	令和6年度
開催回数	12回	12回

(2)主な報告事項

- ・ いじめ問題への対応に関する事
- ・ 全国学力・学習状況調査に関する事
- ・ 幼稚園・保育園の適正化等に関する事 など



教育委員会定例会

3 移動教育委員会

教育長の講話や参加者との意見交換を通じ、開かれた教育行政の推進を図るとともに、本市の学校教育について理解を深め、いただいた意見を今後の施策に反映させていくことを目的に毎年度開催しています。

今年度は、第4次浜松市教育総合計画の策定に向けて、本市の教育に重要と考える取組や「魅力ある教育の推進～教員を目指す方へ～」をテーマに、移動教育委員会を開催しました。

(1)開催回数 2 回 (R5 : 3 回)

(2)参加者 48 人 (R5 : 187 人)

(3)開催内容

	会場	日時	参加者	内容等
第1回	教育会館 ・ 2 階中会議室	9 月 7 日 (土) 13 : 50 ~ 15 : 35	保護者 (浜松市 P T A 指導者研 修会参加者) 27 人	第 4 次浜松市教育総合計画(案) について意見交換を実施。(2 グ ループ)
第2回	クリエート浜松 ・ 5 階 51・53 会議室	12 月 13 日(金) 19:00 ~ 20:30	教員を目指す 方、目指したい と考えている方 (公募) 21 人	教員採用の現状について、教職 員課から説明の後、「魅力ある 教育の推進 ～教員を目指す方 へ～」をテーマに意見交換を実 施。(2 グループ)

(4)参加者からの主な意見(意見交換、アンケートより)

	主な意見
第1回	<p>○夢物語ではなく、現実的な目標設定と実現するんだという強い意思を感じた。</p> <p>○学力の向上よりも心の豊かさを育む環境を充実させてほしい。</p> <p>○子どもたちが「正しく」成長できるよう、計画の確かな推進に期待する。</p> <p>○教育に携わる人、民間企業で働く人、子育てする人などいろいろな方の考えをもっと吸い上げてほしい。</p> <p>○時代の流れに沿って新たなものを導入していくのと並行して、大切にしていくものは昔のもの(やり方)であっても大切にしてほしい。子どもたちが夢や希望をもつためには、学校だけでなく市をあげて魅力ある街にしていくことが大切である。</p> <p>○OPTA と CS の関連性について。PTA は任意団体のため、言及することが困難と思われるが、PTA としての立ち位置が危うくなっている。</p>

主な意見	
第 2 回	<p>○大学で習った知識や教育方法について意見を言うことができてたいへん良かった。今後の教育委員会の皆様の取り組みに期待している。</p> <p>○浜松市の教育に対する施策や対策について理解することができ、教員になったら安心して働けると思えた。</p> <p>○教育委員会の方だけでなく、現場の先生にも参加していただきたいと感じた。</p> <p>○浜松市の教育方針や魅力、他の自治体以上に力を入れている面など新たに知ることも多くあり、浜松市の教員になりたいという気持ちがより一層強くなった。</p> <p>○浜松は都会的なところから山や海などの自然豊かな地域があるということで、それぞれの地域で独自の活動をされているのが印象的だった。</p> <p>○教育の専門家の方々から、学校教育の現状や教育に携わる者としてのあり方を詳しくお聞きすることができ、とても有意義な時間だった。</p> <p>○浜松の特色ある教育について知ることができた。</p>

4 総合教育会議 2回（R5：2回）

市長と教育委員会が、円滑に意思疎通を図り、本市における教育の課題及び目指す姿等を共有し、連携して効果的に教育行政を推進するため、以下のとおり会議を開催しました。

第1回	日 時	令和6年8月26日(月) 15:30 ～ 16:30
	傍聴者	3人
	テーマ	・浜松市教育推進大綱について
	主な意見	<p>○国の教育振興基本計画の「創り手」という表現を大事にしたい。「担う」という表現ではなく、主体性や創造性のある言葉とした方がよいのではないか。</p> <p>○浜松にずっと住んでいると、良さに気づかないこともある。本市の魅力に気づく機会をつくることも必要である。</p> <p>○こどもの学びや育ちは、地域全体で支えていくことが重要。</p>
第2回	日 時	令和7年2月17日(月) 15:30 ～ 17:00
	傍聴者	5人
	テーマ1	・浜松市教育推進大綱について
	主な意見	<p>○「やрмаいか」のチャレンジ精神が、広くこども達に浸透するようにしていてほしい。</p> <p>○大綱ができてからがスタート。大綱に基づく政策、施策をしっかりと進めていかなければならない。</p>
	テーマ2	・不登校児童生徒への支援について
	主な意見	<p>○中学校を卒業した後もサポートできるよう切れ目のない支援体制を整えていく必要がある。</p> <p>○教育と福祉の連携を積極的に考えていく必要があるのではないか。</p> <p>○学校に来させることが目的ではなく、こどもの社会的自立に向けてどう働きかけていくかが重要である。</p> <p>○先進的な取組や有識者の話を聞いて、具体的に検討していきたい。</p>

教育委員会、総合教育会議の会議録は、浜松市ホームページで公開しています。以下の二次元コードからご覧ください。

《教育委員会定例会》 《移動教育委員会》 《総合教育会議》



第1回総合教育会議

5 その他会議 6回 (R5: 6回)

月日		会議名
4月	24日	浜松市奨学生選考委員会
7月	3日	第1回第4次浜松市教育総合計画策定委員会
10月	24日	浜松市奨学生選考委員会
11月	11日	第2回第4次浜松市教育総合計画策定委員会
	24日	指定教育研究報告会
2月	18日	第3回第4次浜松市教育総合計画策定委員会

6 会議以外の活動 18回 (R5:23回)

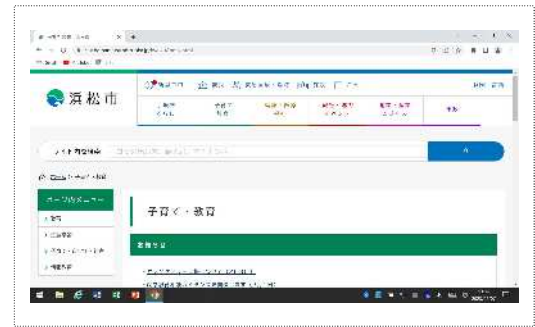
月日		会議名
4月	10日	校長会議
	25日	静岡県市町教育委員会連絡協議会理事会
5月	31日	関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会及び研修会
7月	5日	遵法教室視察
	12日	三遠南信教育サミット
	19日	教科書採択勉強会
8月	1・5・6日	教育研究会第2回研修会
10月	4日	指定「研修幼稚園」保育参観
	17日	法教育出前授業視察
11月	6日	指定「研修幼稚園」保育参観
	13日	指定教育研究校授業視察
	15日	静岡県市町教育委員会研修会
	26日	総合教育会議勉強会
12月	4日	人事関係業務
	5日	人事関係業務
1月	29日	総合教育会議勉強会
2月	4日	研究員研究発表会
3月	23日	浦川幼・浦川小閉園・閉校記念式典

7 広報活動

《浜松市ホームページ 子育て・教育》

(1) 浜松市ホームページ

就学に関する手続きをはじめ、各種相談窓口の案内や教育施策などについて情報発信を行いました。



(2) リーフレットの発行・配付

●第3次浜松市教育総合計画 後期計画 ～はままつ人づくり未来プラン～

第3次浜松市教育総合計画 後期計画の概要や、主な取組内容を理解していただくため、市立小中学校の全ての保護者へ配付しました。



《はままつ人づくり未来プラン》

●発達支援教育

支援を必要とする子供の就学先の相談を案内するために、様々な学習の場や就学までの手順・流れに関するリーフレットを発行し、保護者や園等へ周知しました。

また、社会自立を目指して、中学校卒業後の進路先や相談窓口に関するリーフレットを発行し、保護者へ周知を行いました。



《社会自立をめざして》



《みんなすこやか》

●全国学力・学習状況調査

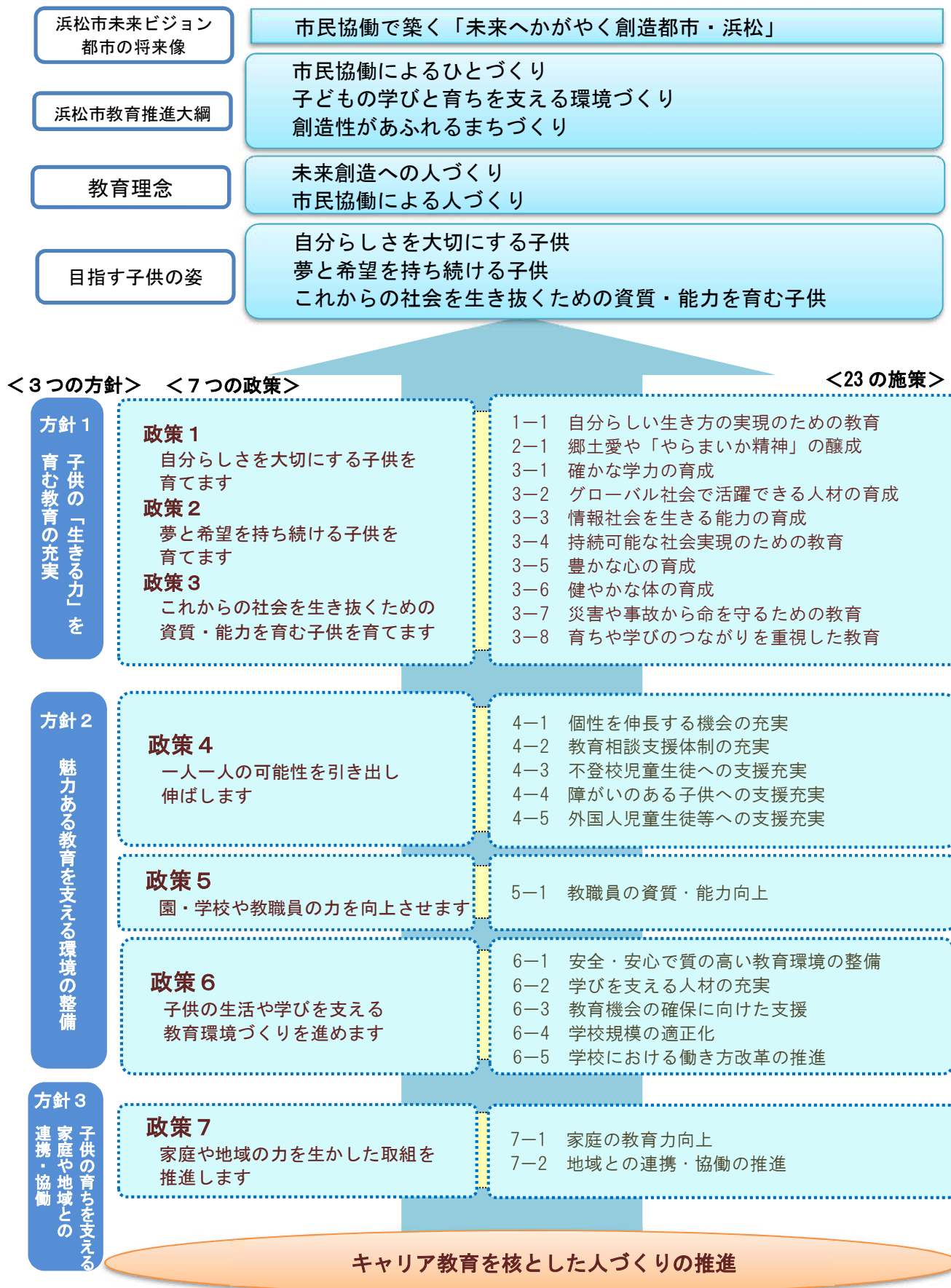
今年度の全国学力・学習状況調査の結果や本市の取組をまとめたリーフレットを発行し、保護者へ周知を行いました。



《全国学力・学習状況調査》

Ⅲ 点検・評価の結果

1 第3次浜松市教育総合計画 後期計画 体系図





政策 1

自分らしさを大切にする子供を育てます

施策 1-1 自分らしい生き方の実現のための教育

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

将来の夢を持っている子供の割合

R6 年度 90% R6年度 ➡ 77.7%

自分にはよいところがあると思う子供の割合

R6 年度 85% R6年度 ➡ 80.8%

自分のよいところを生かしながら活動している子供の割合

R6 年度 80% R6年度 ➡ 77.5%

■1-1-1 キャリア教育の推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
研修会における、教科等の目標やねらいとキャリア教育で育てたい力の重なりを意識したキャリア教育の実践事例の紹介	A	教育センター
研修会における、キャリア・パスポートの効果的な活用事例周知	A	教育センター
新規キャリア教育推進教師研修の実施（年1回）	A	教育センター
2年目経験研修でのキャリア教育に関する講座実施（年1回）	A	教育センター
小中学校からの要請による、キャリア教育に関する校内研修支援の実施	—	教育センター
幼児教育の指針『幼児期に育てたい力（教職員用指導資料）』の配付及び活用事例の紹介による啓発	A	幼保運営課
小中高校生を対象とした「次世代起業家育成講座」の実施（28回）	B	産業振興課
浜松市の農水産業をわかりやすく解説した多彩な出前講座の実施（6回）	B	農業水産課

《学 校の取組》

(1) キャリア教育を核とした人づくりの推進のためにどのような取組をしましたか（複数回答）

(単位：％、比較：Pt)

取組内容	全 体				小 学 校				中 学 校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
「本市がキャリア教育を核とした人づくりを推進する意義」を、全職員で共通理解した	81.3	80.6	80.6	△0.7	83.8	80.2	80.2	△3.6	77.1	81.3	81.3	4.2
自校のキャリア教育で育てたい力を、職員間で共通理解する場を設けた	86.1	95.8	95.1	9.0	86.5	96.9	94.8	8.3	85.4	93.8	95.8	10.4
キャリア教育を意図的・計画的に実践するために、年間指導計画を作成（見直し）した	78.5	89.6	85.4	6.9	85.4	91.7	86.5	1.1	64.6	85.4	83.3	18.7
キャリア教育で育てたい力を家庭や地域と共有するために、情報発信した	36.1	59.7	66.0	29.9	40.6	64.6	72.9	32.3	27.1	50.0	52.1	25.0
キャリア教育年間指導計画に位置付けられている教科学習や教科外活動の中で、子供にキャリア教育で育てたい力を育む指導を行った	72.2	88.2	89.6	17.4	74.0	91.7	92.7	18.7	68.8	81.3	83.3	14.5
子供が、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができるよう、キャリア・パスポートを活用した	77.8	94.4	94.4	16.6	82.3	96.9	97.9	15.6	68.8	89.6	87.5	18.7
家庭や地域と連携・協働しながら、キャリア教育を推進した	33.3	56.9	56.3	23.0	35.4	63.5	63.5	28.1	29.2	43.8	41.7	12.5
その他	6.9	4.2	1.4	△5.5	6.3	4.2	1.0	△5.3	8.3	0	2.1	△6.2

《教職員への調査》

1 自校のキャリア教育で育てたい力を踏まえて実践していますか (単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	90.4	89.6	91.9	91.4	89.1	△1.3
小学校	92.1	91.3	93.0	92.2	90.3	△1.8
中学校	87.5	86.7	90.0	92.2	87.1	△0.4

2 今年度、発達支援学級や複式学級、学年(団)の教員と協働して、キャリア教育年間指導計画を作成(見直し)していますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	76.5	81.7	80.9	78.5	74.0	△2.5
小学校	80.8	87.6	85.6	84.2	80.2	△0.6
中学校	68.9	71.6	72.7	68.9	63.6	△5.3

3 自校のキャリア教育で育てたい力を子供と共有し、実践していますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	84.0	84.1	86.2	87.3	85.0	1.0
小学校	85.8	87.4	89.4	89.9	87.8	2.0
中学校	81.1	78.5	80.4	82.9	80.2	△0.9

4 キャリア教育年間指導計画に位置付けられている教科学習や教科外活動の中で、子供にキャリア教育で育てたい力を育む指導を行っていますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	89.1	88.2	89.7	89.6	87.0	△2.1
小学校	91.0	90.0	91.2	91.2	88.7	△2.3
中学校	85.5	85.0	87.0	87.0	84.2	△1.3

5 自校のキャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立てを工夫していますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	80.2	78.7	83.4	82.8	81.2	1.0
小学校	81.3	80.7	85.4	84.6	82.4	1.1
中学校	78.2	75.1	80.0	79.9	79.0	0.8

6 子供が、子供同士や大人(教員・保護者等)と対話的に関わり、成長を促すことができるよう、キャリア・パスポートを活用していますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	68.9	73.4	76.2	77.8	77.5	8.6
小学校	72.3	78.6	80.3	81.6	81.7	9.4
中学校	62.9	64.6	69.0	71.3	70.2	7.3

7 子供一人一人がよさを発揮できるよう、場を工夫して設定していますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	96.2	96.0	96.4	95.9	96.9	0.7
小学校	96.8	96.6	97.1	96.5	97.5	0.7
中学校	95.0	95.0	95.2	95.0	95.1	0.1

《児童生徒への調査》

1 キャリア教育で育てたい力を知っていますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	46.9		63.1		65.3		18.4
	小学校	4年	52.5	5年	76.1	6年	75.3	22.8
	中学校	1年	41.4	2年	49.7	3年	55.0	13.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	61.1		57.1		65.9		4.8
	小学校	4年	70.5	5年	66.0	6年	74.6	4.1
	中学校	1年	50.2	2年	46.5	3年	55.5	5.3
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	14.2		△6.0		0.6		
	小学校	18.0		△10.1		△0.7		
	中学校	8.8		△3.2		0.5		

2 キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.3		89.5		87.8		2.5
	小学校	4年	87.3	5年	92.2	6年	90.5	3.2
	中学校	1年	83.4	2年	86.7	3年	85.0	1.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	90.2		87.4		89.1		△1.1
	小学校	4年	92.1	5年	90.1	6年	91.9	△0.2
	中学校	1年	88.0	2年	84.1	3年	85.9	△2.1
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	4.9		△2.1		1.3		
	小学校	4.8		△2.1		1.4		
	中学校	4.6		△2.6		0.9		

3 キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと思いますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	75.6		79.7		77.7		2.5
	小学校	4年	78.1	5年	83.0	6年	81.0	2.9
	中学校	1年	73.2	2年	76.4	3年	74.4	1.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	81.1		77.8		78.9		△2.2
	小学校	4年	83.6	5年	81.0	6年	81.9	△1.7
	中学校	1年	78.1	2年	73.9	3年	75.4	△2.7
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	5.5		△1.9		1.2		
	小学校	5.5		△2.0		0.9		
	中学校	4.9		△2.5		1.0		

4 どんな大人になりたいのかという目標を持っていますか(将来の夢を持っていますか)

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.2		80.1		77.8		△7.4
	小学校	4年	91.8	5年	90.0	6年	87.7	△4.1
	中学校	1年	78.6	2年	69.9	3年	67.5	△11.1
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	81.2		78.6		77.0		△4.2
	小学校	4年	89.3	5年	87.7	6年	85.8	△3.5
	中学校	1年	71.7	2年	67.7	3年	68.1	△3.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△4.0		△1.5		△0.1		
	小学校	△2.5		△2.3		△1.9		
	中学校	△6.9		△2.2		0.6		

<参考>全国学力・学習状況調査			R1	R3	R4	R5	R6
将来の夢や目標を持っていますか	全国	小6	83.8	76.9	79.8	81.5	82.4
		中3	70.5	68.6	67.3	66.3	66.3
	本市	小6	86.9	83.4	84.0	85.1	84.5
		中3	74.5	72.0	69.8	68.5	69.1

※R2は中止

5 自分にはよいところがあると思いますか

成果指標 R6 年度 85%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	80.8		76.1		77.9		△2.9
	小学校	4年	83.7	5年	77.8	6年	77.8	△5.9
	中学校	1年	77.9	2年	74.4	3年	78.0	0.1
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	77.4		76.6		80.8		3.4
	小学校	4年	80.1	5年	77.9	6年	81.1	1.0
	中学校	1年	74.3	2年	75.1	3年	80.6	6.3
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△3.4		0.5		2.9		
	小学校	△3.6		0.1		3.3		
	中学校	△3.6		0.7		2.6		

<参考>全国学力・学習状況調査			R1	R3	R4	R5	R6
自分には、よいところがあると思いますか	全国	小6	81.2	76.9	79.3	83.5	84.1
		中3	74.1	76.2	78.5	80.0	83.3
	本市	小6	86.5	82.5	84.3	87.9	86.6
		中3	81.6	82.0	82.9	82.4	86.4

※R2は中止

6 自分のよいところを生きしながら活動していますか

成果指標 ▶ R6 年度 80%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	77.0		74.1		74.7		△2.3
	小学校	4年	81.2	5年	77.2	6年	75.6	△5.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	77.2		74.4		77.5		0.3
	小学校	4年	81.6	5年	77.9	6年	79.0	△2.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.2		0.3		2.8		
	小学校	0.4		0.7		3.4		
中学校	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.2		0.3		2.8		
	小学校	0.4		0.7		3.4		
中学校	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.2		0.3		2.8		
	小学校	0.4		0.7		3.4		

《保護者への調査》

1 学校では、キャリア教育で子供にどのような力を育てようとしているか知っていますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	27.2		33.2		38.5		11.3
	小学校	4年	30.8	5年	36.5	6年	43.6	12.8
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	31.5		32.7		41.1		9.6
	小学校	4年	33.5	5年	34.6	6年	43.5	10.0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	4.3		△0.5		2.6		
	小学校	2.7		△1.9		△0.1		
中学校	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	4.3		△0.5		2.6		
	小学校	2.7		△1.9		△0.1		

2 キャリア・パスポートを通して、お子さんが何をがんばったか、またはがんばりたいと思っているか知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	22.9		29.8		35.7		12.8
	小学校	4年	26.9	5年	35.7	6年	44.6	17.7
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	32.8		35.6		41.5		8.7
	小学校	4年	34.6	5年	38.6	6年	45.0	10.4
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	9.9		5.8		5.8		
	小学校	7.7		2.9		0.4		
中学校	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	9.9		5.8		5.8		
	小学校	7.7		2.9		0.4		

《地 域への調査》

1 学校では、キャリア教育で子供にどのような力を育てようとしているか知っていますか

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	77.7	85.4	88.1	90.9	92.6	14.9
小学校	76.3	85.0	90.4	90.9	93.6	17.3
中学校	80.3	86.3	83.2	90.9	89.8	9.5



成 果

○キャリア教育の浸透と定着

- ・ 学校の取組では、令和2年度と比較して、その他を除く全ての項目で数値の上昇が見られ、7つの項目のうち5つの項目が8割以上となりました。教職員への調査では、7つの項目のうち5つの項目で8割以上、2つの項目についても7割を超えている状況でした。このことから、各学校で教育活動全体を通したキャリア教育が着実に実践されていることが伺えます。
- ・ キャリア教育で育てたい力を踏まえた実践は、令和2年度から約9割を維持出来ており、児童生徒の認知や実感も数値が上昇しています。また、キャリア・パスポートの活用に係る教員、保護者の数値も上昇が見られ、全市的にキャリア教育が浸透、定着してきている状況が確認できました。

○キャリア教育を核とした人づくりの推進

- ・ 児童生徒への調査では、「自分によいところがあると思いますか」の項目で、前年度や令和4年度の同一学年との比較において、数値の上昇が見られました。全国学力・学習状況調査では、「将来の夢や目標を持っていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において、全国平均と比べて数値が上回っており、これらはキャリア教育を核とした人づくりの推進による成果であると捉えています。



課 題

○キャリア教育の周知と企業や地域と連携したキャリア教育の実践

- ・ キャリア教育で育てたい力の周知について、保護者の数値は上昇しているものの、約4割程度と低い状況となっています。一方で、学校運営協議会委員などの地域の回答は9割以上と高い数値となっています。キャリア教育の定義などについて分かりやすい言葉で保護者へ説明していくことが大切です。
- ・ 「キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか」の項目では、中学生も8割以上となっており、小中学生ともにキャリア教育を肯定的に捉え、意欲的に取り組む姿勢があることが伺えます。今後は、子供たちの将来の夢や目標の設定、進路選択の後押しとなるよう、企業や地域と連携した実践的なキャリア教育をより一層充実させていくことが求められます。

政策 2

夢と希望を持ち続ける子供を育てます

施策 2-1 郷土愛や「やらまいか精神」の醸成

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

自分が住んでいるまち(地域)が好きな子供の割合	R6 年度 95%	R6 年度 ➡ 93.8%
住んでいる地域の行事に参加している子供の割合	R6 年度 80%	R6 年度 ➡ 65.0%
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している子供の割合	R6 年度 80%	R6 年度 ➡ 71.8%

■2-1-1 特色ある園・学校づくりの推進

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
市立小中学校の特色ある学校づくりに向けた取組への支援	A	教育総務課
市立幼稚園の特色ある園づくりに向けた取組への支援	A	幼保運営課

■2-1-2 郷土を愛する子供の育成

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
市内企業による学校訪問講義の実施（48 校）	A	教育総務課 産業振興課
中学生の代表者による「中学生未来議会」の開催	A	広聴広報課
都市部の小学校等と中山間地域住民との交流を含めた体験活動の実施（7 校）	A	市民協働・地域政策課
市内外の企業等による、講話及び浜松ゆかりの芸術家による講話の実施	A	市立高等学校
市民団体への無形民俗文化財継承活動に係る学校との連絡調整等の支援、新規活動希望校への情報提供及び小学生向け映像コンテンツの作成・公開	A	文化財課
小中学校への無形民族文化材継承活動に係る情報提供、市民団体との連絡調整等の支援、活動状況の調査	A	文化財課
社会情勢の変化に対応した活動についての助言・情報提供	A	文化財課

《学 校の取組》

(2)「郷土愛や『やらまいか精神』の醸成」を図るために、どのような取組をしていますか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全 体				小 学 校				中 学 校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
地域住民と連携した体験活動 (例 農業体験等)	65.3	76.4	79.2	13.9	67.7	80.2	82.3	14.6	60.4	68.8	72.9	12.5
地元企業や大学等と連携した体験活動 (例 ものづくり、プログラミング教育等)	41.7	47.9	52.8	11.1	42.7	53.1	57.3	14.6	39.6	37.5	43.8	4.2
地域の伝統芸能・伝統行事の体験や継承活動 (例 神楽、おくない、田楽等)	19.4	29.9	31.3	11.9	18.8	31.3	30.2	11.4	20.8	27.1	33.3	12.5
浜松市への理解や関心を高める講座の実施 (例 人づくりネットワークの講座等)	51.4	53.5	56.3	4.9	55.2	64.6	59.4	4.2	43.8	31.3	50.0	6.2
地域に貢献する活動 (例 奉仕作業、クリーン作戦等)	36.1	41.7	34.0	△2.1	21.9	29.2	24.0	2.1	64.6	66.7	54.2	△10.4
その他	6.3	4.9	2.8	△3.5	7.3	7.3	3.1	△4.2	4.2	0	2.1	△2.1

《教職員への調査》

8 子供が地域の魅力を発見する、または、地域の将来を考える機会を設けている

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	79.3	76.3	81.4	82.0	82.8	3.5
小学校	81.4	77.9	82.7	83.3	82.9	1.5
中学校	75.7	73.5	79.1	79.8	82.6	6.9

9 子供が難しいことでも失敗を恐れず挑戦することができるよう支援している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	96.5	96.9	97.2	97.0	97.0	0.5
小学校	97.5	98.0	97.9	97.4	98.0	0.5
中学校	94.7	95.0	96.0	96.2	95.2	0.5

《児童生徒への調査》

7 自分が住んでいるまち(地域)は好きですか

成果指標 R6 年度 **95%**

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	92.7		92.6		92.8		0.1
	小学校	4年	93.9	5年	93.6	6年	93.9	0
	中学校	1年	91.5	2年	91.5	3年	91.6	0.1
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	94.0		93.3		93.8		△0.2
	小学校	4年	94.7	5年	94.3	6年	94.5	△0.2
	中学校	1年	93.2	2年	92.0	3年	93.0	△0.2
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	1.3		0.7		1.0		
	小学校	0.8		0.7		0.6		
	中学校	1.7		0.5		1.4		

8 住んでいる地域の行事に参加していますか

成果指標 R6 年度 **80%**

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	77.7		66.9		59.9		△17.8
	小学校	4年	81.2	5年	70.9	6年	64.2	△17.0
	中学校	1年	74.1	2年	62.8	3年	55.5	△18.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	62.4		63.0		65.0		2.6
	小学校	4年	65.5	5年	68.0	6年	70.2	4.7
	中学校	1年	58.9	2年	56.9	3年	58.9	0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△15.3		△3.9		5.1		
	小学校	△15.7		△2.9		6.0		
	中学校	△15.2		△5.9		3.4		

9 難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか

成果指標 R6 年度 80%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	73.0		70.0		69.1		△3.9
	小学校	4年	76.1	5年	72.4	6年	70.0	△6.1
	中学校	1年	70.0	2年	67.7	3年	68.2	△1.8
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	73.0		70.7		71.8		△1.2
	小学校	4年	77.5	5年	75.4	6年	74.7	△2.8
	中学校	1年	67.8	2年	65.0	3年	68.4	0.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0		0.7		2.7		
	小学校	1.4		3.1		4.7		
	中学校	△2.2		△2.7		0.2		

《保護者への調査》

3 住んでいる地域の行事に参加するよう、お子さんを促していますか (単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	71.7		67.1		66.7		△5.0
	小学校	4年	72.7	5年	68.9	6年	69.2	△3.5
	中学校	1年	70.8	2年	65.2	3年	64.4	△6.4
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	63.0		62.9		66.2		3.2
	小学校	4年	64.4	5年	65.9	6年	70.0	5.6
	中学校	1年	61.3	2年	59.6	3年	61.9	0.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△8.7		△4.2		△0.5		
	小学校	△8.3		△3.0		0.8		
	中学校	△9.5		△5.6		△2.5		

4 難しいことでも失敗を恐れず挑戦することができるようお子さんを認め励ましていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	94.8		94.5		94.2		△0.6
	小学校	4年	95.6	5年	95.2	6年	95.0	△0.6
	中学校	1年	94.0	2年	93.8	3年	93.6	△0.4
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	94.5		93.6		93.7		△0.8
	小学校	4年	94.7	5年	94.4	6年	94.3	△0.4
	中学校	1年	94.1	2年	92.7	3年	93.2	△0.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.3		△0.9		△0.5		
	小学校	△0.9		△0.8		△0.7		
	中学校	0.1		△1.1		△0.4		



成 果

○地域や企業と連携した体験活動の実施

- ・ 学校の取組では、令和２年度と比較すると、６つ項目のうち４つの項目で数値が上昇しました。特に、地域住民と連携した体験活動、地域企業や大学等と連携した体験活動、地域の伝統芸能・伝統行事の体験や継承活動は、10Pt 以上の上昇が見られました。
- ・ 本年度は、中学校における市への理解や関心を高める講座の実施において、前年度より約 19Pt の上昇しました。
- ・ コミュニティ・スクールの導入によって、学校と地域の連携・協働体制が構築されたことにより、地域人材を活用した体験活動や地元企業と連携した体験活動の充実が図られ、学校が積極的に取り組んでいる状況が確認できました。

○郷土愛の醸成

- ・ 教職員への調査では、地域の魅力を発見する機会や地域の将来を考える機会の設定に関する項目において、令和２年度から約８割を維持できており、中学校では令和２年度より約 7Pt の上昇が見られました。
- ・ 児童生徒への調査では、本年度も９割以上が「自分の住んでいるまち（地域）は好きである」との回答が得られ、グループ１を含めて９割以上を維持できています。また、「住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問では、前年度と比較して小学校で約 5Pt の上昇が見られました。
- ・ コロナ禍を経て、地域行事へ参加する機会の増加や学校における地域・企業と連携した体験活動が充実したことにより、地域に愛着をもった子供が継続して育まれている状況が確認できました。



課 題

○地域に貢献する活動の実施

- ・ 地域に貢献する活動の実施が、令和２年度との比較で約 2Pt、前年度との比較では約 8Pt 低下しています。特に中学校では 10Pt 以上の低下が見られました。地域に貢献する活動を通じて、地域とのつながりが深まるとともに、地域に貢献していると感じられることで子供自身の成長にもつながることから、取組の充実が望まれます。

○「やamaiか精神」の醸成

- ・ 「難しいことでも失敗を恐れず挑戦できるよう認め励ましている（支援している）」と回答した教職員、保護者の数値は継続して９割を超えていますが、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」と回答した子供の数値は約 7 割にとどまっています。
- ・ これまで、年齢が上がるにつれて減少傾向にあった数値が、中学生は前年度より約 3Pt 上昇していることから、今後も保護者と教員が連携しながら、子供が主体的に目標を設定し、例え失敗したとしても自己調整しながら粘り強く挑戦し続けることができるよう、伴走支援していくことが大切です。

政策 3

これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供を育てます

施策 3-1 確かな学力の育成

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

自分が決めたことは最後までやり遂げるようにしている子供の割合

R6 年度 90% R6 年度 → 85.8%

自分で計画を立てて勉強している子供の割合

R6 年度 75% R6 年度 → 61.1%

■3-1-1 これからの社会に必要な学力の育成

《関係 課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
計画訪問における、「教職員版 はままつの教育」等を活用した指導・支援	A	教育センター
計画訪問や研修会における、「全国学力・学習状況調査」や「浜松市学力調査」の結果分析に基づいた指導・助言	A	教育センター
計画訪問や研修会における、『家庭学習の手引き 参考資料』を活用した家庭学習の啓発	A	教育センター
子供の学力向上や喫緊の課題を解決するための指定教育研究校の指定・支援	A	教育センター
校内研修の充実を図るための研修の実施（2回）	A	教育センター
各教科等の授業づくりの方法について担当指導主事から学ぶ研修（希望）を実施	A	教育センター
小学校を対象とした移動博物館の実施（9校）	S	博物館
小中学校の教材利用件数（82件）	A	博物館
「学習支援パック」に関する資料貸出（9,022冊）	B	中央図書館
「授業支援カード」による貸出資料の質の向上	A	中央図書館

《学 校の取組》

(3) 確かな学力を育成するために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、指導力向上のための授業研究の実施	93.8	97.2	97.9	4.1	93.8	97.9	99.0	5.2	93.8	95.8	95.8	2.0
子供や保護者に対する、家庭学習の啓発	62.5	70.1	74.3	11.8	72.9	80.2	82.3	9.4	41.7	50.0	58.3	16.6
各種調査結果の分析	31.3	78.5	76.4	45.1	26.0	78.1	79.2	53.2	41.7	79.2	70.8	29.1
貸出教材等の活用	20.8	31.3	28.5	7.7	26.0	43.8	36.5	10.5	10.4	6.3	12.5	2.1
外部人材の活用	60.4	72.2	68.1	7.7	70.8	82.3	78.1	7.3	39.6	52.1	47.9	8.3
「はままつの教育」の活用（校内研修での活用）	28.5	62.5	46.5	18.0	24.0	64.6	50.0	26.0	37.5	58.3	39.6	2.1
その他	9.0	1.4	0	△9.0	9.4	1.0	0	△9.4	8.3	2.1	0	△8.3

《教職員への調査》

10 自分で決めた時間に(自分で計画を立てて)勉強するよう子供に指導している

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	85.4	83.0	81.9	81.9	81.7	△3.7
小学校	83.5	80.7	79.9	79.8	80.0	△3.5
中学校	89.0	86.7	85.2	85.4	84.8	△4.2

11 教科の学習や特別活動において、子供が決めたことを最後までやり遂げられるよう支援している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	97.7	97.4	97.6	97.1	97.5	△0.2
小学校	98.3	97.8	98.2	97.5	97.9	△0.4
中学校	96.6	96.7	96.6	96.5	96.8	0.2

12 (単元や1時間の授業において)子供にとって切実感や必要感のある学習課題を設定するようにしている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	93.8	94.0	94.4	93.9	95.0	1.2
小学校	95.1	94.8	95.7	94.8	95.7	0.6
中学校	91.5	92.7	92.1	92.6	93.9	2.4

13 子供が学習の見通しをもって粘り強く取り組んだり、自己の学習活動を振り返って次につなげたりできるように、学習過程を工夫している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	95.3	95.3	95.9	95.8	95.4	0.1
小学校	95.9	95.7	96.3	96.0	96.1	0.2
中学校	94.3	94.7	95.2	95.7	94.2	△0.1

14 子供同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、子供が自己の考えを広げ深めることができるように、学習過程を工夫している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	86.1	86.1	89.0	88.8	89.2	3.1
小学校	95.9	95.7	96.3	96.0	90.1	△5.8
中学校	83.5	86.0	87.5	87.2	87.6	4.1

15 子供が、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせられるように、学習過程を工夫している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	91.7	93.1	92.8	92.6	92.6	0.9
小学校	90.9	92.3	92.7	92.3	92.7	1.8
中学校	93.2	94.4	93.1	93.1	92.4	△0.8

《児童生徒への調査》

10 自分で決めた時間に勉強していますか(自分で計画を立てて勉強していますか)

成果指標 R6 年度 75%

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	63.4		59.9		58.8		△4.6
	小学校	4年	66.2	5年	66.5	6年	63.4	△2.8
	中学校	1年	60.6	2年	53.1	3年	54.0	△6.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	65.5		56.4		61.1		△4.4
	小学校	4年	68.1	5年	61.9	6年	63.0	△5.1
	中学校	1年	62.5	2年	49.9	3年	59.0	△3.5
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	2.1		△3.5		2.3		
	小学校	1.9		△4.6		△0.4		
	中学校	1.9		△3.2		5.0		

11 自分で決めたことは最後までやりとげるようにしていますか

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	82.6		83.8		83.9		1.3
	小学校	4年	82.5	5年	83.1	6年	83.5	1.0
	中学校	1年	82.7	2年	84.4	3年	84.4	1.7
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	83.3		84.1		85.8		2.5
	小学校	4年	84.4	5年	85.6	6年	86.8	2.4
	中学校	1年	82.1	2年	82.2	3年	84.6	2.5
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.7		0.3		1.9		
	小学校	1.9		2.5		3.3		
	中学校	△0.6		△2.2		0.2		

12 授業では、課題の解決に向けてねばり強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	77.8		75.7		78.6		0.8
	小学校	4年	80.0	5年	78.0	6年	78.7	△1.3
	中学校	1年	75.5	2年	73.4	3年	78.5	3.0
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	77.4		74.9		79.6		2.2
	小学校	4年	79.8	5年	77.9	6年	79.2	△0.6
	中学校	1年	74.6	2年	71.4	3年	80.1	5.5
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.4		△0.9		1.0		
	小学校	△0.2		△0.1		0.5		
	中学校	△0.9		△2.0		1.6		

13 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	82.4		82.6		85.6		3.2
	小学校	4年	81.7	5年	79.9	6年	83.2	1.5
	中学校	1年	83.1	2年	85.4	3年	88.0	4.9
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	82.6		82.3		87.9		5.3
	小学校	4年	81.3	5年	80.7	6年	85.9	4.6
	中学校	1年	84.2	2年	84.2	3年	90.3	6.1
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.2		△0.3		2.3		
	小学校	△0.4		0.8		2.7		
	中学校	1.1		△1.2		2.3		

《保護者への調査》

5 お子さんが決めた時間に(自分で計画を立てて)勉強に取り組めるよう、認め励ましていますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.6		83.9		84.2		△1.4
	小学校	4年	86.1	5年	84.3	6年	82.6	△3.5
	中学校	1年	85.1	2年	83.5	3年	85.6	0.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	83.4		81.8		84.6		1.2
	小学校	4年	83.4	5年	81.4	6年	82.2	△1.2
	中学校	1年	83.3	2年	82.3	3年	87.3	4.0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△2.2		△2.1		0.4		
	小学校	△2.7		△2.9		△0.4		
	中学校	△1.8		△1.2		1.7		

6 お子さんが決めたことを最後までやり遂げられるよう認め励ましていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	95.3		94.7		95.0		△0.3
	小学校	4年	95.6	5年	95.5	6年	95.8	0.2
	中学校	1年	95.0	2年	93.8	3年	94.3	△0.7
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	94.4		93.7		94.0		△0.4
	小学校	4年	94.6	5年	94.5	6年	94.7	0.1
	中学校	1年	94.0	2年	92.8	3年	93.3	△0.7
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.9		△1.0		△1.0		
	小学校	△1.0		△1.0		△1.1		
	中学校	△1.0		△1.0		△1.0		



成 果

○「主体的・対話的で深い学び」の着実な実践

- ・ 学校の取組や教職員への調査では、授業研究の実施や学習過程の工夫など、授業改善に関する項目において、令和2年度から高い数値を維持しています。
- ・ 児童生徒への調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか」の項目において、小学生では8割以上、中学生では9割と高い数値を維持しており、前年度と比較して5Pt 以上上昇しました。
- ・ この結果から、子供の協働的な学びの意義や目的に対する理解につながっていることが分かります。学びの質を高めていく土壌が育ってきている中、今後も、授業改善を推進していくことで、改善の成果がより顕著に表れてくると考えます。

○決めたことを最後までやり遂げる力の定着

- ・ 「自分で決めたことは最後までやり遂げるようにしている」と回答した子供が、引き続き8割以上と高い数値を維持できており、今年度はこれまでに最も高い数値となりました。
- ・ 教職員と保護者の支援・声掛けはもとより、子供たち自身に物事を最後までやり遂げる力が身に付いており、年齢を重ねるごとにその意識が高まっていることが確認できました。



課 題

○家庭学習の在り方

- ・ 今回の調査結果から、授業改善が進んでいる一方、子供の家庭学習への指導に関する項目（学校の取組「子供や保護者に対する、家庭学習の啓発」、教職員への調査「自分で決めた時間に（自分で計画を立てて）勉強するよう子供に指導している」）や子供の家庭学習の実態に関する項目（児童生徒への調査「自分で決めた時間に勉強していますか（自分で計画を立てて勉強していますか）」）が、他の項目と比較して数値が低いことが見てとれます。
- ・ 子供が自ら学びに向かっていくには、自ら目標を定めたり、取組を振り返って計画を見直したり、粘り強く取り組んだりと様々な要素が必要です。家庭学習をするのであれば何を求めるのか、どのように取り組むことが必要なのかを、学校や教員が共通理解のもと啓発・支援していくことで、子供の学びが質的にも向上していくと考えます。

○各種調査結果の利活用の促進



- ・ 学校の取組では、「各種調査結果の分析」の数値が前年度と比較して約2Pt 低下しました。データの利活用は今後求められる重要な観点であり、分析の意義や方法、タイミング等を教育委員会から学校に発信したり、分析に基づいた指導・助言を行ったりするなど、支援の充実が求められます。

施策 3-2 グローバル社会で活躍できる人材の育成

※R6年度数値…G2全体の数値

成果指標

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う子供の割合

 R6 年度 70% R6 年度 → **77.4%** 

日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う子供の割合

 R6 年度 75% R6 年度 → **80.7%** 

■3-2-1 外国語教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
小中高等学校への ALT 配置	A	教育センター
ALT (JET) の指導力向上のための研修の実施 (月 1 回)	A	教育センター
小中学校教員を対象とした希望研修の実施 (年 1 回)	A	教育センター
小中学校からの要請による外国語教育に関する校内研修支援の実施	—	教育センター

《学 校の取組》

(4) 外国語教育の充実のために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
「聞く・読む・話す・書く」の 4 技能をバランスよく育成するための、指導力向上を目指した校内研修の実施	42.4	45.1	38.9	△3.5	34.4	34.4	28.1	△6.3	58.3	66.7	60.4	2.1
ALT と連携した授業構想の工夫	93.8	98.6	99.3	5.5	93.8	97.9	99.0	5.2	93.8	100.0	100.0	6.2
外国人との交流、または、外国の文化に触れる機会の設定	11.1	25.0	22.9	11.8	10.4	28.1	21.9	11.5	12.5	18.8	25.0	12.5
その他	9.7	2.1	4.2	△5.5	11.5	3.1	5.2	△6.3	6.3	0	2.1	△4.2

《教職員への調査》

16 自国の文化及び異文化に対する理解を深める機会を設けている

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	76.4	76.3	74.7	76.3	74.7	△1.7
小学校	78.4	77.7	76.1	76.9	75.5	△2.9
中学校	72.8	74.0	72.1	75.2	73.3	0.5

《児童生徒への調査》

14 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか

成果指標 R6 年度 70%

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	74.2		73.3		74.0		△0.2
	小学校	4年	74.5	5年	74.2	6年	73.4	△1.1
	中学校	1年	73.8	2年	72.3	3年	74.7	0.9
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	75.4		73.6		77.4		2.5
	小学校	4年	75.3	5年	75.8	6年	77.8	2.5
	中学校	1年	75.5	2年	71.0	3年	77.1	1.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	1.2		0.3		3.4		
	小学校	0.8		1.6		4.4		
	中学校	1.7		△1.3		2.4		

15 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか

成果指標 R6 年度 75%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	80.7		79.0		77.6		△3.1
	小学校	4年	82.5	5年	83.1	6年	81.0	△1.5
	中学校	1年	78.9	2年	74.7	3年	74.0	△4.9
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	81.0		78.6		80.7		△0.3
	小学校	4年	82.4	5年	83.5	6年	82.2	△0.2
	中学校	1年	79.4	2年	72.6	3年	79.0	△0.4
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.3		△0.4		3.1		
	小学校	△0.1		0.4		1.2		
	中学校	0.5		△2.1		5.0		



成 果

○成果指標の達成

- ・ 2つの成果指標（児童生徒への調査「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」の肯定的回答割合）について、5年間継続して指標を達成することができ、両項目ともに目標値を5Pt以上超えている状況です。こうした子供の意識を的確にとらえ、グローバルな意識や多様性に対する理解をさらに深めていくことが重要です。

○外国語指導助手（A L T）との連携

- ・ 学校の取組では、「A L Tと連携した授業構想の工夫」について、小中学校のほぼ全校で実施されています。教育活動におけるA L Tとの役割分担や効果的な活用について、どの学校にも根付いてきているものと考えられます。



課 題

○グローバル社会で活躍できる人材の育成に向けた取組の分析

- ・ 2つの成果指標が達成でき、「A L Tと連携した授業構想の工夫」の数値は高いものの、学校の取組における校内研修や、外国の文化に触れる機会の設定については、2割から3割と低い数値にとどまっています。
- ・ どのような教育活動や授業の実施が効果的であるのか、学校の取組や教職員の調査項目以外の観点から分析し、好事例を把握、展開していく必要があります。



施策 3-3 情報社会を生きる能力の育成

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

インターネットやゲームをするときの(情報をやり取りするときの)ルールやマナーを守ることができる子供の割合

R6 年度 100% R6 年度 → 94.9%

自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができる子供の割合

R6 年度 70% R6 年度 → 80.5%

■3-3-1 情報活用能力の育成

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
情報活用能力育成に関する情報発信	A	教育施設課 (ICT 教育推進)
「学校別 ICT 連絡シート」の配信	A	教育施設課 (ICT 教育推進)
授業における ICT 機器の効果的な活用やプログラミング教育に関する指導	A	教育センター
プログラミング教育、授業における ICT 活用、情報モラルに関する教職員向け研修の実施	S	教育センター
小中学校からの要請による情報教育に関する校内研修の支援	A	教育センター
授業等における一人一台端末の積極的な活用に向けた教職員研修等の実施 (全4回)	A	市立高等学校
小中学校からの要望による情報モラル講座の実施	A	青少年育成センター

《学 校の取組》

(5) 情報社会を生きる能力を育成するために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
教員の ICT 活用指導力向上をねらいとした校内研修の実施	93.1	96.5	95.8	2.7	90.6	95.8	96.9	6.3	97.9	97.9	93.8	△4.1
プログラミング教育の実施	30.6	47.9	41.0	10.4	38.5	54.2	45.8	7.3	14.6	35.4	31.3	16.7
情報モラル教育の実施	63.2	94.4	91.7	28.5	58.3	95.8	90.6	32.2	72.9	91.7	93.8	20.9
その他	4.9	1.4	1.4	△3.5	5.2	2.1	2.1	△3.1	4.2	0	0	△4.2

(6) 情報モラルへの意識を向上させるために、どのような取組をしましたか(複数回答)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
教職員を対象とした校内研修の実施	56.9	69.4	73.6	16.7	54.2	69.8	75.0	20.8	62.5	68.8	70.8	8.3
児童生徒を対象とした講座等の実施	62.5	83.3	84.0	21.5	59.4	80.2	81.3	21.9	68.8	89.6	89.6	20.8
保護者を対象とした講座等の実施、または、たより等による啓発	46.5	47.9	47.9	1.4	44.8	50.0	46.9	2.1	50.0	43.8	50.0	0
その他	6.9	3.5	2.8	△4.1	7.3	4.2	3.1	△4.2	6.3	2.1	2.1	△4.2

《教職員への調査》

17 「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている

(単位:％、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R3
全体	－	70.3	70.4	71.2	72.5	2.2
小学校	－	74.8	75.3	76.0	76.9	2.1
中学校	－	62.5	62.0	63.2	64.9	2.4

18 教科指導において、単元の中で計画的に子供がタブレット型端末を活用する授業を実施している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R3
全体	－	69.7	80.2	84.0	85.3	15.6
小学校	－	80.0	87.1	89.4	88.6	8.6
中学校	－	52.2	68.3	74.7	79.4	27.2

19 調べたことをまとめるときは、収集した情報の中から目的に合ったものを選んで使うよう子供に指導している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	89.4	84.6	87.2	87.9	87.7	△1.7
小学校	89.9	85.4	87.0	87.1	86.9	△3.0
中学校	88.4	83.4	87.6	89.3	89.0	0.6

20 インターネットやゲームをするときの(情報をやり取りするときの)ルールやマナーについて日常的に子供に指導している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	86.2	85.8	86.1	86.3	87.4	1.2
小学校	86.3	88.6	88.5	88.8	89.5	3.2
中学校	86.0	80.9	82.0	82.2	83.9	△2.1

21 情報モラルについて、子供にわかりやすく指導している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	89.0	90.1	90.7	90.7	91.5	2.5
小学校	88.7	91.3	91.9	91.3	92.1	3.4
中学校	89.6	88.2	88.5	89.8	90.3	0.7

22 授業において、ICT支援員(R6:校務アシスタント)を活用している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	－	60.0	59.0	56.9	25.4	－
小学校	－	70.2	65.8	62.9	24.9	－
中学校	－	42.6	47.1	46.7	26.2	－

23 ICT支援員による支援は、子供の学びの充実につながっている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	－	85.8	87.4	87.2	－	－
小学校	－	91.7	91.5	91.8	－	－
中学校	－	75.9	80.3	79.4	－	－

《児童生徒への調査》

16 タブレット型端末(タブレット)を使う授業はわかりやすいと思いますか

(単位:％、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4－R2
	全体	91.1		90.4		88.0		△3.1
	小学校	4年	89.4	5年	90.9	6年	89.8	0.4
	中学校	1年	92.8	2年	89.8	3年	86.1	△6.7
G2	区分	R4		R5		R6		R6－R4
	全体	88.0		87.7		88.9		0.9
	小学校	4年	91.2	5年	91.1	6年	89.7	△1.5
	中学校	1年	84.4	2年	83.7	3年	87.8	3.4
差	区分	G2－G1		G2－G1		G2－G1		
	全体	△3.1		△2.7		0.9		
	小学校	1.8		0.2		△0.1		
	中学校	△8.4		△6.1		1.7		

17 自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができますか

成果指標 R6 年度 70%

G1	区分	R2		R3		R4		R4－R2
	全体	68.9		75.3		81.0		12.1
	小学校	4年	66.1	5年	73.7	6年	81.6	15.5
	中学校	1年	71.8	2年	76.8	3年	80.4	8.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6－R4
	全体	73.3		75.6		80.5		7.2
	小学校	4年	70.0	5年	74.5	6年	78.8	8.8
	中学校	1年	77.1	2年	76.9	3年	82.4	5.3
差	区分	G2－G1		G2－G1		G2－G1		
	全体	4.4		0.3		△0.5		
	小学校	3.9		0.8		△2.8		
	中学校	5.3		0.1		2.0		

18 インターネットやゲームをするときのルールやマナーを守ることができますか

成果指標 R6 年度 100%

G1	区分	R2		R3		R4		R4－R2
	全体	92.7		94.5		94.5		1.8
	小学校	4年	89.2	5年	91.0	6年	91.0	1.8
	中学校	1年	96.2	2年	98.0	3年	98.0	1.8
G2	区分	R4		R5		R6		R6－R4
	全体	93.9		93.8		94.9		1.0
	小学校	4年	91.0	5年	91.1	6年	92.2	1.2
	中学校	1年	97.1	2年	97.2	3年	98.2	1.1
差	区分	G2－G1		G2－G1		G2－G1		
	全体	1.2		△0.7		0.4		
	小学校	1.8		△0.1		1.2		
	中学校	0.9		△0.8		0.2		

19 情報を活用した場面(情報を集める・まとめる・発表する)を振り返り、次にやってみたいこと(よりよい活用方法)を考えることができましたか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		79.6		81.9		2.3
	小学校	4年	-	5年	74.7	6年	77.2	2.5
	中学校	1年	-	2年	84.6	3年	86.7	2.1
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	77.5		79.2		82.7		5.2
	小学校	4年	75.2	5年	75.7	6年	78.3	3.1
	中学校	1年	80.1	2年	83.7	3年	88.0	7.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	-		△0.4		0.3		
	小学校	-		1.0		1.1		
	中学校	-		△0.9		1.3		

《保護者への調査》

7 インターネットやゲームをする(情報をやり取りする)ときの、家庭内での使い方のルールをお子さんと決めていきますか (単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	87.0		85.6		83.7		△3.3
	小学校	4年	92.0	5年	90.3	6年	87.7	△4.3
	中学校	1年	82.2	2年	80.6	3年	80.0	△2.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	86.0		84.2		83.8		△2.2
	小学校	4年	89.6	5年	89.5	6年	88.3	△1.3
	中学校	1年	81.7	2年	78.4	3年	78.8	△2.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△1.0		△1.4		0.1		
	小学校	△2.4		△0.8		0.6		
	中学校	△0.5		△2.2		△1.2		

8 情報モラルについて、お子さんと話をすることがありますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	81.9		82.7		83.8		1.9
	小学校	4年	79.0	5年	81.9	6年	84.4	5.4
	中学校	1年	84.7	2年	83.5	3年	83.2	△1.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	80.3		81.4		85.0		4.7
	小学校	4年	77.3	5年	80.0	6年	85.0	7.7
	中学校	1年	83.9	2年	83.0	3年	84.9	1.0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△1.6		△1.3		1.2		
	小学校	△1.7		△1.9		0.6		
	中学校	△0.8		△0.5		1.7		



成 果

○情報モラル教育の推進

- ・ 学校の取組では、令和２年度以降急速に情報モラル教育の実施に関する数値が上昇し、９割以上の学校において情報モラル教育が実施されていることが確認できました。また、教職員を対象とした校内研修の実施や児童生徒を対象とした講座等の実施についても数値が上昇しており、情報モラル教育の推進が図られている状況が確認できました。
- ・ 教職員の情報モラルに関する日常的な指導や、分かりやすい指導に関する項目は高い数値を維持しており、ルールやマナーを守ることができる子供も、９割を超える数値を維持できていることから、教職員による日常的な分かりやすい指導の成果であると考えられます。
- ・ 保護者への調査では、項目によっては減少が見られるものもありますが、インターネットやゲームをするときのルール、情報モラルに係る子供との会話に関する項目については、継続して高い数値となっており、学校による啓発などによって保護者の意識も高く維持されていることが確認できました。

○子供のＩＣＴ活用能力の向上

- ・ 学校の取組では、ＩＣＴ活用指導力をねらいとした校内研修をほぼ全ての学校が実施していることが確認できました。また、児童生徒への調査では、「自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞などにまとめて発表することができる」「情報を活用した場面を振り返り、次にやってみたいことを考えることができる」と回答した子供の数値に上昇が見られ、ＩＣＴ活用能力が向上していることが確認できました。



課 題

○情報活用能力育成目標に基づく指導の実施

- ・ 教職員への調査では、「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている教職員の肯定的な割合は年々上昇していますが、約７割にとどまっています。
- ・ 浜松市教員育成指標では、子供の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するために「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて指導を行うとされていることから、全ての教員が「浜松市情報活用能力育成目標」を理解し、それに基づく指導を行うことができるような手立てが必要です。

○タブレット型端末の効果的な活用

- ・ 教職員の８割以上が、教科指導において計画的に子供がタブレット型端末を活用した授業を実施していることが確認できましたが、小学校と中学校では約９Ptの差が開いています。年々この差は小さくなってはいますが、タブレット型端末が授業に不可欠なものであるという認識をさらに高めていくことが必要です。また、授業の中で効果的な活用を図るため、教員のＩＣＴ活用指導力についても併せて高めていくことが重要となります。

「はままつ人づくり未来プラン 教育の情報化編」目標達成状況

1 情報活用能力の育成

- 自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞にまとめ発表することができる子供の割合

推進目標 R6 年度 70%

(単位: %、比較: Pt)

校種・年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 6 - R 2
小学校	66.1	73.7	81.6	74.5	78.8	12.7
中学校	71.8	76.8	80.4	76.9	82.4	10.6
全体	68.9	75.3	81.0	75.6	80.5	11.6

- インターネットやゲームするときのルールやマナーを守ることができる子供の割合

推進目標 R6 年度 100%

(単位: %、比較: Pt)

校種・年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 6 - R 2
小学校	89.2	91.0	91.0	91.1	92.2	3.0
中学校	96.2	98.0	98.0	97.2	98.2	2.0
全体	92.7	94.5	94.5	93.8	94.9	2.2

- 「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている教員の割合

推進目標 R6 年度 100%

(単位: %、比較: Pt)

校種・年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 6 - R 3
小学校	74.8	75.3	76.0	76.9	2.1
中学校	62.5	62.0	63.2	64.9	2.4
全体	70.3	70.4	71.2	72.5	2.2

2 教員に求められる ICT 活用指導力の向上

- 教科指導において単元の中で計画的に ICT を活用している教員の割合

推進目標 R6 年度 100%

(単位: %、比較: Pt)

校種・年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 6 - R 3
小学校	80.0	87.1	89.4	88.6	8.6
中学校	52.2	68.3	74.7	79.4	27.2
全体	69.7	80.2	84.0	85.3	15.6

- 「授業に ICT を活用して指導する能力※」の調査項目に肯定的な回答をした教員の割合

推進目標 R6 年度 100%

(単位: %、比較: Pt)

校種・年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 5 - R 2
小学校	68.3	74.0	76.4	79.1	10.8
中学校	60.6	60.9	65.3	68.4	7.8
全体	65.4	69.1	72.2	75.1	9.7

※文科省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」

3 学校の ICT 環境整備

- 児童生徒へのタブレット型端末 1 人 1 台整備

推進目標 R4 年度 100% R3 年度に達成

- インターネットアクセス回線 (1 Gbps 程度) の整備

推進目標 R2 年度 100% R2 年度に達成

4 教育情報セキュリティの確保

- 情報漏洩等の教育情報セキュリティ事故


推進目標 各年度 0 件 R6 年度 0 件

施策 3-4 持続可能な社会実現のための教育

※R6年度数値…G2全体の数値

成果指標

地域や社会をよりよくすることを考えることがある子供の割合

R6 年度 70% R6 年度 → 69.2% 

■3-4-1 持続可能な社会の担い手づくりの推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R6 年度 取組内容	評価	担当
計画訪問や研修会等における、持続可能な社会づくりの視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の実施支援	A	教育センター
高校生の視点から浜松市の SDGs に関する政策に係る協議・政策提言の実施	A	市立高等学校
環境学習プログラム「E スイッチプログラム」を受講した子供の数 (6,561 人)	-	環境政策課
エシカル消費等に関する出前講座の実施 (59 回)、消費者教育教材の活用促進	A	くらしのセンター
小中学校に対して、UD に関する出前講座等を実施 (実施率 68.8%)	S	UD・男女共同参画課
小学校 4 年生に対する UD 啓発冊子の配布、中学生向け UD 啓発電子書籍を WEB サイトに掲載するとともに利用の呼びかけ	A	UD・男女共同参画課
学校等への「こらぼ講座」(男女共同参画に関する講座)講師の派遣 (17 校)	A	UD・男女共同参画課
生涯学習施設における地域を活用した「子ども講座」実施 (290 講座を計画)	-	創造都市・文化振興課
こどもモットイナイ大作戦事業の実施 (小学生参加率約 38%)	B	一般廃棄物対策課
地域特化型電子書籍アーカイブサイト「Shizuoka ebooks」及び「はままつ電子図書」内に令和 6 年度版社会科副読本を掲載	A	一般廃棄物対策課

《学 校の取組》

(7) SDGsやESDを推進するために、どのような学習に取り組みましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
環境学習	68.8	87.5	83.3	14.5	80.2	96.9	94.8	14.6	45.8	68.8	60.4	14.6
エネルギー学習	9.7	25.7	21.5	11.8	7.3	24.0	16.7	9.4	14.6	29.2	31.3	16.7
国際理解学習	17.4	35.4	31.3	13.9	17.7	35.4	31.3	13.6	16.7	35.4	31.3	14.6
防災学習	59.0	75.7	81.3	22.3	55.2	67.7	77.1	21.9	66.7	91.7	89.6	22.9
世界遺産や地域の文化財等に関する学習	27.1	34.7	31.9	4.8	29.2	34.4	28.1	1.1	22.9	35.4	39.6	16.7
平和学習	9.7	27.1	19.4	9.7	7.3	28.1	11.5	4.2	14.6	25.0	35.4	20.8
その他	8.3	4.2	4.2	△4.1	6.3	4.2	4.2	△2.1	12.5	4.2	4.2	△8.3

《教職員への調査》

24 単元構想の中に、地域や社会をよりよくするための視点を取り入れている (単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	64.9	64.4	65.1	65.4	61.2	△3.7
小学校	66.3	66.3	67.5	68.1	63.1	△3.2
中学校	62.4	61.0	61.1	60.8	57.9	△4.5

《児童生徒への調査》

20 地域や社会をよりよくすることを考えることがありますか

成果指標 R6 年度 **70%**

(単位: %、比較: Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	70.1		69.4		66.7		△3.4
	小学校	4年	70.1	5年	74.4	6年	69.9	△0.2
	中学校	1年	70.2	2年	64.2	3年	63.5	△6.7
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	70.5		66.2		69.2		△1.3
	小学校	4年	73.9	5年	71.5	6年	71.2	△2.7
	中学校	1年	66.4	2年	59.8	3年	66.7	0.3
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.4		△3.2		2.5		
	小学校	3.8		△2.9		1.3		
	中学校	△3.8		△4.4		3.2		

《保護者への調査》

9 地域社会をよりよくすることについて、お子さんと話をすることがありますか (単位: %、比較: Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	53.5		54.4		56.1		2.6
	小学校	4年	51.4	5年	54.7	6年	57.0	5.6
	中学校	1年	55.5	2年	54.1	3年	55.2	△0.3
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	50.4		50.8		55.0		4.6
	小学校	4年	50.6	5年	50.0	6年	55.2	4.6
	中学校	1年	50.1	2年	51.6	3年	54.9	4.8
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△3.1		△3.6		△1.1		
	小学校	△0.8		△4.7		△1.8		
	中学校	△5.4		△2.5		△0.3		



成 果

○地域をよりよくすることを考える子供の増加

- ・ 「地域や社会をよりよくすることを考えることがある」と回答した子供の割合は、前年度と比較すると小学校は大きな変化が見られないものの、中学校では約7Pt上昇し、本項目全体の数値を押し上げる要因となりました。環境、防災、UDなどの様々な学習内容に関する学校や各課の取組の成果の表れであると考えられます。
- ・ 「地域社会をよりよくすることについて、子供と話をすることがある」と回答した保護者の割合も、前年度と比較して小学校で約5Pt、中学校で約3Pt上昇し、家庭での継続的な声掛けがこどもの意識向上の一因となったことが伺えました。



課 題

○地域や社会をよりよくするための視点を取り入れた単元構想

- ・ 「単元構想の中に、地域や社会をよりよくするための視点を取り入れている」と回答した教員の割合は、小中学校ともに令和2年度の数値を下回りました。「地域や社会をよりよくする視点」は今後も重要であることから、学校に対して講座の周知や教材の活用を啓発するだけでなく、教職員の意識向上についても併せて取り組んでいく必要があると考えます。

○SDGsやESDを推進するための取組の偏り



- ・ 学校の取組状況を前年度と比較すると、防災学習に関する取組は増加していますが、それ以外の学習に関する取組は減少しています。また、小中学校ともに環境学習と防災学習の割合が全体で8割を超え、高い数値となっています。小中学校を通じて学習内容に偏りが無いよう工夫していくことが求められます。



施策 3-5 豊かな心の育成

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う子供の割合 R6 年度 100% R6 年度 ➡ 95.8%
 人が困っているときは、進んで助けている子供の割合  R6 年度 90% R6 年度 ➡ 90.3% 

■3-5-1 道徳教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
道徳教育に関する指導力向上研修の実施	A	教育センター
『はままつマナー』の活用について啓発	A	教育センター

■3-5-2 人権教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
各学校の管理職や人権教育担当者等に向け、人権に関する研修会を実施	A	教育センター
幼稚園・小中学校の保護者を対象として、地域ふれあい講座を実施	A	人権啓発センター
人権啓発絵本の作成及び幼稚園、小中学校などへの配付	A	人権啓発センター

■3-5-3 読書活動の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
必読図書等を含む学級文庫の設置促進及び活用への指導・助言	A	教育センター
読書活動推進に関する取組事例の紹介及び調べ学習コンクールの開催	A	教育センター
「学校図書館支援センターだより」の発行（4回）	A	中央図書館

■3-5-4 芸術に親しむ機会の提供

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
「子どもの市展」・「地下道ギャラリー」の開催	A	教育センター
中学校音楽発表会事業の実施（12校）及び小学校の音楽発表会の実施（97校）	A	教育センター
オーケストラ鑑賞教室「こんにちはオーケストラ」の開催	A	創造都市・文化振興課
小中学校や音楽団体への音楽指導者の派遣（年間 426 時間）	A	創造都市・文化振興課
展覧会ワークショップへの小中学生参加（年間 32 人）	S	美術館
ギャラリートーク（教育普及プログラム等ワークショップを含む）の実施（38回）	S	美術館

《学 校の取組》

(8) 子供の豊かな心を育成するために、どのような取組をしましたか(複数回答) (単位: %、比較: Pt 以下同じ)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
道徳教育に関する指導力向上のための校内研修の実施	46.5	56.3	45.1	△1.4	41.7	51.0	41.7	0	56.3	66.7	52.1	△4.2
「はままつマナー」を活用した指導実践	50.0	56.9	51.4	1.4	59.4	69.8	63.5	4.1	31.3	31.3	27.1	△4.2
いじめ対策に関する校内体制の整備	89.6	95.8	98.6	9.0	90.6	94.8	97.9	7.3	87.5	97.9	100.0	12.5
生徒指導、人権課題に関する教員研修への参加促進	36.8	59.7	66.7	29.9	37.5	59.4	57.3	19.8	35.4	60.4	85.4	50.0
人権教育講座の開催	4.9	16.7	20.1	15.2	6.3	17.7	21.9	15.6	2.1	14.6	16.7	14.6
読書活動推進に関する取組	75.7	81.3	80.6	4.9	80.2	87.5	90.6	10.4	66.7	68.8	60.4	△6.3
文化・芸術に触れる機会の設定	47.9	77.8	78.5	30.6	44.8	86.5	90.6	45.8	54.2	60.4	54.2	0
その他	9.7	2.8	4.9	△4.8	8.3	2.1	4.2	△4.1	12.5	4.2	6.3	△6.2

(9) いじめ対応への理解を深め、組織的な対応を促すためにどのような取組をしましたか(複数回答)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R4	R5	R6	R6-R4 比	R4	R5	R6	R6-R4 比	R4	R5	R6	R6-R4 比
いじめ防止基本方針を理解し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応について共通理解した	94.4	99.3	99.3	4.9	95.8	100.0	99.0	3.2	91.7	97.9	100.0	8.3
たよりや懇談会、学校運営協議会などの機会を活用して保護者や地域にもいじめ防止基本方針や、その取組及び対応を周知した	45.8	93.8	95.1	49.3	49.0	96.9	96.9	47.9	39.6	87.5	91.7	52.1
教育委員会主催の生徒指導研修等の内容について、校内でも周知を図った	81.9	92.4	88.9	7.0	89.6	91.7	91.7	2.1	66.7	93.8	83.3	16.6
定期的なアンケート等に記載された内容や子供や児童からの相談について、複数で確認し、対応を協議したり進捗状況を共有したりした	95.8	100.0	99.3	3.5	95.8	100.0	100.0	4.2	95.8	100.0	97.9	2.1
事例研究等いじめに関する研修を行い、未然防止・早期発見・早期対応の視点から成果と課題を明らかにし、改善点について話し合った	65.3	71.5	70.8	5.5	70.8	75.0	72.9	2.1	54.2	64.6	66.7	12.5
その他	2.1	2.8	1.4	△0.7	3.1	3.1	1.0	△2.1	0	2.1	2.1	2.1

《教職員への調査》

25 いじめはどんな理由があってもいけないことだと指導している (単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	99.8	99.7	99.8	99.5	99.6	△0.2
小学校	99.9	99.7	99.8	99.6	99.8	△0.1
中学校	99.6	99.6	99.9	99.4	99.4	△0.2

26 学校のいじめ防止基本方針を理解し、それに沿って行動するよう心掛けている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R4
全体	—	—	99.4	99.4	99.5	0.1
小学校	—	—	99.4	99.5	99.6	0.2
中学校	—	—	99.2	99.2	99.2	0

27 道徳科の授業等で、「はままつマナー」を活用して、命を大切にする心や規範意識について指導している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	75.4	72.6	68.6	70.5	68.2	△7.2
小学校	84.0	80.5	78.2	79.9	76.6	△7.4
中学校	60.3	59.1	52.2	54.3	53.8	△6.5

《児童生徒への調査》

21 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

成果指標 R6 年度 100%

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	96.4		96.6		95.4		△1.0
	小学校	4年	96.6	5年	96.4	6年	95.6	△1.0
	中学校	1年	96.2	2年	96.7	3年	95.2	△1.0
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	96.1		95.9		95.8		△0.3
	小学校	4年	96.0	5年	95.7	6年	95.2	△0.8
	中学校	1年	96.2	2年	96.1	3年	96.6	0.4
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.3		△0.7		0.4		
	小学校	△0.6		△0.7		△0.4		
	中学校	0		△0.6		1.4		

22 いじめなど困ったことがあった時、先生に相談しやすいですか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		-		67.7		18.4
	小学校	4年	-	5年	-	6年	66.6	22.8
	中学校	1年	-	2年	-	3年	68.8	13.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	66.9		63.8		72.5		5.6
	小学校	4年	68.9	5年	62.7	6年	70.1	1.2
	中学校	1年	64.5	2年	65.1	3年	75.4	10.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	-		-		4.8		
	小学校	-		-		3.5		
	中学校	-		-		6.6		

23 人が困っているときは、進んで助けていますか

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	89.5		89.9		90.5		1.0
	小学校	4年	87.9	5年	89.2	6年	89.3	1.4
	中学校	1年	91.2	2年	90.5	3年	91.8	0.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	89.9		88.8		90.3		0.4
	小学校	4年	89.1	5年	88.2	6年	89.3	0.2
	中学校	1年	90.8	2年	89.4	3年	91.4	0.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.4		△1.1		△0.2		
	小学校	1.2		△1.0		0		
	中学校	△0.4		△1.1		△0.4		

24 学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしていますか
(1時間以上の割合)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	15.3		13.5		13.4		△1.9
	小学校	4年	14.9	5年	15.4	6年	13.7	△1.2
	中学校	1年	15.6	2年	11.6	3年	13.0	△2.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	14.0		11.4		10.9		△3.1
	小学校	4年	15.4	5年	12.4	6年	10.8	△4.6
	中学校	1年	12.4	2年	10.2	3年	11.1	△1.3
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△1.3		△2.1		△2.5		
	小学校	0.5		△3.0		△2.9		
	中学校	△3.2		△1.4		△1.9		

【参考】G2：1時間未満の割合

区分	R4		R5		R6		R6-R4	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
30分～1時間	25.5	22.7	23.4	18.5	21.8	16.6	△3.7	△6.1
30分未満	37.3	35.0	36.8	34.9	36.3	32.0	△1.0	△3.0
全くしない	21.8	29.9	27.4	36.4	31.1	40.3	9.3	10.4

《保護者への調査》

10 相手の立場や気持ちを大切にした行動をするよう、お子さんに話をしていますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	98.3		98.0		97.7		△0.6
	小学校	4年	98.7	5年	98.4	6年	98.2	△0.5
	中学校	1年	97.9	2年	97.7	3年	97.2	△0.7
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	98.2		97.9		97.4		△0.8
	小学校	4年	98.3	5年	98.4	6年	98.2	△0.1
	中学校	1年	98.1	2年	97.3	3年	96.5	△1.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.1		△0.1		△0.3		
	小学校	△0.4		0		0		
	中学校	0.2		△0.4		△0.7		

11 命の大切さやきまりを守ることの必要性を、お子さんに話をしていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	98.5		98.4		97.9		△0.6
	小学校	4年	99.0	5年	98.5	6年	98.2	△0.8
	中学校	1年	98.0	2年	98.2	3年	97.5	△0.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	98.3		97.7		97.6		△0.7
	小学校	4年	98.3	5年	98.4	6年	98.3	0
	中学校	1年	98.3	2年	97.0	3年	96.8	△1.5
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.2		△0.7		△0.3		
	小学校	△0.7		△0.1		0.1		
	中学校	0.3		△1.2		△0.7		

12 いじめはどんな理由でもいけないことだと、お子さんに話していますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		-		97.4		-
	小学校	4年	-	5年	-	6年	97.9	-
	中学校	1年	-	2年	-	3年	97.0	-
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	97.4		97.8		97.9		0.5
	小学校	4年	96.9	5年	97.9	6年	98.7	1.8
	中学校	1年	98.0	2年	97.7	3年	96.7	△1.3
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	-		-		0.5		
	小学校	-		-		0.8		
	中学校	-		-		△0.1		

13 学校のいじめ防止基本方針を知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		-		42.8		-
	小学校	4年	-	5年	-	6年	42.2	-
	中学校	1年	-	2年	-	3年	43.4	-
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	40.3		45.1		57.1		16.8
	小学校	4年	40.4	5年	46.0	6年	58.0	17.6
	中学校	1年	40.2	2年	44.0	3年	56.1	15.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	-		-		14.3		
	小学校	-		-		15.8		
	中学校	-		-		12.7		

14 学校のいじめ防止等の取組(いじめについて考える授業や集会・いじめアンケートなど)を知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		-		67.2		-
	小学校	4年	-	5年	-	6年	67.1	-
	中学校	1年	-	2年	-	3年	67.3	-
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	67.8		70.0		76.9		9.1
	小学校	4年	69.1	5年	70.3	6年	78.6	9.5
	中学校	1年	66.3	2年	69.6	3年	75.1	8.8
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	-		-		9.7		
	小学校	-		-		11.5		
	中学校	-		-		7.8		

《地域住民への調査》

2 学校のいじめ防止基本方針を知っていますか

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R4
全体	-	-	72.8	90.9	93.6	20.8
小学校	-	-	71.3	90.9	94.6	23.3
中学校	-	-	75.6	90.8	90.7	15.1



成果

○いじめに対する組織的な対応

- ・本年度も、教職員、児童生徒、保護者ともに「いじめは絶対に許されない」という指導や認識が高い数値で維持できています。加えて、「いじめなど困ったことがあった時に先生に相談しやすいと感じている」「人が困っているときに進んで助けている」と回答した子供の割合が増加しています。
- ・いじめ防止基本方針についての理解に関して、教職員、地域住民への調査では9割を越え、保護者への調査では、年々数値の上昇が見られ、前年度より約12Pt上昇しています。これは、教職員の子供に寄り添った対応や学校のいじめ防止対策に関する取組の成果の表れであると考えられます。



課題

○いじめ防止基本方針の周知

- ・保護者への周知について、これまでの取り組みにより数値の上昇が確認出来ていますが、6割程度となっています。継続した周知が必要です。

○読書習慣の定着

- ・「学校の授業以外で1時間以上読書をしている」と回答した子供は、小中学校ともに約1割と低い数値であり、「全くしない」と回答した子供は、小中学校ともに年々増加しています。引き続き日常的な読書習慣の定着に向けて取り組んでいく必要があります。

施策 3-6 健やかな体の育成

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きな子供の割合

R6 年度 90% R6 年度 → 80.6%

体育の授業以外で、平均して1日に1時間以上体を動かす活動をしている子供の割合

R6 年度 70% R6 年度 → 34.4%

■3-6-1 健康教育の推進

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
教職員を対象とした学校保健に関する研修の実施（年1回）	A	健康安全課
がん教育に係る小中学校への外部講師派遣（14人）	A	健康安全課

■3-6-2 安全・安心な給食の提供

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
学校給食における地場産品（浜松産品12品目）の活用及び周知	—	健康安全課
給食調理場の施設点検の実施促進（月4回）	A	健康安全課
各調理場の衛生管理責任者による日頃の衛生管理の徹底促進	A	健康安全課

■3-6-3 食に関する指導の充実

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
学習指導要領に沿った食指導の実際についての研修会の実施（年3回）	A	健康安全課
朝食摂取啓発に関するリーフレットの配付と朝食摂取指導の啓発	A	健康安全課

■3-6-4 アレルギー対応の徹底

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
アレルギー対応委員会及び食物アレルギーに関する校内研修の実施促進	A	健康安全課
栄養教諭・学校栄養職員、養護教諭等を対象とした研修会での、食物アレルギーに関する研修の実施（全6回）	A	健康安全課
食物アレルギーに関する小中学校間の情報交換会の実施促進	A	健康安全課

■3-6-5 運動習慣の確立と体力の向上

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
計画訪問や研修会等における、「新体力テスト」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析に基づく指導	A	教育センター
体育科、保健体育科の教員を対象とした指導者研修会の実施	A	教育センター
計画訪問や研修会等における、体力向上に関する取組事例の紹介	A	教育センター
学校における課題克服に向けた取組表による、各校の取組状況の確認・指導	A	教育センター

《学 校の取組》

(10) 子供の健やかな体の育成のために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全 体				小 学 校				中 学 校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
学校保健に関する校内研修の実施	52.1	67.4	70.1	18.0	42.7	65.6	64.6	21.9	70.8	70.8	81.3	10.5
がん教育の実施	12.5	23.6	32.6	20.1	8.3	18.8	26.0	17.7	20.8	33.3	45.8	25.0
保護者・子供に対する朝食摂取率向上のための啓発	58.3	79.2	81.9	23.6	59.4	77.1	81.3	21.9	56.3	83.3	83.3	27.0
「食物アレルギー対応マニュアル」に基づく校内研修の実施	85.4	88.9	89.6	4.2	81.3	85.4	90.6	9.3	93.8	95.8	87.5	△6.3
健全な食生活を育む食育の実施	67.4	86.8	79.9	12.5	69.8	90.6	83.3	13.5	62.5	79.2	72.9	10.4
児童生徒の体力・運動能力の向上のための取組の実施(授業、部活動以外)	43.8	45.1	47.9	4.1	58.3	60.4	59.4	1.1	14.6	14.6	25.0	10.4
その他	6.9	2.1	0	△6.9	7.3	3.1	0	△7.3	6.3	0	0	△6.3

《教職員への調査》

28 運動することの必要性を子供に指導している

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全 体	90.5	90.4	89.2	89.1	89.6	△0.9
小学校	94.4	94.3	93.6	93.6	94.0	△0.4
中学校	83.6	83.6	81.5	81.5	82.2	△1.4

《児童生徒への調査》

25 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか

成果指標 R6 年度 90%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	84.0		81.0		78.9		△5.1
	小学校	4年	86.8	5年	81.7	6年	78.2	△8.6
	中学校	1年	81.1	2年	80.3	3年	79.6	△1.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	84.1		81.3		80.6		△3.5
	小学校	4年	86.8	5年	82.8	6年	80.5	△6.3
	中学校	1年	80.8	2年	79.5	3年	80.8	0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.1		0.3		1.7		
	小学校	0		1.1		2.3		
	中学校	△0.3		△0.8		1.2		

26 体育の授業以外で、平均して1日に1時間以上、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをしていますか (1時間以上の割合)

成果指標 R6 年度 70%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	55.6		53.6		29.3		△26.3
	小学校	4年	41.2	5年	39.4	6年	35.5	△5.7
	中学校	1年	70.0	2年	68.2	3年	23.0	△47.0
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	52.9		53.0		34.4		△18.5
	小学校	4年	42.6	5年	43.8	6年	41.4	△1.2
	中学校	1年	64.8	2年	64.1	3年	26.0	△38.8
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△2.7		△0.6		5.1		
	小学校	1.4		4.4		5.9		
	中学校	△5.2		△4.1		3.0		

【参考】G2:1時間未満の割合

区分	R4		R5		R6		R6-R4	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
30分～1時間	29.3	12.3	27.1	11.7	24.8	22.4	△4.5	10.1
30分未満	21.6	14.9	20.4	14.0	23.8	34.8	2.2	19.9
全くしない	6.5	8.0	8.7	10.2	10.0	16.8	3.5	8.8

27 食事のときは、好き嫌いをなく食べていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	78.0		81.2		81.7		3.7
	小学校	4年	76.6	5年	78.3	6年	80.1	3.5
	中学校	1年	79.4	2年	84.1	3年	83.4	4.0
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	79.3		80.7		81.6		2.3
	小学校	4年	78.7	5年	78.4	6年	80.5	1.8
	中学校	1年	80.0	2年	83.4	3年	82.9	2.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	1.3		△0.5		△0.1		
	小学校	2.1		0.1		0.4		
	中学校	0.6		△0.7		△0.5		

<参考>全国学力・学習状況調査			R1	R3	R4	R5	R6
朝食を毎日食べていますか	全国	小6	95.3	94.9	94.4	93.9	93.7
		中3	93.1	92.8	91.9	91.2	91.2
	本市	小6	96.4	95.7	96.3	95.8	94.9
		中3	95.3	94.2	94.4	93.6	93.3

※R2は中止

《保護者への調査》

15 心身の健康のため、できるだけ運動やスポーツをするようお子さんに働きかけていますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.6		84.5		80.7		△4.9
	小学校	4年	85.9	5年	84.8	6年	82.6	△3.3
	中学校	1年	85.3	2年	84.2	3年	79.0	△6.3
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	84.1		82.2		80.6		△3.5
	小学校	4年	83.8	5年	81.3	6年	82.2	△1.6
	中学校	1年	84.4	2年	83.3	3年	78.9	△5.5
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△1.5		△2.3		△0.1		
	小学校	△2.1		△3.5		△0.4		
	中学校	△0.9		△0.9		△0.1		

- 16 お子さんは、学校(部活動)が休みの日に、1日にどれくらい運動やスポーツをしていますか
(1時間以上の割合)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	24.0		23.7		20.9		△3.1
	小学校	4年	29.4	5年	28.6	6年	28.6	△0.8
	中学校	1年	18.8	2年	18.6	3年	13.8	△5.0
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	26.0		27.4		23.2		△2.8
	小学校	4年	30.9	5年	32.0	6年	32.0	1.1
	中学校	1年	20.2	2年	22.2	3年	13.4	△6.8
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	2.0		3.7		2.3		
	小学校	1.5		3.4		3.4		
	中学校	1.4		3.6		△0.4		

【参考】G2：1時間未満の割合

区分	R4		R5		R6		R6-R4	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
30分～1時間	31.9	21.1	26.4	22.1	23.9	20.1	△8.0	△1.0
30分未満	26.7	29.4	26.2	23.8	26.6	31.7	△0.1	2.3
全くしない	10.5	29.3	15.4	31.9	17.5	34.8	7.0	5.5

- 17 お子さんに、食事は好き嫌いなく食べるよう促していますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	90.2		90.8		89.7		△0.5
	小学校	4年	90.9	5年	91.6	6年	90.2	△0.7
	中学校	1年	89.6	2年	90.0	3年	89.2	△0.4
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	90.0		89.1		90.0		0
	小学校	4年	89.7	5年	89.0	6年	90.7	1.0
	中学校	1年	90.3	2年	89.2	3年	89.2	△1.1
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.2		△1.7		0.3		
	小学校	△1.2		△2.6		0.5		
	中学校	0.7		△0.8		0		



成 果

○望ましい食習慣の定着

- ・ 学校の取組では、食物アレルギーに関する校内研修、保護者・子供に対する朝食摂取率向上のための啓発などにおいて、高い数値を維持しており、各学校が健やかな体の育成に向けて、食に関する指導に積極的に取り組んでいる状況が確認できました。
- ・ 全国学力・学調状況調査における朝食の摂取率は全国平均を上回っており、「好き嫌いをなく食べている」と回答した子供は、約8割の数値を維持しています。朝食摂取啓発リーフレットの配付、学校での継続的な指導や家庭での継続的な声掛けなどにより、望ましい食習慣の定着が見られます。



課 題

○運動習慣の確立と体力の向上

- ・ 教職員への調査では、運動の必要性を子供に指導している割合が全体で約9割、児童生徒への調査では、運動やスポーツをすることが好きな子供の割合は8割と高い数値となっています。一方で、体育の授業以外で、平均して1日に1時間以上、運動やスポーツをしている子供は、小学校で約4割、中学校は部活動が終了した中学3年になると3割に満たない状況です。
- ・ 学校の取組でも、授業、部活動以外に児童生徒の体力・運動能力の向上のための取組を実施している学校が、中学校では3割以下となっています。
- ・ 1日に全く運動をしない子供の割合も年々増加しており、子供の運動能力や体力の低下が懸念されます。部活動のあり方が見直される中で、学校外での運動・スポーツを行う機会の創出や日常での運動習慣の定着は、喫緊の課題であると考えます。



施策 3-7 災害や事故から命を守るための教育

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

学校にいるときに地震が起きたら、どのように避難するか知っている子供の割合



R6 年度 90% R6 年度 → 92.4%



災害が起こったときのことについて家族と話し合った子供の割合

R6 年度 80% R6 年度 → 68.4%



■3-7-1 防災・減災教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
防災ノートを活用した児童生徒の防災知識の定着と適切な避難行動の理解を促進	A	健康安全課
教職員を対象とした、防災や学校安全に関する研修会の実施（年1回）	A	健康安全課

《学 校の取組》

(11) 子供を災害や事故から守るための教育として、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全 体				小 学 校				中 学 校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
校内における実践的な防災訓練の実施	92.4	100.0	99.3	6.9	91.7	100.0	99.0	7.3	93.8	100.0	100.0	6.2
防災ノートを活用した、自助力・共助力の醸成	90.3	95.1	90.3	0	91.7	99.0	93.8	2.1	87.5	87.5	83.3	△4.2
家庭における防災意識向上のための啓発	22.9	32.6	34.7	11.8	27.1	32.3	35.4	8.3	14.6	33.3	33.3	18.7
通学路における危険個所の確認	77.8	88.9	86.8	9.0	77.1	93.8	90.6	13.5	79.2	79.2	79.2	0
交通安全教室の開催	65.3	95.8	97.9	32.6	65.6	99.0	99.0	33.4	64.6	89.6	95.8	31.2
その他	6.3	4.9	2.1	△4.2	5.2	5.2	2.1	△3.1	8.3	4.2	2.1	△6.2

《教職員への調査》

29 災害や事故から命を守り、安全を確保するための方法について、子供に指導している

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	98.8	98.3	98.0	97.9	98.1	△0.7
小学校	99.1	98.8	98.9	98.3	98.7	△0.4
中学校	98.3	97.7	96.5	97.1	97.0	△1.3

《児童生徒への調査》

28 学校にいたるときに地震が起きたら、どのように避難するか知っていますか

成果指標 R6 年度 90%

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	91.2		92.6		92.6		1.4
	小学校	4 年	93.1	5 年	94.5	6 年	94.7	1.6
	中学校	1 年	89.4	2 年	90.5	3 年	90.5	1.1
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	89.6		90.7		92.4		2.8
	小学校	4 年	92.2	5 年	91.6	6 年	94.3	2.1
	中学校	1 年	86.7	2 年	89.7	3 年	90.3	3.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△1.6		△1.9		△0.2		
	小学校	△0.9		△2.9		△0.4		
	中学校	△2.7		△0.8		△0.2		

29 災害が起こったときのこと(避難する場所など)について家族と話し合いましたか

成果指標 R6 年度 80%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	61.8		57.7		60.1		△1.7
	小学校	4 年	62.3	5 年	58.2	6 年	60.3	△2.0
	中学校	1 年	61.4	2 年	57.2	3 年	59.9	△1.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	58.4		54.3		68.4		10.0
	小学校	4 年	60.6	5 年	53.5	6 年	68.6	8.0
	中学校	1 年	56.0	2 年	55.3	3 年	68.2	12.2
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△3.4		△3.4		8.3		
	小学校	△1.7		△4.7		8.3		
	中学校	△5.4		△1.9		8.3		

《保護者への調査》

18 災害が起こったときのことについて、お子さんと話し合いましたか

(単位: %、比較: Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	79.5		77.1		78.9		△0.6
	小学校	4 年	78.8	5 年	76.8	6 年	79.0	0.2
	中学校	1 年	80.0	2 年	77.4	3 年	78.8	△1.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	77.7		75.2		87.0		9.3
	小学校	4 年	78.4	5 年	75.1	6 年	88.0	9.6
	中学校	1 年	76.9	2 年	75.4	3 年	85.9	9.0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△1.8		△1.9		8.1		
	小学校	△0.4		△1.7		9.0		
	中学校	△3.1		△2.0		7.1		



成 果

○学校安全の充実

- ・ 学校の取組では、学校における防災教育に関する項目が前年度と同様に高い数値となり、交通安全教育に関する項目も上昇が見られました。また、災害や事故から命を守り、安全を確保するための指導をしている教職員は、令和2年度から継続して高い数値にあり、学校と教職員が一体となって学校安全の充実に取り組んでいる状況が確認できました。
- ・ 成果指標である「学校にいる時に地震が起きたら、どのように避難するか知っている子供」の割合は、継続して高い数値が保たれており、本年度も目標値を達成しました。継続的な指導や訓練などにより、高い防災意識や知識の定着が図られています。



課 題

○家庭における防災意識向上

- ・ 成果指標である「災害が起こった時のことについて家族と話し合った子供」の割合は、前年度と比較して約14Ptも上昇しましたが、約7割と目標には到達していません。
- ・ 一方で、「災害が起こった時のことについて子供と話し合った保護者」の割合は約9割と高い数値となっており、これまでと同様に子供と保護者の意識に乖離が見られます。
- ・ 学校による、家庭における防災意識向上のための啓発に関する取組は、他の取組に比べて低い数値となっています。
- ・ 他地域で地震や災害の発生があり、防災に関する意識がより一層高まっている中、子供と保護者の意識の乖離を縮め、家庭における防災意識を向上させる取組を検討していく必要があります。

施策 3-8 育ちや学びのつながりを重視した教育

■3-8-1 園・学校の連携

＜関係課の取組＞

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
園と小学校の職員間の連携体制強化に向けた啓発	A	幼保運営課
園児と児童の交流の啓発	A	幼保運営課

政策 4

一人一人の可能性を引き出し伸ばします

施策 4-1 個性を伸長する機会の充実

■4-1-1 子供の才能を伸ばす学びの場の提供

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内 容	評価	担当
「浜松 IT キッズプロジェクト」の開講（受講修了者延 263 人）	A	創造都市・文化振興課
浜松 RAIN 房事務局と連携した理科・ものづくりに関する出前講座の実施	A	教育センター
トップアスリートやプロスポーツチーム等の派遣によるスポーツ教室等の実施（年 20 回）	A	スポーツ振興課

施策 4-2 教育相談支援体制の充実

■4-2-1 専門スタッフ等と連携した教育相談の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内 容	評価	担当
スクールカウンセラーの配置・派遣（17, 247 時間）※12 月現在	A	教育支援課
スクールカウンセラーの資質向上のための研修の実施（5 回）	A	教育支援課
教育相談員及び心理専門相談員、スーパーバイザーを教育委員会相談窓口へ配置	A	教育支援課
スクールソーシャルワーカーの配置（19 人）及びスーパーバイザーによる支援	A	指導課

施策 4-3 不登校児童生徒への支援充実

■4-3-1 不登校児童生徒の状況に応じた体制づくり

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内 容	評価	担当
校内まなびの教室の設置（50 か所）	A	教育支援課
校外まなびの教室の設置（10 教室）	A	教育支援課
個別対応型校外まなびの教室指導員の配置（指導員 5 人・2 教室）	A	教育支援課
不登校児童生徒を対象としたホームページの開設	A	教育支援課

施策 4-4 障がいのある子供への支援充実

■4-4-1 教育的ニーズに応じた多様で柔軟な教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内 容	評価	担当
子供の教育的ニーズに応じた就学教育相談の実施	A	教育支援課
サテライト方式による通級指導教室の実施	A	教育支援課
合理的配慮の充実に向けた作業療法士・言語聴覚士等の巡回指導及び医療的ケアを必要とする児童生徒のための看護師の配置（13人）	A	教育支援課
発達支援学級在籍児童生徒の進路に関する情報の提供	A	教育支援課
発達支援学級の設置拡充（新設9校11学級）	A	教育支援課
発達支援教室の設置拡充（新設5教室）	A	教育支援課
発達支援教室支援員の配置拡充（5人増）	A	教職員課
スクールヘルパーの配置拡充（4人増）	A	教職員課

施策 4-5 外国人児童生徒等への支援充実

■4-5-1 不就学ゼロに向けた支援の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内 容	評価	担当
教育委員会、外国人学校、各種支援団体等の関係団体と連携した不就学を生まない「浜松モデル」の実施	A	国際課

■4-5-2 日本語能力に応じた支援の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内 容	評価	担当
市立小中学校への就学を希望する外国人保護者に対するガイダンス実施	A	教育支援課
日本の学校へ初めて就学する児童生徒への初期適応指導者の派遣と中学生を対象とした初期日本語指導拠点校の入級案内	A	教育支援課
相談員による教科指導員への巡回指導（1校につき1～2回）	A	教育支援課
3言語による母国語教室の実施（各27回）	A	教育支援課
「プレスクール」の実施（年8回）	A	教育支援課
教科指導員研修の実施（年6回、特別の教育課程に係る研修も含む）	A	教育支援課
日本語指導加配教員への研修実施（年5回、希望研修も含む）	A	教育支援課
バイリンガル支援者研修会の実施（年5回）	A	教育支援課

■4-5-3 進路に対する支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
進路について語る会を開催（2回）	A	教育支援課
ロールモデル派遣（5校程度）	S	教育支援課
中学生のためのステップアップクラスの開催（年58回）	A	教育支援課

《学 校の取組》

（12）子供一人一人の可能性を引き出し伸ばすために、どのような取組をしましたか（複数回答）

（単位：％、比較：Pt）

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2比	R2	R5	R6	R6-R2比	R2	R5	R6	R6-R2比
職員会議や学年会等での、教職員間における子供のよい表れについての情報共有	-	97.0	93.1	-	-	96.0	92.7	-	-	98.0	93.8	-
子供同士が互いのよさを認め合う場の設定	-	94.0	97.2	-	-	98.0	99.0	-	-	88.0	93.8	-
SCやSSWと連携した教育相談の実施	100.0	97.2	97.9	△2.1	100.0	97.9	99.0	△1.0	100.0	95.8	95.8	△4.2
不登校児童生徒のための学びの場の提供	64.6	84.0	75.7	11.1	56.3	78.1	69.8	13.5	81.3	95.8	87.5	6.2
個別の支援が必要な児童生徒のための校内体制や環境の整備	92.4	95.8	92.4	0	93.8	95.8	93.8	0	89.6	95.8	89.6	0
外国人児童生徒の個々の日本語能力に応じた支援の工夫	53.5	66.0	68.1	14.6	53.1	66.7	64.6	11.5	54.2	64.6	75.0	20.8
その他	5.6	2.1	0	△5.6	4.2	2.1	0	△4.2	8.3	2.1	0	△8.3

《教職員への調査》

30 個々の児童生徒の状況に応じて、多様で柔軟な指導・支援を行っている

（単位：％、比較：Pt）

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	98.0	98.1	97.8	98.3	98.4	0.4
小学校	98.6	98.8	98.2	98.8	99.0	0.4
中学校	97.0	96.9	96.9	97.4	97.4	0.4



成 果

○個性を伸長する機会の充実

- ・ 「浜松 I T キッズプロジェクト」による特別課外講座を実施し、中学生 10 名、小学生 23 名の修了生を輩出しました。また、中学校 1 校、小学校 7 校、幼稚園 1 園へパラスポーツを含めたトップアスリートを派遣し、スポーツ教室等を実施しました。

○教育相談支援体制の充実

- ・ スクールカウンセラー 64 人、スクールソーシャルワーカー 19 人を配置し、深刻化・複雑化している子供や保護者の相談に対応しました。また、教育相談員 4 人、心理相談員 1 人、スーパーバイザー 1 人を相談窓口へ配置し、電話・来所相談を実施しました。

○不登校児童生徒への支援充実

- ・ 校内まなびの教室を希望する児童生徒の増加に対応するため、5 か所増設して、市内 50 か所に拡充しました。また、自宅に留まる子供の孤立を防ぐため、不登校児童生徒向けの専用ホームページを開設しました。

○障がいのある子供への支援充実

- ・ 発達支援学級や特別支援学校への就学を考えている新学齢児の就学相談 761 件（前年比 156 件増）就学先の変更を希望する学齢児の就学教育相談を 850 件（前年比 35 件増）実施しました。
- ・ 子供たちの多様な教育的ニーズに対応するため、発達支援学級を小学校 297 学級、中学校 140 学級（前年比 17 学級増）設置しました。
- ・ 通常の学級に在籍する発達障害の疑いのある児童生徒を支援するため、小学校 5 校に発達支援教室を新設しました。また、発達支援教室支援員を小学校 80 人、中学校 36 人（前年比 4 人増）配置しました。
- ・ スクールヘルパーを小学校 110 人、中学校 43 人（前年比 4 人増）配置し、適切な指導や支援を受けられる体制を整備しました。

○外国人児童生徒等への支援充実

- ・ 市内小中学校への就学を希望する外国人保護者に対するガイダンスを実施しました。
- ・ 日本の学校へ初めて就学する児童生徒への初期適応指導者を派遣しました。初めて日本の学校に入る日本語のわからない中学生を対象とした初期日本語指導拠点校の 2 校目（浜北教室）を開設しました。
- ・ 浜松市立中学校に在籍する外国人児童生徒等とその保護者を対象に進路に係る情報提供とロールモデルの講話を 2 回実施し、153 人が参加しました。



課題

○子供の社会的自立に向けた支援

- ・ 校内外まなびの教室の設置やホームページの開設など、不登校児童生徒への支援充実に取り組んでいますが、進路が定まっていないまま学校を卒業する生徒が一定数おり、卒業後の支援のとぎれが懸念されます。
- ・ 市長事務局と連携して、ライフステージを通して切れ目のない支援体制の構築に向けた検討が必要となります。

政策5

園・学校や教職員の力を向上させます

施策5-1 教職員の資質能力向上

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

先生が自分のよいところを認めてくれていると思う子供の割合



R6 年度 90% R6 年度 → 91.2%



学校や子供に関することを教職員に気軽に相談できる保護者の割合



R6 年度 70% R6 年度 → 73.6%



■5-1-1 たゆまぬ自己改革のための支援

《関係課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
キャリア段階に応じた資質・能力の向上を図るための研修体系の見直し	A	教育センター
校内研修充実に向けた支援	A	教育センター
学校図書館担当者等を対象とした研修や連絡会の実施	S	中央図書館
静岡県子ども読書アドバイザーによる学校図書館補助員の意見を聞く機会の設定	A	中央図書館
「博物館利用講座」の実施（1件）	A	博物館

■5-1-2 これからの学校教育を担う教職員の人材確保

《関係課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
教員採用選考試験志願者を確保するための広報活動の拡充（大学・高校訪問やイベント等）	A	教職員課
教員採用選考試験における大学推薦の実施	A	教職員課

《学 校の取組》

(13)教職員の資質能力向上のために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位：%、比較：Pt 以下同じ)

取組内容	全 体				小 学 校				中 学 校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
学校全体でのOJTの実施	68.8	73.6	72.2	3.4	66.7	72.9	69.8	3.1	72.9	75.0	77.1	4.2
「浜松市教員育成指標」に示されたキャリア段階に応じて求められる資質能力の教職員への周知	54.9	75.7	81.3	26.4	57.3	83.3	83.3	26.0	50.0	60.4	77.1	27.1
希望研修や自主研修への参加促進	75.7	97.9	97.2	21.5	78.1	97.9	97.9	19.8	70.8	97.9	95.8	25.0
各種研修参加者による校内での研修内容の共有	40.3	77.8	81.3	41.0	44.8	83.3	89.6	44.8	31.3	66.7	64.6	33.3
その他	6.3	1.4	0	△6.3	5.2	0	0	△5.2	8.3	4.2	0	△8.3

(14) 研修内容を共有するために、主にどのようなことを行っていますか(単一回答)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R3	R5	R6	R6-R3比	R3	R5	R6	R6-R3比	R3	R5	R6	R6-R3比
校内全体研修の中に、研修受講者が研修内容を伝達する時間を設定している	37.5	38.2	31.9	△5.6	46.9	44.8	37.5	△9.4	18.8	25.0	20.8	2.0
研修推進委員会で共有した内容を、研修部員が学年会や教科部会等で教職員に伝達している	16.0	18.1	16.0	0	4.2	8.3	13.5	9.3	39.6	37.5	20.8	△18.8
研修資料を全教職員に回覧している	28.5	24.3	31.3	2.8	31.3	31.3	36.5	5.2	22.9	10.4	20.8	△2.1
研修資料をミライム掲示板へ格納している	0.7	2.8	2.1	1.4	1.0	4.2	2.1	1.1	0	0	2.1	2.1
その他	4.9	0.7	2.8	△2.1	6.3	0	2.1	△4.2	2.1	2.1	4.2	△4.2
選択していない	12.5	16.0	16.0	3.5	10.4	11.5	8.3	△2.1	16.7	25.0	31.3	14.6

《教職員への調査》

31 「浜松市教員育成指標」に示された、キャリア段階に応じて求められる資質能力を知っている

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	80.6	79.9	80.2	82.7	84.7	4.1
小学校	83.4	84.1	83.8	86.1	88.0	4.6
中学校	75.6	72.9	74.1	76.9	79.1	3.5

32 校内外の研修や研究会に参加した成果を教育活動に積極的に反映させている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	91.1	91.7	91.9	92.1	93.0	1.9
小学校	93.7	93.7	93.9	93.7	94.3	0.6
中学校	86.5	88.1	88.4	89.4	90.8	4.3

33 子供一人一人のよい点や可能性を見つけ、子供に伝えている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	99.2	98.9	99.0	98.9	98.9	△0.3
小学校	99.5	99.4	99.2	99.3	99.2	△0.3
中学校	98.6	98.2	98.7	98.3	98.3	△0.3

34 子供や保護者からのいじめ等の相談や気になる表れに対して、一人で抱え込まず、他の教職員と情報共有しながら対応している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R4
全体	-	-	99.5	98.8	99.1	△0.4
小学校	-	-	99.5	98.8	99.5	0
中学校	-	-	99.6	98.7	98.5	△1.1

35 校内外でいじめや人権に関する研修を受講し、自らの資質向上に努めている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R4
全体	-	-	87.8	87.5	87.1	△0.7
小学校	-	-	91.2	90.1	89.0	△2.2
中学校	-	-	82.0	83.0	83.7	1.7

《児童生徒への調査》

30 先生はあなたのよいところをみとめてくれていると思いますか

成果指標 R6 年度 90%

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	86.1		85.2		91.2		5.1
	小学校	4 年	87.3	5 年	84.1	6 年	91.2	3.9
	中学校	1 年	84.9	2 年	86.2	3 年	91.0	6.1
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	89.7		86.7		91.2		1.5
	小学校	4 年	90.6	5 年	86.4	6 年	91.1	0.5
	中学校	1 年	88.7	2 年	87.1	3 年	91.2	2.5
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	3.6		1.5		0		
	小学校	3.3		2.3		△0.1		
	中学校	3.8		0.9		0.2		

31 相談したときに、先生は真剣に話を聞いてくれますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		-		94.8		-
	小学校	4 年	-	5 年	-	6 年	95.6	-
	中学校	1 年	-	2 年	-	3 年	93.9	-
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	95.2		93.4		95.8		0.6
	小学校	4 年	95.8	5 年	93.4	6 年	95.4	△0.4
	中学校	1 年	94.4	2 年	93.3	3 年	96.4	2.0
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	-		-		1.0		
	小学校	-		-		△0.2		
	中学校	-		-		2.5		

《保護者への調査》

19 学校や子供に関することを、教職員に気軽に相談できますか

成果指標 R6 年度 70%

(単位: %、比較: Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	69.4		70.7		72.4		3.0
	小学校	4 年	76.6	5 年	74.5	6 年	77.9	1.3
	中学校	1 年	62.5	2 年	66.8	3 年	67.3	4.8
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	70.6		72.3		73.6		3.0
	小学校	4 年	74.9	5 年	76.5	6 年	77.5	2.6
	中学校	1 年	65.6	2 年	67.6	3 年	69.2	3.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	1.2		1.6		1.2		
	小学校	△1.7		2.0		△0.4		
	中学校	3.1		0.8		1.9		



成 果

○教員の主体的な研修姿勢

- ・ 「校内外の研修や研究会に参加した成果を教育活動に積極的に反映させている」と回答した教員は、令和2年度から継続して9割を超え、高い値を維持しています。研修（理論）と実践が効果的に結び付いている状況が確認できました。

○子供・保護者との信頼関係の構築

- ・ 成果指標である「先生が自分のよいところを認めてくれていると思う子供」の割合が9割を超え、目標を達成しました。「相談したときに先生は真剣に話を聞いてくれると思う子供」の割合も、前年度と比較して数値が上昇し、9割5分を超えています。
- ・ 成果指標である「学校や子供に関することを教職員に気軽に相談できる保護者」の割合は、前年度に引き続き目標を達成するとともに、数値も上昇しています。
- ・ 子供の姿を認め、それに応じるといった子供理解に努める教員の姿が伺えます。また、その姿勢が子供や保護者の理解にもつながり、より良い信頼関係の構築がなされています。教職員のそうした姿勢を支えられるように、ICTの効果的な活用や、支援スタッフの配置の充実が求められます。

○相談などに対する組織的な対応

- ・ 教職員への調査において、保護者からのいじめ等の相談等について、一人で抱え込まず他の職員と共有して対応している状況が確認できました。



課 題

○校内研修と校外研修との連携

- ・ 研修内容を共有するために、学校として主にどのような取組を行っているかを調査したところ、資料の回覧やデジタルでの共有についても数値が低くなっています。
- ・ 校内外の研修や研究会での成果を教育活動に反映させている教職員の値は9割以上と高いものの、研修内容の共有については、共有時間を設定することが難しい状況や回覧等で共有している状況が確認できました。
- ・ 浜松市教職員研修計画における令和6年度の研修実施方針の重点の一つに、「校内研修の充実と校外研修との連携」が位置付けられています。その中で、「校内研修の充実のためにも、校外研修で学んだことを校内に周知（中略）すべての職能研修において、「学んだことをどのように伝えていくか」という視点をもって研修を行っていきます。また、（中略）各校にて校外研修を活用していくことを奨励していきます。」としており、今後はより一層の充実が求められます。

政策 6

子供の生活や学びを支える教育環境づくりを進めます

施策 6-1 安全・安心で質の高い教育環境の整備

■6-1-1 学校施設の計画的な保全

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
「浜松市学校施設長寿命化計画」に基づく緊急的な基幹設備の更新	A	教育施設課

■6-1-3 機器や教材等の教育環境の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
児童生徒情報の可視化機能の検討	A	教育施設課 (ICT 教育推進)
よりよい授業づくりのための教材や教具の整備	A	教育施設課 (ICT 教育推進)
校内 LAN、授業用タブレット型端末の活用	A	市立高等学校
「学校生活における一人一台タブレット利用のガイドライン」の見直し	A	市立高等学校

■6-1-4 学校安全への対応

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
「ながら見守り」活動への登録者（1,929 人）※12 月時点	S	健康安全課
教職員の普通救命講習修了証の取得促進（取得率：93.94%）	A	健康安全課
スクールガード・リーダーによる見守り活動の実施	A	健康安全課
通学路整備要望調査の実施及び整備に向けた関係機関との連携	A	健康安全課
「こども 110 番の家」の事業周知及び啓発活動	A	青少年育成センター
登録業者や事業者へ「こども 110 番の家」ステッカー及び活動手引きの送付	A	青少年育成センター

施策 6-2 学びを支える人材の充実

■6-2-1 きめ細かな指導・支援の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
校務アシスタント・図書館補助員の全校配置	A	教職員課
学習支援員・複式学級支援員・生徒指導支援員の適正配置（106人）	A	教職員課
養護教諭補助員等の配置（全25校）	A	教職員課
小学校への理科支援員の配置（全校配置）	A	教職員課
外国人児童生徒等が在籍する学校への支援員やサポーターの配置・派遣 （日本語支援が必要な外国人児童生徒の在籍数に応じた配置・派遣）	A	教育支援課
外国人児童生徒等が在籍する学校への教科指導員の配置 （学習内容の理解に支援が必要な外国人児童生徒が5人以上在籍する学校を対象）	A	教育支援課

■6-2-2 少人数指導の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
「はままつ式少人数学級（30人学級編制）」の実施（小学校3年生まで）	B	教職員課

施策 6-3 教育機会の確保に向けた支援

■6-3-1 教育費負担軽減のための経済的支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
経済的支援を要する家庭への就学に必要な費用の一部援助	A	教育支援課
経済的理由により修学が困難な学生に対する奨学金の貸与	A	教育支援課

■6-3-2 多様な学びの場の確保

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
県立夜間中学の入学者募集等について、関係課や市立中学校へ情報提供	A	教育総務課

施策 6-4 学校規模の適正化

■6-4-1 小規模校・大規模校における教育環境の向上

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
小規模校（6学級以下）への訪問及び必要に応じた保護者等との意見交換会の実施（全21校）	A	教育総務課
大規模校（25学級以上）の施設や学校運営等に対する課題への対応（3校）	A	教育総務課

■6-4-2 地域事情による通学等への支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
通園・通学バスの運行や交通費支給による通学支援	A	教育支援課
通園・通学バスを活用した校外学習等の移動手段への支援	A	教育支援課

施策 6-5 学校における働き方改革の推進

■6-5-1 子供も先生も笑顔あふれる学校づくり

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
「学校における働き方改革のための業務改善方針」の取組推進及び周知・啓発	A	教育総務課

《学 校の取組》

(15)働き方改革に関する視点を盛り込んだ学校運営として、どのような取組をしていますか(複数回答)

(単位: %、比

較: Pt)

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
勤務時間を意識した登下校、部活動等の時間設定	75.7	79.9	70.8	△4.9	80.2	81.3	69.8	△10.4	66.7	77.1	72.9	6.2
学校事務職員の学校運営参画	80.6	81.9	81.3	0.7	79.2	81.3	80.2	1.0	83.3	83.3	83.3	0
保護者・地域等と連携した登下校の安全確保	61.1	67.4	61.1	0	69.8	79.2	72.9	3.1	43.8	43.8	37.5	△6.3
学校行事の精選・見直し	96.5	82.6	86.1	△10.4	97.9	87.5	90.6	△7.3	93.8	72.9	77.1	△16.7
校内業務の適正化、事務負担の見直し	66.0	73.6	77.1	11.1	64.6	74.0	76.0	11.4	68.8	72.9	79.2	10.4
P T Aの活動内容の見直し	72.9	73.6	79.2	6.3	74.0	70.8	75.0	1.0	70.8	79.2	87.5	16.7
定時退庁日の設定	83.3	63.2	59.0	△24.3	79.2	69.8	58.3	△20.9	91.7	50.0	60.4	△31.3
年次休暇の取得促進	79.9	82.6	79.9	0	81.3	80.2	78.1	△3.2	77.1	87.5	83.3	6.2
その他	4.2	2.1	2.1	△2.1	3.1	3.1	2.1	△1.0	6.3	0	2.1	△4.2

《教職員への調査》

36 時間の使い方を意識した働き方に努めている

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	86.3	86.0	85.0	86.5	87.1	0.8
小学校	87.6	87.8	85.4	87.8	87.8	0.2
中学校	84.3	83.1	84.5	84.3	85.9	1.6

37 効率よく業務を進めるため、常に自分の業務を見直し、改善を図っている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	84.6	84.6	84.4	86.3	87.0	2.4
小学校	85.0	85.5	84.0	86.5	87.6	2.6
中学校	83.8	83.0	85.2	86.0	85.9	2.3

《保護者への調査》

20 学校が、働き方改革に取り組んでいることを知っていますか

(単位: %、比較: Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	75.8		74.6		85.7		9.9
	小学校	4年	75.6	5年	74.1	6年	86.2	10.6
	中学校	1年	76.0	2年	75.1	3年	85.2	9.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	79.8		81.3		85.5		5.7
	小学校	4年	77.7	5年	80.5	6年	85.9	8.2
	中学校	1年	82.4	2年	82.2	3年	85.0	2.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	4.0		6.7		△0.2		
	小学校	2.1		6.4		△0.3		
	中学校	6.4		7.1		△0.2		

《地域住民への調査》

3 学校が、働き方改革に取り組んでいることを知っていますか

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	83.0	89.5	90.8	88.3	93.8	10.8
小学校	83.0	89.5	90.8	88.1	92.9	9.9
中学校	83.5	92.1	92.3	88.7	96.3	12.8

《学校における働き方改革のための業務改善方針 令和6年度における目標達成状況》

1 時間外在校等時間の削減

原則、月 45 時間以内・年 360 時間以内

時間外在校等時間 月 45 時間超教職員の人数と割合（R7.3月時点）

○小学校

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年360時間超
R2	人数	485	219	1,583	1,362	32	1,394	1,549	1,090	861	709	1,163	946	1,763
	割合	19.9%	9.0%	65.1%	56.1%	1.3%	57.6%	64.1%	45.2%	35.8%	29.5%	48.4%	39.4%	70.7%
R3	人数	1,646	1,217	1,569	816	5	1,158	1,251	1,095	585	594	900	599	1,731
	割合	67.7%	50.2%	64.8%	33.8%	0.2%	48.0%	52.0%	45.7%	24.4%	24.8%	37.5%	25.0%	69.6%
R4	人数	1,503	1,158	1,514	689	2	1,205	1,182	1,013	456	565	1,000	675	1,671
	割合	61.4%	47.5%	62.1%	28.3%	0.1%	49.5%	48.6%	41.7%	18.8%	23.3%	41.3%	27.6%	66.5%
R5	人数	1,305	1,090	1,292	539	2	1,004	1,073	842	323	526	903	358	1,535
	割合	53.6%	44.9%	53.4%	22.3%	0.1%	40.5%	43.2%	33.9%	13.0%	21.2%	36.4%	14.4%	59.3%
R6	人数	1,342	1,067	1,092	558	0	853	1,097	760	196	479	748	266	1,448
	割合	54.3%	43.4%	44.5%	22.8%	0%	34.7%	44.7%	31.0%	8.0%	19.6%	30.6%	10.9%	57.2%

○中学校

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年360時間超
R2	人数	228	89	1,104	1,084	378	1,069	1,129	989	860	850	916	822	1,186
	割合	15.3%	6.0%	74.0%	72.7%	25.3%	71.6%	75.4%	66.6%	58.1%	57.2%	61.6%	55.6%	77.8%
R3	人数	1,157	1,050	1,161	923	26	1,009	1,052	1,016	799	715	719	670	1,192
	割合	75.9%	69.0%	76.4%	60.9%	1.7%	66.5%	69.3%	67.1%	52.9%	47.3%	47.5%	44.5%	77.3%
R4	人数	1,147	1,067	1,129	815	60	996	1,029	934	668	738	868	487	1,108
	割合	75.1%	70.1%	74.2%	53.5%	4.0%	65.7%	67.8%	61.6%	44.1%	48.6%	67.3%	31.9%	76.0%
R5	人数	1,143	1,064	1,106	819	45	1,010	993	981	657	741	843	655	1,187
	割合	74.6%	69.5%	72.1%	53.6%	2.9%	64.4%	63.3%	62.6%	42.1%	47.4%	53.9%	41.9%	74.7%
R6	人数	1,139	1,039	1,075	761	36	954	979	910	527	689	779	571	1,127
	割合	72.7%	66.2%	69.0%	49.1%	23%	61.5%	63.2%	58.7%	34.0%	44.4%	50.3%	37.0%	70.6%

2 心身の健康維持

受検率 100%

総合健康リスク 80 未満

高ストレス者（総合健康リスク 100 以上の割合） 5.0%未満

ストレスチェックの結果

項目	R2	R3	R4	R5	R6
受検率	95.2%	95.9%	96.1%	95.6%	96.4%
総合健康リスク	78	79	79	78	77
高ストレス者（総合健康リスク 100 以上）	5.0%	5.9%	6.5%	6.7%	7.2%

3 タイムマネジメントを意識した働き方の実施

肯定的な回答の割合

100%

教職員への実態把握調査の結果

校種	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	87.6%	87.8%	85.4%	87.8%	87.8%
中学校	84.3%	83.1%	84.5%	84.3%	85.9%
全 体	86.3%	86.0%	85.0%	86.5%	87.1%



成 果

○学校施設の計画的な保全

- ・ 学校の基幹設備である自動火災報知設備、非常放送設備、給水・消火栓ポンプ、管理諸室・給食室空調設備の更新を「浜松市学校施設長寿命化計画」に基づき 77 校で実施しました。

○機器や教材等の教育環境の充実

- ・ 児童生徒に関する情報の一元化と個々の情報の可視化を可能とする、新校務支援システム（令和 7 年 4 月本格稼働）の導入に向けた作業を進めました。
- ・ 仕様が異なるデジタル教科書を一か所にまとめ、シングルサインオンでの利用を可能にする「EduMail」を導入しました。

○学校安全への対応

- ・ 「ながら見守り」活動への登録者が 1,929 人（前年比 92 人増）となり、学校安全体制の拡充を図りました。
- ・ 各地域青少年健全育成会に「こども 110 番の家」の広報を依頼しました。8 月には浜松科学館において来館者に啓発品を手渡し、健全育成啓発チラシを市内小中学校の家庭を対象に配付しました。

○学びを支える人材の充実

- ・ 校務アシスタント、図書館補助員を小中学校全校に、理科支援員を小学校全校に配置しました。また、児童生徒数の変動や学校の運営状況等を考慮し、106 人の学習支援員や複式学級支援員・生徒指導支援員を配置しました。

○少人数指導の充実（はままつ式 30 人学級編制）

- ・ 「はままつ式 30 人学級編制」の該当校 31 校に対し、非常勤や短時間勤務の教員を配置しました。

○教育費負担軽減のための経済的支援

- ・ 経済的支援を要する家庭への就学に必要な費用の一部援助を行い、小中学校への就学を支援しました。

○小規模校・大規模校における教育環境の向上

- ・ 小規模校 21 校、大規模校 3 校を訪問し、今後の児童生徒数の推計や学校や地域の状況について情報共有を図りました。また、保護者等との意見交換会を 9 校で開催し、学校規模適正化に関する取組を説明しました。
- ・ 水窪地域では、小中一貫校の設置に向けて、保護者や地域の代表者で構成する検討会を立ち上げ、設置に向けて協議を開始しました。

○地域事情による通学等の支援

- ・ 遠距離通学となる地域の通学支援として、通園・通学バスを 49 路線運行しました。また、通園・通学バス以外を利用する児童生徒 40 人に交通費を支給しました。

○子供も先生も笑顔あふれる学校づくり（学校における働き方改革）

- ・ 4 月に働き方改革に関わる学校の取組への理解と協力について、保護者・地域宛ての周知文書を配付しました。保護者や地域住民への調査から、これまでの継続した取組により、保護者や地域住民の認知が図られていることが確認できました。



課 題

○学校における働き方改革の推進

- ・ 学校の取組では、校内業務の適正化、事務負担の見直し、PTA の活動内容の見直しで数値の上昇が見られました。年々数値が低下している取組については、形骸化しないよう学校と課題等を共有しながら支援していく必要があります。
- ・ 教職員の調査では、時間の使い方を意識した働き方の項目や、業務の見直し・改善の項目で若干の上昇がみられるものの、前年度から大きな変化は見られませんでした。また、教職員のストレスチェックの結果においては、総合健康リスクが微減したものの、高ストレス者の割合が増加傾向にあります。
- ・ 今後も、業務分担の見直し・精選や DX の推進等により、教職員が子供と向き合い、かかわることができる時間確保や環境整備を進めていくとともに、教職員の働きがい向上についても併せて取り組んでいく必要があります。



政策 7

家庭や地域の力を生かした取組を推進します

施策 7-1 家庭の教育力向上


成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

子供のよい表れを見つけ、ほめている保護者の割合  R6 年度 90% R6 年度 → 95.6% 
 一日の出来事について子供から話を聞いている保護者の割合

R6 年度 90% R6 年度 → 87.6%

子供が、規則正しい生活を送ることができるよう声掛けしている保護者の割合

 R6 年度 95% R6 年度 → 95.4%

■7-1-1 家庭の教育力向上に向けた支援

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
入学予定児童及び小学校 1 年生の保護者に向けた家庭教育講座の実施	B	教育総務課
家庭における『はままつマナー』の活用事例の紹介	A	教育センター
幼児教育の指針『幼児期に育てたい力』や『はますくノート』の周知と活用の啓発	A	幼保運営課
親子ひろば事業での子育て相談の実施	A	幼保運営課
関係機関等への『はますくノート』の活用方法の周知	A	子育て支援課
関係機関・保護者等へ子育てポータルサイトを周知	A	こども若者政策課
保育所・認定こども園・市立幼稚園等での家庭教育講座の実施（年 20 回）	A	こども若者政策課

《学 校の取組》

(16) 家庭の教育力を向上させるために、保護者に対し、どのようなことを働きかけましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全 体				小 学 校				中 学 校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
「早寝・早起き・朝ごはん」や挨拶など基本的な生活習慣に関すること	88.9	88.9	88.2	△0.7	96.9	93.8	94.8	△2.1	72.9	79.2	75.0	2.1
会話や悩み相談など、子供とのかかわり方に関する事	62.5	68.1	63.9	1.4	69.8	67.2	62.5	△7.3	47.9	68.8	66.7	18.8
テレビやゲーム、ICT機器の家庭での使い方に関する事	72.9	84.0	86.8	13.9	71.9	80.2	88.5	16.6	75.0	91.7	83.3	8.3
家族の一員としての在り方に関する事	26.4	38.2	38.2	11.8	28.1	43.8	40.6	12.5	22.9	27.1	33.3	10.4
地域行事やボランティア活動への参加に関する事	27.8	35.4	36.1	8.3	22.9	27.1	29.2	6.3	37.5	52.1	50.0	12.5
その他	5.6	3.5	2.1	△3.5	7.3	4.2	2.1	△5.2	2.1	2.1	2.1	0

《教職員への調査》

38 教育相談や家庭訪問、たより等を通して、家庭の教育力の重要性を保護者に伝えている

(単位: %、比較: Pt)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	90.1	88.2	86.6	87.1	87.9	△2.2
小学校	92.6	90.6	90.1	89.7	90.4	△2.2
中学校	85.5	84.2	80.8	82.6	83.8	△1.7

《児童生徒への調査》

32 一日の出来事について、家族と話をしていますか

(単位: %、比較: Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4－R2
	全体	80.9		78.3		77.2		△3.7
	小学校	4 年	81.7	5 年	80.8	6 年	80.5	△1.2
	中学校	1 年	80.1	2 年	75.9	3 年	73.9	△6.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6－R4
	全体	79.2		78.1		77.7		△1.5
	小学校	4 年	79.9	5 年	79.4	6 年	79.3	△0.6
	中学校	1 年	78.4	2 年	76.4	3 年	75.7	△2.7
差	区分	G2－G1		G2－G1		G2－G1		
	全体	△1.7		△0.2		0.5		
	小学校	△1.8		△1.4		△1.2		
	中学校	△1.7		0.5		1.8		

22 一日の出来事についてお子さんから話を聞いていますか

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	90.9		88.5		88.5		△2.4
	小学校	4年	93.6	5年	93.0	6年	92.4	△1.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	91.5		88.7		87.6		△3.9
	小学校	4年	93.0	5年	91.3	6年	90.3	△2.7
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.6		0.2		△0.9		
	小学校	△0.6		△1.7		△2.1		
中学校	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	88.3		83.7		84.8		△3.5
	中学校	1年	88.3	2年	83.7	3年	84.8	△3.5

23 お子さんが、規則正しい生活を送ることができるよう声かけしていますか

成果指標 R6 年度 95%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	97.6		96.4		95.3		△2.3
	小学校	4年	98.3	5年	97.7	6年	97.1	△1.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	97.0		96.2		95.4		△1.6
	小学校	4年	97.2	5年	97.4	6年	97.1	△0.1
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△0.6		△0.2		0.1		
	小学校	△1.1		△0.3		0		
中学校	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	96.9		95.1		93.6		△3.3
	中学校	1年	96.9	2年	95.1	3年	93.6	△3.3



成果

○家庭における信頼関係の構築

- ・ 学校の取組では、小学校の「テレビやゲーム、ICT機器の家庭での使い方に関すること」が約8Pt上昇、中学校の「家族の一員としての在り方に関すること」が約6Pt上昇しました。
- ・ 保護者への調査では、成果指標である「お子さんのよい表れを見つけ、ほめていますか」「お子さんが、規則正しい生活を送ることができるよう声かけしていますか」の項目は、継続した高い値を維持でき、目標を達成しました。
- ・ 「一日の出来事について、家族と話をしているか」の項目は、子供と保護者ともに高い数値となっており、子供と保護者が日常的に会話をすることで信頼関係を深め、それが子供の精神の安定やよい表れにつながっているものと推測されます。



課題

○家庭教育への支援

- ・ 家庭教育は、保護者が子供に対して行う教育であり、全ての教育の出発点と言われていますが、家族形態の変化や子供のニーズが多様化・複雑化している中で、これまでのように家庭教育を進めていくことは難しい状況であると考えます。
- ・ 保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、地域・学校・行政の連携による支援が求められています。



施策 7-2 地域との連携・協働の推進

成果指標

※R6年度数値…G2全体の数値

ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わる人が多いと思う人の割合

※学校運営協議会委員等を対象とした調査



R6 年度 80% R6 年度 → 91.0%

学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思う人の割合

※学校運営協議会委員等を対象とした調査



R6 年度 95% R6 年度 → 97.9%

■7-2-1 コミュニティ・スクールの推進

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
学校運営協議会の運営に関する指導・助言	A	教育総務課
教職員、学校運営協議会委員等への研修会の開催	A	教育総務課
リーフレット、出前講座等を活用した地域住民・保護者への周知	A	教育総務課

■7-2-2 園・学校評価の充実

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
学校運営改善のための学校関係者評価の充実に向けた支援	A	教育総務課
学校 HP、学校便り、コミスクだより等を通じた学校関係者評価の結果の公表	A	教育総務課
自己評価の結果を公表し、園運営の改善を図ることを周知・啓発	A	幼保運営課

■7-2-3 「はままつ人づくりネットワークセンター」の充実

《関係 課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取 組 内 容	評価	担当
子供と学校のニーズに応じた、より魅力ある講座の新規登録（12 講座）	A	教育総務課
研修会等において、「はままつ人づくりネットワークセンター」のウェブサイトを紹介・周知	A	教育総務課

■7-2-4 放課後の居場所づくり

《関係課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
「浜松市子ども・若者支援プラン」に基づく放課後児童会の定員拡大	S	教育総務課
放課後児童会支援員等の資質向上等に向けた研修実施及び情報提供	A	教育総務課
「放課後子供教室」の実施（放課後児童会未開設地域 10 か所）	A	教育総務課

■7-2-5 青少年健全育成会との連携

《関係課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R6 年度 取組 内容	評価	担当
各地域青少年健全育成会における、11 月 11 日を基準日とした 「ひとりひとりにいい声掛けデー」の実施率（100%）	A	青少年育成センター

《学 校の取組》

(17) 地域との連携・協働の推進のために、どのような取組をしましたか（複数回答）

（単位：％、比較：Pt）

取組内容	全体				小学校				中学校			
	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比	R2	R5	R6	R6-R2 比
地域人材を活用した授業の実施	86.1	89.6	86.8	0.7	88.5	96.9	100.0	11.5	81.3	75.0	60.4	△20.9
地域のボランティア活動への参加促進	39.6	61.1	57.6	18.0	33.3	49.0	43.8	10.5	52.1	85.4	85.4	33.3
学校評価をもとにした、 学校運営の改善	78.5	86.8	92.4	13.9	78.1	88.5	93.8	15.7	79.2	83.3	89.6	10.4
はままつづくりネットワーク センターを活用した教育活動の実施	13.2	31.3	28.5	15.3	15.6	39.6	34.4	18.8	8.3	14.6	16.7	8.4
その他	9.7	2.8	0.7	△9.0	6.3	4.2	1.0	△5.3	16.7	0	0	△16.7

《教職員への調査》

39 学習のねらいに基づいた、保護者や地域の人材を活用する授業を実施している、または予定している

（単位：％、比較：Pt 以下同じ）

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R2
全体	80.4	76.9	82.1	82.8	84.3	3.9
小学校	86.2	83.4	90.5	92.2	93.0	6.8
中学校	70.1	66.0	67.5	66.7	69.4	△0.7

40 保護者や地域住民と、学校の教育目標や課題を共有した学校運営ができている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R3
全体	-	82.6	84.1	86.1	87.1	4.5
小学校	-	85.5	88.4	90.6	91.4	5.9
中学校	-	77.6	76.6	78.4	79.9	2.3

41 地域の人材や素材の活用により、教育活動が充実している

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R3
全体	-	77.8	81.8	82.9	84.3	6.5
小学校	-	82.7	89.3	91.4	91.9	9.2
中学校	-	69.4	68.9	68.5	71.3	1.9

42 保護者や地域住民の学校支援活動により、子供と向き合う時間の確保につながっている

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6-R3
全体	-	58.8	62.1	67.1	65.3	6.5
小学校	-	60.6	66.0	72.5	71.2	10.6
中学校	-	55.7	55.2	58.1	55.2	△0.5

《児童生徒への調査》

33 学習ボランティアなど、地域の人が学習に関わってくれている(手助けしてくれている)と思いますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.7		84.3		82.8		△2.9
	小学校	4年	88.9	5年	89.3	6年	90.3	1.4
	中学校	1年	82.4	2年	79.3	3年	75.0	△7.4
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	86.6		85.0		87.3		0.7
	小学校	4年	91.1	5年	90.3	6年	92.9	1.8
	中学校	1年	81.5	2年	78.6	3年	80.8	△0.7
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.9		0.7		4.5		
	小学校	2.2		1.0		2.6		
	中学校	△0.9		△0.7		5.8		

34 家族や地域の方から学ぶことは、自分のためになると思いますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	93.7		93.7		92.8		△0.9
	小学校	4年	96.0	5年	95.6	6年	94.5	△1.5
	中学校	1年	91.5	2年	91.6	3年	91.0	△0.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	94.6		93.0		92.0		△2.6
	小学校	4年	95.7	5年	94.8	6年	93.0	△2.7
	中学校	1年	93.4	2年	90.7	3年	90.8	△2.6
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	0.9		△0.7		△0.8		
	小学校	△0.3		△0.8		△1.5		
	中学校	1.9		△0.9		△0.2		

《保護者への調査》

24 学校は、地域人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	82.8		83.7		81.2		△1.6
	小学校	4年	87.0	5年	87.2	6年	85.5	△1.5
	中学校	1年	78.7	2年	80.0	3年	77.2	△1.5
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	79.7		80.4		83.5		3.8
	小学校	4年	83.4	5年	84.0	6年	86.5	3.1
	中学校	1年	75.3	2年	76.5	3年	80.2	4.9
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△3.1		△3.3		2.3		
	小学校	△3.6		△3.2		1.0		
	中学校	△3.4		△3.5		3.0		

25 地域の中で子供が育てられていると感じていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	74.0		69.5		69.5		△4.5
	小学校	4年	74.2	5年	70.5	6年	71.5	△2.7
	中学校	1年	73.8	2年	68.4	3年	67.6	△6.2
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	65.5		65.7		71.5		6.0
	小学校	4年	66.9	5年	68.4	6年	74.5	7.6
	中学校	1年	63.8	2年	62.7	3年	68.2	4.4
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△8.5		△3.8		2.0		
	小学校	△7.3		△2.1		3.0		
	中学校	△10.0		△5.7		0.6		

26 体験活動や、地域ボランティア活動などへの参加をお子さんに促していますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	66.6		60.6		62.6		△4.0
	小学校	4年	67.2	5年	62.5	6年	62.7	△4.5
	中学校	1年	66.0	2年	58.6	3年	62.4	△3.6
G2	区分	R4		R5		R6		R6-R4
	全体	57.3		59.7		65.8		8.5
	小学校	4年	59.1	5年	61.8	6年	68.0	8.9
	中学校	1年	55.2	2年	57.5	3年	63.4	8.2
差	区分	G2-G1		G2-G1		G2-G1		
	全体	△9.3		△0.9		3.2		
	小学校	△8.1		△0.7		5.3		
	中学校	△10.8		△1.1		1.0		

27 コミュニティ・スクールとは、「地域住民や保護者が学校の運営や支援について協議する『学校運営協議会』を設置している学校」であることを知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4－R2
	全体	－		31.3		41.0		9.7
	小学校	4年	－	5年	33.3	6年	43.3	10.0
G2	中学校	1年	－	2年	29.4	3年	38.8	9.4
	区分	R4		R5		R6		R6－R4
	全体	34.3		38.3		45.0		10.7
	小学校	4年	33.7	5年	39.7	6年	46.2	12.5
差	中学校	1年	35.1	2年	36.6	3年	43.5	8.4
	区分	G2－G1		G2－G1		G2－G1		
	全体	－		7.0		4.0		
	小学校	－		6.4		2.9		
	中学校	－		7.2		4.7		

《地域住民への調査》

4 学校は、地域人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか

成果指標 R6 年度 95%

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	92.2	93.6	94.7	94.4	97.9	5.7
小学校	94.4	94.7	96.1	95.3	98.6	4.2
中学校	87.7	91.6	91.9	92.3	96.3	8.6

5 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか

成果指標 R6 年度 80%

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R2
全体	90.4	92.7	88.4	88.3	91.0	0.6
小学校	89.9	91.4	88.3	90.3	91.8	1.9
中学校	91.5	95.3	88.8	83.8	88.9	△2.6

6 コミュニティ・スクールとは、「地域住民や保護者が学校の運営や支援について協議する『学校運営協議会』を設置している学校」であることを知っていますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R3
全体	－	94.2	96.6	96.5	98.7	4.5
小学校	－	93.6	97.7	97.8	99.3	5.7
中学校	－	95.3	94.2	93.7	97.2	1.9

7 子供たちは、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加していると思いますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R3
全体	－	86.7	83.4	87.0	88.5	1.8
小学校	－	84.9	82.1	87.7	88.3	3.4
中学校	－	90.0	86.1	85.6	88.9	△1.1

8 地域で育つ子供に温かい気持ちで接し、いじめを行うことがないよう、積極的に関わっていますか

対象	R2	R3	R4	R5	R6	R6－R4
全体	－	－	87.2	94.5	92.8	5.6
小学校	－	－	86.7	95.0	92.6	5.9
中学校	－	－	88.4	93.5	93.5	5.1



成果

○コミュニティ・スクール（ＣＳ）による効果

- ・ 本年度、新たに４校が学校運営協議会を設置し、全ての市立小中学校・高等学校がコミュニティ・スクールとなりました。
- ・ 教職員・児童生徒・保護者・地域住民への調査の全てにおいて、地域の人材や素材の活用による教育活動の充実に関する項目の数値が８割以上となりました。校種間の差が見られますが、ＣＳ関係者を対象とした研修会等を通じて制度への理解が深まり、共通認識のもとで学校のニーズに応じた学校支援活動が展開されていることが確認できました。
- ・ 「地域の中で子供が育てられていると感じている保護者」の割合も、小中学校ともに前年度から約６Pt 上昇しており、学校支援活動を通じて子供・保護者と地域が関わる機会が増えているものと考えます。



課題

○保護者へのコミュニティ・スクール（ＣＳ）周知・浸透

- ・ 保護者への調査では、ＣＳの定義の理解に関する項目において、前年度から約７Pt 上昇してはいるものの、５割未満と他の項目と比較して未だ低い状況となっています。
- ・ 学校運営協議会という言葉は認識していても、住民や保護者が学校と教育目標を共有し、学校運営に参画することで、社会に開かれた教育課程を実現するという制度の意義が、十分に周知されていないと推測されます。学校と学校運営協議会が連携し、様々な機会を捉えて周知を図っていくことが必要だと考えます。

○学校支援活動の充実

- ・ 学校運営協議会での議論に基づく具体的な支援が実施されることで、負担軽減や子供と向き合う時間の確保につながっていると認識する教職員が増えてはいますが、６割程度となっています。学校の現状や課題等を共有し、学校運営の改善に向けた学校支援活動が展開されていくことが求められます。

3 重点施策に関する調査結果の分析

児童生徒及び教職員、保護者、地域住民に対して行った実態把握調査のうち、重点施策に係る施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」、施策 3-1「確かな学力の育成」、施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」、施策 7-2「地域との連携・協働の推進」について、静岡大学教育学部准教授 村井大介氏に分析・検証していただきました。

《検証の方法》

今年度は、施策ごとに、主に「経年変化」と「成果指標の達成校と未達成校の比較」から分析しました。後期計画開始年度の令和2年度から令和4年度までを第1グループ（G1）とし、同じ学校群の特定学年（令和2年度の小学校第4学年及び中学校第1学年）の児童生徒を対象に3年間継続的に調査を実施してきました。令和4年度から令和6年度までは第2グループ（G2）とし、別の学校群の児童生徒を3年間継続的に調査しています。

「経年変化」では、成果指標の達成状況について、以下の図の比較1のように同一グループの経年での比較（令和4年度・令和5年度との比較）と、比較2のように同学年間での比較（令和4年度との比較）が行えるようにグラフにまとめました。

発達段階による変化	中学校 第3学年			R4中学校 第3学年	比較2	R6中学校 第1学年	
	中学校 第2学年		R3中学校 第2学年		比較1	R5中学校 第1学年	R4-R6中学校 第2グループ
	中学校 第1学年	R2中学校 第1学年		R4中学校 第1学年			R2-R4 中学校 第1グループ
	小学校 第6学年			R4小学校 第6学年	比較2	R4小学校 第6学年	R4-R6中学校 第2グループ
	小学校 第5学年		R3小学校 第5学年		比較1	R5小学校 第1学年	R2-R4 小学校 第1グループ
	小学校 第4学年	R2小学校 第4学年		R4小学校 第4学年			
		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
		時代（社会状況）の変化					

教員、児童生徒、保護者、地域を対象にした各実態把握調査では、多くの項目が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」のように4件法で回答することとなっており、前者2つを「肯定群」、後者2つを「否定群」として、クロス集計をして分析しました。

「成果指標の達成校と未達成校の比較」は、これまでと同様に、各施策の成果指標を達成した学校の特徴を把握するために、各成果指標の達成校と未達成校を比較し、χ²検定※で有意な差（5%水準）が生じている項目を明らかにしました。

※ χ²検定…2つの変数の間に関係があるかどうかをみる分析法

(1) キャリア教育

施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」における分析は以下のとおりです。

問 4：どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか/将来の夢を持っていますか（目標値 90%）

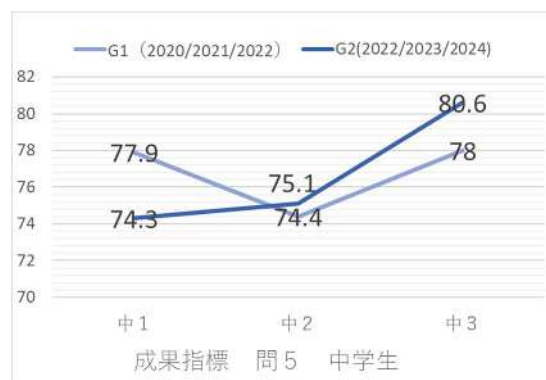
問 5：自分にはよいところがあると思いますか（目標値 85%）

問 6：自分のよいところを生かしながら活動していますか（目標値 80%）

ア 経年変化の分析



- G 1、G 2どちらも学年が上がるにつれて数値が下がる傾向
- G 1は中2から中3で数値が下がっているが、G 2は中2から中3で数値が若干上昇



- 2024年度は、小中学生ともに2023年度と比較して大きく数値が跳ね上がり、G 1の同一学年よりも数値が高い



- 2024年度は、小中学生ともに2023年度と比較して数値が上昇し、G 1の同一学年よりも数値が高い

イ 成果指標の達成校と未達成校の比較

問4で顕著に優位な差(◎)や優位な差(○)がみられた主な項目 《達成校：小18校、中0校》
<p>★小学校：達成校18校と未達成校30校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学生】</p> <p>◎（問1）キャリア教育で育てたい力を知っていますか</p> <p>◎（問2）キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか</p> <p>◎（問3）キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと感じますか</p> <p>◎（問5）自分にはよいところがあると感じますか</p> <p>【小学生保護者】</p> <p>◎（問2）キャリア・パスポートを通して、お子さんが何をがんばったか、またはがんばりたいと思っているか知っていますか</p>
問5で顕著に優位な差(◎)や優位な差(○)がみられた主な項目 《達成校：小18校、中4校》
<p>★小学校：達成校18校と未達成校30校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学生】</p> <p>◎（問1）キャリア教育で育てたい力を知っていますか</p> <p>◎（問2）キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか</p> <p>◎（問3）キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと感じますか</p> <p>◎（問4）どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか</p> <p>◎（問6）自分のよいところを生かしながら活動していますか</p> <p>★中学校：達成校4校と未達成校20校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【中学生】</p> <p>○（問1）キャリア教育で育てたい力を知っていますか</p> <p>○（問2）キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか</p> <p>◎（問6）自分のよいところを生かしながら活動していますか</p> <p>【中学生保護者】</p> <p>◎（問1）学校では、キャリア教育で子供にどのような力を育てようとしているか知っていますか</p> <p>◎（問2）キャリア・パスポートを通して、お子さんが何をがんばったか、またはがんばりたいと思っているか知っていますか</p>
問6で顕著に優位な差(◎)や優位な差(○)がみられた主な項目 《達成校：小26校、中6校》
<p>★小学校：達成校26校と未達成校22校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学生】</p> <p>◎（問1）キャリア教育で育てたい力を知っていますか</p> <p>◎（問2）キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか</p> <p>◎（問3）キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと感じますか</p> <p>◎（問4）どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか</p> <p>◎（問5）自分にはよいところがあると感じますか</p> <p>★中学校：達成校6校と未達成校18校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【中学生】</p> <p>◎（問1）キャリア教育で育てたい力を知っていますか</p> <p>◎（問2）キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか</p> <p>◎（問3）キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと感じますか</p> <p>◎（問4）どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか</p> <p>◎（問5）自分にはよいところがあると感じますか</p> <p>【中学校教員】</p> <p>○（問1）自校のキャリア教育で育てたい力を踏まえて実践している</p> <p>○（問3）自校のキャリア教育で育てたい力を子供と共有し、実践している</p>

- 成果指標（問4・問5・問6）の達成校は、未達成校よりも、小中学生のキャリア教育に関する項目で優位な差がみられる。教員への調査では、問6の中学校教員以外は、キャリア教育に関する質問項目に有意な差がみられなかった。そのため、同等の取り組みがなされていても、児童生徒と意義が共有できているかで差が生じている可能性がある。
- 上記以外にも、小学生・中学生への調査では、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」といった、「先生」「学級の友達」「家族」「地域の方」「外国の人」といった他者に言及している項目でも優位な差がみられた。なりたい大人や自分のよさを見出す上で、他者との関わりが重要になっている可能性が考えられる。
- 上記以外にも、「住んでいる地域の行事に参加していますか」といった、地域の行事やスポーツなどに関する項目でも差がみられることがあり、地域の行事やスポーツが自分のよさにつながる可能性も考えられる。

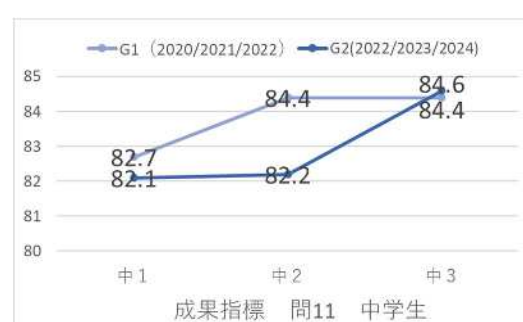
（２）確かな学力の育成

施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」における分析は、以下のとおりです。

問10_自分で決めた時間に勉強していますか/自分で計画を立てて勉強していますか（目標値 75%）
問11_自分が決めたことは最後までやりとげようとしていますか（目標値 90%）



- 小中学校ともに 2022 年度から 2023 年度で数値が大きく下がる傾向が見られたが、2024 年度は数値が上昇
- 中学校は大幅(約 9Pt)上昇し、G 1 の同一学年より数値が高い数値



- 小中学生ともに 2023 年度と比較して大きく数値が跳ね上がり、G 1 の同一学年よりも数値が高い

問 10 で顕著に優位な差（◎）や優位な差（○）がみられた主な項目 《達成校：小 8 校、中 0 校》
<p>★小学校：達成校 8 校と未達成校 40 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学生】</p> <p>○（問 11）自分が決めたことは最後までやりとげるようにしていますか</p> <p>◎（問 12）授業では、課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか</p> <p>◎（問 13）学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか</p>

問 11 で顕著に優位な差（◎）や優位な差（○）がみられた主な項目 《達成校：小 19 校、中 3 校》
<p>★小学校：達成校 19 校と未達成校 29 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学生】</p> <p>◎（問 10）自分で決めた時間に勉強していますか</p> <p>◎（問 12）授業では、課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか</p> <p>◎（問 13）学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか</p>
<p>★中学校：達成校 3 校と未達成校 21 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【中学生】</p> <p>○（問 12）授業では、課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか</p>

- 成果指標（問 10・問 11）の達成校の小学生・中学生は、未達成校よりも、「授業では、課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか」という点でも優位な差がみられる。
- 上記以外にも、成果指標（問 10・問 11）の達成校は、未達成校よりも、キャリア教育に関するいくつかの項目でも優位な結果がみられる。
- 上記以外にも、問 10 の達成校の教員は、未達成校よりも、保護者や地域との連携に関する項目でも優位な結果がみられる。

（３）教育の情報化

施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」における分析は、以下のとおりです。

問 17_自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞にまとめ発表することができますか (目標値 70%)
問 18_インターネットやゲームをする（情報をやり取りする）ときのルールやマナーを守ることができますか (目標値 100%)



- G 1、G 2 どちらも学年が上がるにつれて数値が上昇する傾向
- 2024 年度は、中学校は約 5Pt 上昇し、G 1 の同一学年より数値が高い



- G1、G2 どちらも学年が上がるにつれて数値が上昇する傾向
- 2024 年度は、小学校、中学校ともに G1 の同一学年より数値が高い

イ 成果指標の達成校と未達成校の比較

問 17 で顕著に優位な差 (◎) や優位な差 (○) がみられた主な項目 《達成校：小 39 校、中 22 校》
<p>★小学校：達成校 39 校と未達成校 9 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学生】</p> <p>◎ (問 19) 情報を活用した場面 (情報を集める・まとめる・発表する) を振り返り、次にやってみたいことを考えることができましたか</p>
<p>★中学校：達成校 22 校と未達成校 2 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【中学生】</p> <p>◎ (問 19) 情報を活用した場面 (情報を集める・まとめる・発表する) を振り返り、よりよい活用方法を考えることができましたか</p> <p>【中学校教員】</p> <p>○ (問 17) 「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている</p>
問 18 で顕著に優位な差 (◎) や優位な差 (○) がみられた主な項目 《達成校：小 7 校、中 5 校》
<p>★小学校：達成校 7 校と未達成校 41 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【小学校教員】</p> <p>○ (問 17) 「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている</p> <p>◎ (問 19) 調べたことをまとめるときは、収集した情報の中から目的に合ったものを選んで使うよう子供に指導している</p>
<p>★中学校：達成校 5 校と未達成校 19 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【中学生】</p> <p>◎ (問 17) 自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができますか</p>
<p>➤ 教員の調査では、「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいた指導に差がみられる場合がある。</p> <p>➤ 上記以外にも、成果指標 (問 17・問 18) の達成校は、未達成校よりも、キャリア教育に関するいくつかの項目でも優位な結果がみられる。</p> <p>➤ 上記以外にも、問 18 の達成校の小学生は「自分で決めた時間に勉強していますか」といった勉強の習慣、中学生は「平均して 1 日に 1 時間以上、運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをしていますか」といったスポーツの習慣に関する項目でも、未達成校より、優位な結果がみられる。</p>

(4) コミュニティ・スクールの推進

施策 7-2「地域との連携・協働の推進」における分析は、以下のとおりです。

地域問 4_学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか
(目標値 95%)

地域問 5_地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか(目標値 80%)



- 小中学校ともに、年度が進むにつれて数値が上昇する傾向
- どの年度においても小学校のほうが中学校より数値が高い
- 数値の上下はあるが、いずれの年度も目標値を達成

イ 成果指標の達成校と未達成校の比較

地域問 4 で顕著に優位な差 (◎) や優位な差 (○) がみられた主な項目 《達成校：小 40 校、中 15 校》

★小学校：達成校 40 校と未達成校 4 校を比較して、有意な差のみられた主な項目

【小学生】

- ◎ (問 33) 家族や地域の方から学ぶことは、自分のためになると思いますか
- ◎ (問 34) 学習ボランティアなど、地域の方が学習に関わってくれている (手助けしてくれている) と思いますか

【小学校教員】

- (問 39) 学習のねらいに基づいた、保護者や地域の人材を活用する授業を実施している、または予定している
- ◎ (問 41) 地域の人材や素材の活用により、教育活動が充実している
- ◎ (問 42) 保護者や地域住民の学校支援活動により、子供と向き合う時間の確保につながっている

【小学生保護者】

- (問 25) 地域の中で子供たちが育てられていると感じていますか
- ◎ (問 27) コミュニティ・スクールとは、「地域住民や保護者が学校の運営や支援について協議する『学校運営協議会』を設置している学校」であることを知っている

★中学校：達成校 15 校と未達成校 3 校を比較して、有意な差のみられた主な項目

【中学生保護者】

- ◎ (問 24) 学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか
- (問 26) 体験活動 (地域の祭りや親子講座等) や地域のボランティア活動などへの参加をお子さんに促していますか

地域問 5 で顕著に優位な差 (◎) や優位な差 (○) がみられた主な項目 《達成校：小 38 校、中 12 校》

★小学校：達成校 38 校と未達成校 6 校を比較して、有意な差のみられた主な項目

【小学生】

- (問 33) 家族や地域の方から学ぶことは、自分のためになると思いますか
- ◎ (問 34) 学習ボランティアなど、地域の方が学習に関わってくれている (手助けしてくれている) と思いますか

<p>【小学校教員】</p> <p>◎（問 41）地域の人材や素材の活用により、教育活動が充実している</p> <p>【小学生保護者】</p> <p>○（問 25）地域の中で子供たちが育てられていると感じていますか</p>
<p>★中学校：達成校 12 校と未達成校 6 校を比較して、有意な差のみられた主な項目</p> <p>【中学生保護者】</p> <p>○（問 27）コミュニティ・スクールとは、「地域住民や保護者が学校の運営や支援について協議する『学校運営協議会』を設置している学校」であることを知っている</p>

- 成果指標（地域問 4・地域問 5）の達成校は、未達成校よりも、地域に関するいくつかの項目でも優位な結果がみられる。
- 上記以外にも、地域問 4 の達成校では、「学校にいるときに地震が起きたら、どのように避難するか知っていますか」（小学生）、「災害や事故から命を守り、安全を確保するための方法について子供に指導している」（小学校教員）、「災害が起こったときのこと（避難する場所など）についてお子さんと話し合いましたか」（小学生保護者）など、災害やいじめなどの子どもの安全に関するいくつかの項目でも優位な結果がみられる。

（５）全体のまとめ

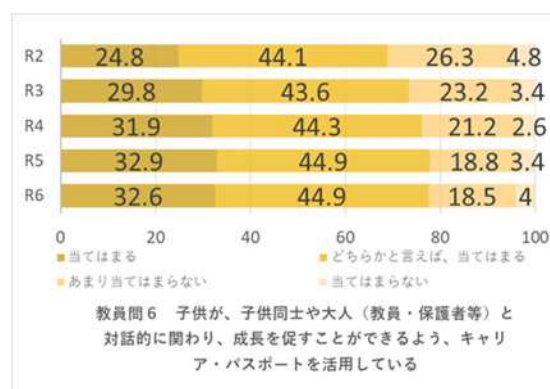
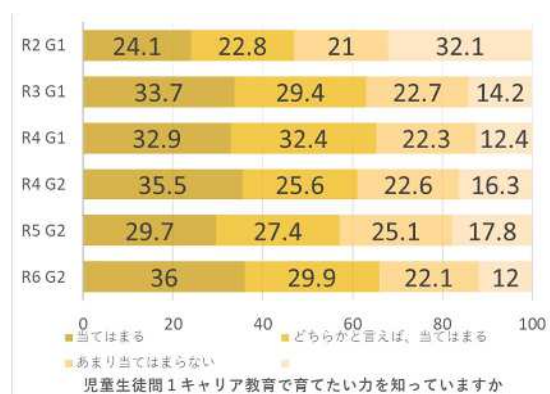
第 3 次後期計画の 5 年間（2020 年度～2024 年度）は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、これからの学校教育の土台となる概念が定着していった時期として評価することができると考えられます。「概念分析の社会学」では、専門的な知識が私たちの存在と経験、行為の新たな可能性を作り上げ、裁ち直してきたことを指摘しています。実際に「SDGs」や「LGBTQ」といった新たな概念が、私たちの存在、経験、行為の在り方に影響を与えています。これと同様に、学校教育に関する新たな概念の受容と展開が、学校教育の新たな可能性を切り拓いてきたと考えられます。5 年間の総括として、各重点施策を概念の定着という視点から検討します。

施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」では、「キャリア教育」や「キャリア・パスポート」が定着したことがうかがえます。

例えば、児童生徒の「キャリア教育で育てたい力を知っていますか」という問いへの肯定的な回答の割合は、2020 年度と 2024 年度を比較すると 19%増加しています。

また、教員のキャリア・パスポートの活用に関する問いも、肯定的な回答の割合は、2023 年度まで年々増加し、2020 年度と 2024 年度を比較すると 8.4%増加しています。

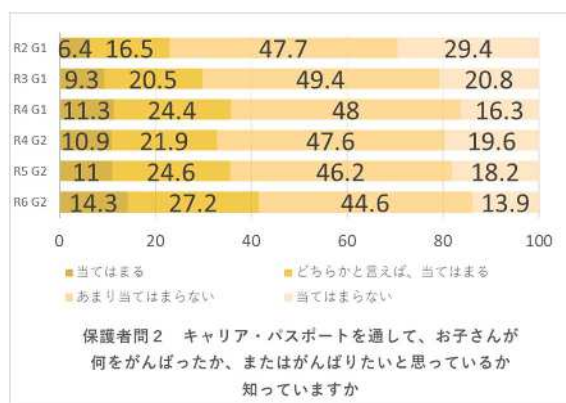
保護者のキャリア・パスポートを通した子ども理解に関する問いの回答は、肯定的な回答よりも否定的な回答の割合の方が大きいものの、同一のグループ（G1、G2）の中では、年々増加しました。2020 年度と 2024 年度の肯定的な割合の回答を比較すると 18.6%増加しています。



以上のように、「自分らしい生き方の実現のための教育」では、児童生徒のキャリア教育への理解が高まっただけではなく、教員や保護者のキャリア・パスポートの活用が高まったことを成果として捉えることができます。

今年度の調査でも、施策 1-1 に関する将来の夢（成果指標問 4）や、自分のよさ（成果指標問 5、問 6）について、成果指標の達成校の児童生徒は、未達成校よりも、キャリア教育やその意義への理解が高く、キャリア・パスポートを活用した効果を実感していました。

児童生徒が将来の夢をもち、自分のよさに気づき、それを活かしていくためにも、キャリア・パスポートの活用をはじめとしたキャリア教育の充実をはかっていくことが重要になると考えられます。保護者のキャリア教育への理解やキャリア・パスポートの活用も高まっていますが、発展途上にあるといえます。教員の調査では小学校・中学校で差のみられる項目もあるため、学校種をこえた連携も重要になると考えられます。

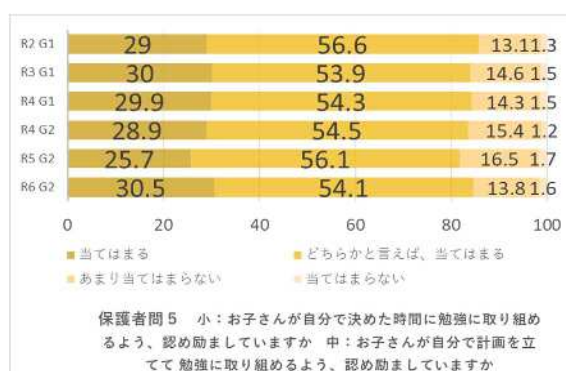


施策 3-1「確かな学力の育成」の「自分で決めた時間に勉強していますか（自分で計画を立てて勉強していますか）」という成果指標は、現在の教育課程で重視されている「主体的に学習に取り組む態度」にもつながる「学習の自己調整」に関する項目です。

成果指標問 10 の経年変化の結果にみられるように、目標値の肯定的な回答の割合は 75%であるのに対して、2024 年度の調査結果では、児童は 63%、生徒は 59%にとどまっています。

こうした児童生徒の結果に対して、教員の指導や保護者の声かけに関する調査結果では、一貫して肯定的な回答が 80%をこえる状態を維持し続けています。このように教員や保護者は働きかけがなされる一方で、児童生徒の結果は、思うようにのびない状況が続いています。

したがって、児童生徒の学習の自己調整につながるような有効な手立てを考え続けていく必要が課題として残されているといえます。



施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」については「ICT の活用」に大きな進展がみられました。

成果指標問 17 の経年変化で示したように、児童生徒の ICT の活用能力に関する質問項目は、学年があがるにつれて向上している状況がうかがえます。

また、情報モラルに関する成果指標問 18 も肯定的な回答が 90%をこえる高い水準を維持しています。



教員の授業でのＩＣＴの活用頻度に関する質問でも、「ほとんど活用できていない」の割合が、2021年度は30.3%であったのに対して、2024年度は14.7%であり、半減しています。このように授業での活用が進んだといえます。

児童生徒の実態把握調査（問16）では、タブレット型端末を使う授業を分かりやすいと感じていない児童生徒が1割程度いる状況も明らかになっています。これからは、頻度だけでなく、使う場面や使い方といった質の面も重要になると考えられます。

施策7-2「地域との連携・協働の推進」については「コミュニティ・スクール」が定着し、保護者や地域の理解が進みつつある状況がうかがえます。

成果指標地域間3の経年変化で示したように、「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っている」との地域からの回答は向上してきており、2024年度は、小学校・中学校ともに、肯定的な回答は、目標値の95%を上回っています。

教員の実態把握調査の結果（問40）からは、保護者や地域住民と学校運営をしているという教員の意識が徐々に高まってきていることがうかがえます。ただし、2024年度の間40の肯定的な回答の結果は、小学校では91.4%、中学校では79.9%であり、学校種によって差がみられます。

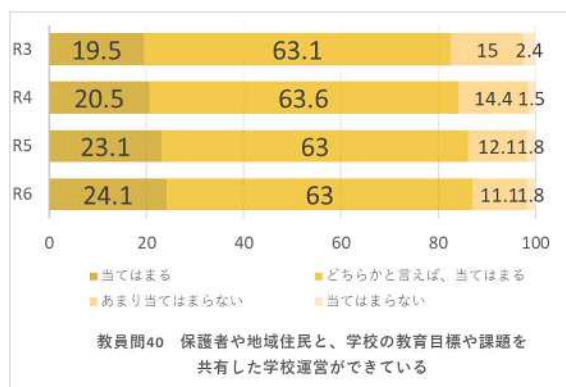
保護者の実態把握調査の結果（問27）からは、「コミュニティ・スクール」という概念が、保護者の間にも浸透しつつある状況がうかがえます。

各グループ（G1、G2）でみたときに、年々、肯定的回答の割合が増加しています。しかしながら、G1、G2のいずれも50%には達していなかったため、今後も、「コミュニティ・スクール」について、理解を広めていく必要があります。

以上のように、第3次後期計画の期間を通して、「キャリア教育」「ＩＣＴ教育」「コミュニティ・スクール」といった概念が定着し、進展してきたことがうかがえます。

第3次後期計画の評価・検証では、教育委員会が作成した独自の質問紙により、各学校への取組状況調査と、教員、児童生徒、保護者、地域を対象とした実態把握調査が実施されました。こうした調査は、実証的に現状を明らかにするだけでなく、新しい認識を社会的に構成して共有し、新たな取り組みへの参加を促すという点においても、重要な役割を果たしてきたと考えられます。各学校の取組状況調査では、各項目に対する具体的な各校の取組の概要が自由記述の回答として記され、共有されてきました。実態把握調査は、質問紙へ回答することを通して、市の重視する施策を、教員や児童生徒だけではなく、保護者や地域とも共有することにつながっていたのではないかと考えられます。

こうした第3次後期計画の成果が、第4次をはじめとした今後の浜松市の教育において、ますます発展していくことを強く願っています。



IV 教育長・教育委員、有識者の意見

1 教育長・教育委員の意見

宮崎 正 教育長

本年度は、第3次浜松市教育総合計画の総括にあたり、「キャリア教育の推進」「教育の情報化の推進」「コミュニティ・スクールの推進」と、「いじめ防止対策」を重要な取組と捉え、推進してきました。キャリア教育については、家庭や地域と連携・協働したキャリア教育が展開されました。将来の夢や希望をもった子供の割合が全国平均よりも高いことや、毎年、市立学校が文部科学大臣表彰を受賞するなど高く評価されました。教育の情報化については、1人1台端末により、各学校のタブレット型端末の普段使いが浸透してきていますが、まだまだ課題があります。特に、教育DXとデータの利活用は、重要な視点であり、教員の指導力の向上と、一人ひとりに寄り添った個別最適な学びにつなげることが求められます。コミュニティ・スクールについては、今年度、すべての市立小中学校、高等学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとなりました。今後は、地域とともにある学校を進め、更なる質の向上が求められます。いじめ防止対策については、「いじめ見逃し0」を目指し、引き続き、いじめの積極的な認知、組織的な対応、未然防止取組が必要です。このような状況を踏まえ、令和7年度からの「第4次浜松市教育総合計画」に基づいた教育が展開されることを期待しています。

黒柳 敏江 委員

総合教育会議では「不登校児童生徒の支援について」市長と協議を行いました。不登校の現状は年々増加傾向にあります。幅広い支援策も施されて来ているように感じます。しかし、依然として不登校に悩む児童生徒や保護者がいることは確かです。今回、中学を卒業した後のサポート体制について話し合えたことは更なる支援策の一步だと思います。切れ目のないサポート体制を整え、こども達が社会に向けて自立できるよう今後も協議を重ねていく事が重要だと考えます。

また今年度は、第4次教育総合計画を策定するにあたり、多くの方々の意見等を踏まえ完成したことは大変意義のある事だと思います。私自身その協議に参加させていただいたことに感謝すると共に教育委員として身の引き締まる思いです。新年度に向けてスタートしていきますが、「描く夢や未来の実現」に向けて私自身教育委員としてできることを探りながら職務に全うしていきたいと思っています。

田中 佐和子 委員

第4次浜松市教育総合計画が策定され、第3次同様、施策ごと丁寧に点検・評価を重ねていくことが、様々な問題解決や学校教育の質の向上に繋がると思います。これらの推進には、行政として課題や取組の方向性を明確にすることと併せて、実際の教育現場で子どもたちや保護者・地域と関わる教員を支えていただくことが不可欠です。

教育委員任命のこの数年間で、人口減少に伴う中山間地域での学校や幼稚園の編成、不登校児童生徒の急激な増加など、公教育を取り巻く課題が加速度的に変化していることを感じています。これらの問題を、学校教育だけの枠組みではなく、浜松市さらに社会全体の問題として捉えるという観点から、総合教育会議が更なる有意義な場となるよう期待しています。

今後も浜松の教育への強い想いをもち、職責を果たして参りたいと思っています。

神谷 紀彦 委員

令和6年度、浜松市教育委員として地域の教育向上に努めました。今年度は第4次教育総合計画を作成するという大きなテーマに取り組めたことは、大変勉強になりました。

子どもたちの学力向上と多様な学びの機会の充実に取り組む中で、ICT活用や個別最適な学習の推進にはさらなる工夫が必要だと感じました。また、いじめや不登校問題への対応では、学校・家庭・地域が一体となる支援の重要性を再認識しました。

一方で、学校施設の老朽化や教職員の働き方改革、体罰や不祥事など、解決すべき課題も残っています。これらの問題に対し、教育現場の声を丁寧に聞き、より実効性のある施策を進めることが求められます。

来年度も、子どもたちが安心して学べる環境づくりに一層尽力し、地域と連携した持続可能な教育の実現を目指します。

鈴木 重治 委員

教育を支える環境においては、教育現場が期待する能力を備えた教員志望者の確保、教職員となった後の資質能力の向上、そして、教職員の働く環境の改善が非常に重要だと考えています。

浜松市の包括外部監査人の監査結果が公表され、教職員の残業に当たる「時間外在校等時間」の目標値と実態との乖離を指摘し、実態把握と要因を分析し、削減に向けた効果的な取り組みを継続的に実施する必要があるとの意見が出されたとのことでした。いわゆる「働き方改革」は、教育を支える環境を改善するためには不可欠なことであり、教育委員会としての取り組み、検証、見直しが、さらには、教職員の意識においても十分ではなかったということを強く意識させられました。

働き方改革を迅速に進めるためには、偽りのない教育現場の状況把握が必要であり、その上で、効果的な取り組みを継続していかなければならないということを改めて意識して、教育委員としての職責を果たしていきたいと考えています。

下鶴 志美 委員

令和6年7月1日より、浜松市教育委員を務めさせていただいております。第3次浜松市教育総合計画の評価・検証を拝見し、学校及び関係各課の取り組み状況と児童生徒、教員及び保護者、地域住民などの意識や実態がよくわかりました。今、想定を上回る速さで社会が変化し、将来の予測が困難な時代を迎えています。こうした中、描く夢や未来の実現に向けて、様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働しながら、課題を解決することができる資質・能力を育むことが求められています。

浜松の未来を担う子どもたちが、自らの可能性を最大限に広げ健やかに成長できるように、第4次浜松市教育総合計画へ教育理念を繋げていきたいと思っています。浜松を誇りに思い、浜松の未来を担う人づくりのために学校・家庭・地域が一体となって、教育を推進することができるよう、教育委員として微力ながら働き掛けていきたいと思っています。

2 有識者の意見

文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄 氏

令和5年6月に閣議決定された教育振興基本計画では、計画のコンセプトとして、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、今後の政策に関する5つの基本方針が示されました。持続可能な社会の創り手の育成を図りつつ、教育を通じてウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態にあること）を向上させる学校づくりがこれまで以上に求められるようになりました。

（１）キャリア教育の推進

キャリア教育とは、将来自分らしい人生を実現する力を育成することを念頭に教育を行うことです。自分らしい人生を実現するとは、夢（目標）の実現に向け、自分の強みを生かし、他者と協働して努力し、強みを高めていくことです。全国学力・学習状況調査（調査対象：小6、中3）では、「将来の夢や目標を持っているか」、「自分にはよいところがあると思うか」の項目で、小学校は約4Pt、中学校は約2Pt上回る結果を示しています。これまで浜松市が取り組んできたキャリア教育が良い影響を与えた可能性があります。引き続き、ウェルビーイングを高めるキャリア教育に取り組んでいただくことを期待します。

（２）教育の情報化の推進

教育振興基本計画に盛り込まれた基本方針の一つが教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進です。デジタル化には一般に「デジタイゼーション」、「デジタライゼーション」、「デジタルトランスフォーメーション（DX）」の3段階があるとされています。GIGAスクール構想による1人1台端末の実現により第1段階の準備は整ったところであり、全ての学校において第1段階を着実に実行しつつ、当面、第3段階を見据えながら、全国全ての学校で、第1段階から第2段階への移行を着実に進めることが求められています。全国学力・学習状況調査の結果を見ると、浜松市の授業でのICT端末活用率は高いとは言えません。第3段階である教育デジタルトランスフォーメーションに向け、さらなる投資と教育デジタルトランスフォーメーションをリードする人材の開発を期待します。

（３）コミュニティ・スクールの推進

持続可能な社会の創り手の育成を図りつつ、教育を通じてウェルビーイングの向上を図る上では、教師のウェルビーイングを確保することが必要であると国際的に指摘されています。教育振興基本計画では、「子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる」（10頁）と記述されています。また、教師のウェルビーイングが学びの土壌や環境を良い状態に保ち、子どもたちのウェルビーイングを向上する基盤となり、「子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していく」（教育振興基本計画、3頁）という姿が理想として示されています。さらに、地域住民と子どもたちとのかかわりは、子どもたちのウェルビーイングに加え、地域住民自身のウェルビーイングを高める機会にもなるはずです。浜松市では、コミュニティ・スクール導入校は97.2%に達しています。ウェルビーイングというキーワードに注目しつつ、充実したコミュニティ・スクールが推進されることを期待しています。

令和5年度の「はままつ人づくり未来プラン」（以下「未来プラン」）における評価・検証部会は、令和6年1月29日に開催され、取組状況調査結果、実態把握調査結果及び村井大介氏（静岡大学教育学部准教授）による専門的分析結果をふまえ、学校関係職員と保護者代表と現状認識や改善方策について意見交換を行った。今年度の実態把握調査は抽出で行われたが、グループ2（小5、中2）は昨年度と同じ回答群のため経年比較ができる工夫もされていた。

教育施策の評価・検証をここまで丁寧実施していることは賞賛に値する。この結果を学校で活かせるようになると良いと考えたため、その観点から2点指摘したい。

1. 施策浸透度の「量」から「質」への転換

調査結果等から、改めて浜松市が進めてきた教育理念である「自分らしさの育成」の手段として、キャリア教育、ICT活用、地域との連携を重点課題として取り組まれてきたことの「つながり」が垣間見られた。例えば、自分のよさを認識する自己肯定感が高まることで、自分で決めた時間に勉強する自己管理能力やICT活用をしながら発表するという活動につながりが見られた。また、自分になりたい夢や希望等、自分のよさを認識する手段としてキャリア・パスポート等を通じ、自分自身の内省的な振り返りや、保護者や地域に情報発信することによって、自分以外の他者からの関わりで、相対的に自分のよさを認識することができる効果が自己理解や自己肯定感の向上につながり、「学習習慣」にも影響を与えることが示唆された。

上記の結果は、浜松市教育委員会が重点施策として位置づけ、周知等をはかったことでキャリア教育の実践校やコミュニティ・スクールの実施校の増加につながったことによる効果が大きいと考えられる。また、学校や保護者も重点施策の意義等を感じつつも、それぞれが独立した施策として受け止められている様子も窺えた。改めて、教育理念である「自分らしさの育成」の手段としての重要施策であることを再確認するとともに、各学校がそれぞれの施策を関連づけることができるような支援を教育委員会に期待したい。いわば、施策の浸透度という「量」から「質」への転換を促すことにご尽力いただきたい。

2. 第4期教育振興基本計画に向けた「評価・検証サイクル」の在り方の検討

浜松市は先述のように、取組状況調査結果、実態把握調査結果及び専門的分析を毎年度実施しており、現状認識と改善方策について意見交換を行っている。この規模でPDCAサイクルが機能するシステムを構築したことは評価に値する。資料も実態が詳細に記されており、教育委員会事務局内ではしっかり共有され、各部局の施策の見直しや運用の改善などがはかられており、大変有効であると考えている。

一方で、「評価・検証」は各施策が教育理念等の「目的」が変われば、その在り方も変容すべきという考え方もある。実際に、第3期教育振興基本計画中也社会情勢等の変化に応じて「評価・検証」の対象や方法も変容してきた。令和7年度からは新しい教育振興基本計画を基に教育施策が展開されていくことになるため、「評価・検証」の在り方も連動して検討していく必要がある。

新しい教育振興基本計画に向けて「評価・検証」の在り方を関係者間で協議することで、教育施策の改善につながることを期待したい。

今年度の「評価・検証」推進部会では、昨年度までと同様に、主に施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」、施策 3-1「確かな学力の育成」、施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」、施策 7-2「地域との連携・協働の推進」に関する実態把握調査の結果を分析し、検証しました。今年度も、成果指標の達成校と未達成校を比較して両者の違いを明らかにしました。

施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」については、「どんな大人になりたいのか」という目標をもっていますか（小学生）／将来の夢をもっていますか（中学生）」（成果指標 90%）、「自分にはよいところがあると思いますか」（成果指標 85%）、「自分のよいところを生きながら活動していますか」（成果指標 80%）をもとに分析しました。どの項目でも成果指標の達成校の児童生徒は、未達成校よりも、他の調査項目においてもよいあらわれがみられました。また、成果指標の達成校の児童は、未達成校よりも、キャリア・パスポートを活用したことの意義を児童自身が実感していました。学校では自校のキャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立てを工夫していくことが重要です。調査結果から、児童が自身のよさに気づき、自分のよさを生かすには、友達や、教員、家族、地域の存在が重要になっていることも明らかになりました。保護者が子供に地域の行事や活動への参加を促すことも重要になります。

施策 3-1「確かな学力の育成」については、「自分で決めた時間に勉強していますか（小学生）／自分で計画を立てて勉強していますか（中学生）」（成果指標 75%）については、昨年度や一昨年度の結果よりも、肯定群の割合が小さくなっていました。達成校の児童は、未達成校の児童よりもキャリア教育の意義を認識しており、教員及び保護者の調査でもキャリア教育に関する項目に差がみられました。また、「自分が決めたことは最後までやりとげるようにしていますか」（成果指標 90%）の達成校の児童生徒は、未達成校よりも、地域の行事参加がみられ、達成校の教員及び保護者は、未達成校よりも、地域に関する学習や地域への参加の声掛けに有意な差がみられました。以上のことからキャリア教育や地域への参加が鍵になると考えられます。

施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」については、「自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができますか」（成果指標 70%）は、小学校、中学校のいずれも成果指標を達成しており、達成校の児童生徒は、未達成校よりも、他の学習に関する項目においても優れた結果がみられました。「インターネットやゲームをするときのルールやマナーを守ることができますか（小学校）／情報をやり取りするときのルールやマナーを守ることができますか（中学校）」（成果指標 100%）は、学校での指導の他に、保護者の地域に関する項目でも差がみられたため、地域とのつながりも重要な要素になっている可能性が考えられます。

施策 7-2「地域との連携・協働の推進」については、「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか」（成果指標 95%）の達成校の教員は、未達成校よりも、地域の人材を活用する授業を行おうとしていました。また、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか」（成果指標 80%）の達成校の児童生徒は、未達成校よりも、地域の行事に参加していました。

今回の調査では、教員一人あたりの児童生徒数の少ない小規模校で成果指標が達成されている場合がみられました。特に施策 3-1「確かな学力の育成」や施策 3-3 の情報のルールやマナーなど、児童生徒の生活習慣とも関連の深い項目でその傾向がみられました。これらの項目では、学校・保護者・地域で連携した手厚い指導が重要になると考えられます。

V 令和6年度の評価と今後の方向性

(1) 取組状況調査について

関係課へ実施した取組状況調査では、163 の取組内容のうち、93%にあたる 152 の取組が「計画より進んでいる（S）」、「計画どおり進んでいる（A）」という評価となり、前年度を約3Pt 上回りました。なお、「遅れている（B）」と評価した取組の多くは、学校を対象とした講座等において年度の目標校数を達成できなかったことによるものです。

学校の取組状況調査では、99 の取組内容のうち、35 の取組で昨年度より数値が上昇し、特に、郷土愛の醸成、豊かな心・健やかな体の育成に関する取組で数値の上昇が見られました。令和2年度との比較では、63 の取組で数値が上昇しました。

(2) 実態把握調査について

児童生徒及び教員、保護者、地域住民へ実施した実態把握調査では、26 項目ある成果指標のうち、11 項目で目標値を達成しました。

また、目標値を達成できていないものの、昨年度より数値が上昇した指標は、20 項目と昨年度より大幅に増加しました。

重点施策に関する調査結果を見ると、キャリア教育では、児童生徒がキャリア教育で育たい力を自覚することができる手立ての工夫、キャリア・パスポートの活用や学校だよりによる保護者への周知、学校運営協議会等での地域への情報共有が図られ、全市的にキャリア教育が浸透、定着してきている状況が確認できました。

教育の情報化では、児童生徒・保護者・教職員ともに情報モラル教育に関する項目で高い数値を維持し、「自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞などにまとめて発表することができる」「情報を活用した場面を振り返り、次にやってみたいことを考えることができる」と回答した子供の数値に上昇が見られ、ICT活用能力の向上が確認できました。

コミュニティ・スクールでは、教職員・児童生徒・保護者・地域住民の全てで、地域の人材や素材の活用による教育活動の充実に関する項目の数値が8割以上となっており、制度への理解が深まったことで、共通認識のもと学校のニーズに応じた学校支援活動が展開されていることが確認できました。

(3) 評価と今後の方向性

関係課や学校の取組状況調査、児童生徒・保護者・地域住民の実態把握調査の結果から、令和6年度の取組状況は概ね良好であると考えます。

令和7年度から「描く夢や未来の実現」を基本理念とする第4次浜松市教育総合計画がスタートします。第4次計画は、第3次浜松市教育総合計画 後期計画の評価・検証に基づく成果と課題、本市の現状や多様な教育的ニーズなどを踏まえ、国の第4期教育振興基本計画を参酌しながら、2年間の協議を経て策定しました。

基本理念と目指すこどもの姿・教職員の姿の実現に向け、学校・保護者・地域・行政・関係団体の連携・協働のもとに、計画に位置付けた施策・取組を推進していきます。

Ⅵ【参考】教育委員会議案等と附属機関及び庁内会議

1 教育委員会議案・報告事項

議案の内容

- ①議会提出議案等に対する意見
- ②人事に関すること
- ③教育委員会規則・規程等の制定・改廃
- ④教科書採択
- ⑤計画の策定
- ⑥教育委員会点検・評価等
- ⑦文化財の指定・解除

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
4月24日（水） 傍聴2人	議案	1	浜松市かわな野外活動センター条例の一部改正の議会提案について	指導課	①
	議案	2	浜松市かわな野外活動センター条例施行規則の一部改正について	指導課	③
	議案	3	第37期浜松市社会教育委員の委嘱及び解嘱について	創造都市・文化振興課	②
	議案	4	浜松市立図書館協議会委員の委嘱及び解嘱について	中央図書館	②
	報告	1	令和6年度全国学力・学習状況調査について	教育センター	
	報告	2	令和5年度浜松市立高等学校の部活動と進路等の状況について	市立高校	
	報告	3	令和6年度浜松市立小中学校児童・生徒数について	教育支援課	
	報告	4	令和6年度浜松市立幼稚園園児数について	幼保運営課	
	報告	5	「こどもまんなか応援サポーター」の宣言等について	こども若者政策課	
	報告	6	市内の新たな県指定文化財について	文化財課	
	報告	7	いじめの重大事態に係る調査報告書について（新津中学校）	指導課	
	報告	8	いじめの重大事態に係る調査報告書について（笠井中学校）	指導課	
5月29日（水） 傍聴2人	議案	5	令和6年度補正予算（案）の議会提案について		①
	議案	6	浜松市美術館条例の一部改正について	美術館	①
	議案	7	令和5年度教育委員会評価・点検報告書（案）について	教育総務課	⑥
	議案	8	浜松市博物館協議会委員の委嘱について	博物館	②
	報告	9	令和6年度浜松市放課後児童会登録児童数及び待機児童数について	教育総務課	
	報告	10	令和5年度学校施設等の被害状況について	教育施設課・幼保運営課	
	報告	11	令和5年度問題行動、いじめ及び不登校の実態について	指導課・教育支援課	
	報告	12	令和6年度浜松市奨学生（継続貸与者）の選考結果について	教育支援課	
	報告	13	浜松市博物館資料紛失に係る対策の進捗について	博物館	
6月24日（月） 傍聴1人	議案	9	浜松市美術館条例施行規則の一部改正について	美術館	③
	議案	10	浜松市文化財保護審議会委員の委嘱について	文化財課	②
	報告	14	教育長職務代理者の指名について	教育総務課	
	報告	15	令和5年度教職員の体罰、不適切な言動及びセクシュアル・ハラスメントに関する調査結果について	教職員課	
	報告	16	北方領土青少年等現地視察事業の実施について	指導課	

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
7月24日（水） 傍聴15人	議案	11	浜松市立幼保連携型認定こども園に係る教育委員会の意見聴取に関する規則（案）について	幼保運営課	①
	議案	12	浜松市学区外就学許可基準の一部改正について	教育支援課	③
	議案	13	令和7年度使用浜松市立高等学校教科用図書採択について	市立高校	④
	議案	14	令和7年度使用浜松市小・中学校教科用図書採択について	教育センター	④
	報告	17	学校給食への異物混入について	健康安全課	
8月28日（水） 傍聴1人	議案	15	令和6年度9月補正予算（案）の議会提案について		①
	議案	16	浜松市立幼保連携型認定こども園条例の制定に伴う条例改正について	幼保運営課	①
	議案	17	浜松市立佐鳴台こども園の設置について	幼保運営課	①
	議案	18	物品購入契約締結について（浜松市立西図書館書架等備品）	中央図書館	①
	議案	19	浜松市立図書館協議会委員の委嘱及び解嘱について	中央図書館	②
	議案	20	教職員の人事について	教職員課	②
9月27日（金） 傍聴3人	議案	21	令和6年度末 教職員人事異動方針について	教職員課	②
	報告	18	令和7年度採用浜松市立小中学校教員採用選考試験の結果について	教職員課	
	報告	19	令和6年度全国学力・学習状況調査「浜松市の結果（概要）」について	教育センター	
10月30日（水） 傍聴2人	議案	22	令和6年度11月補正予算（案）の議会提案について		①
	議案	23	浜松市教育職員の給与に関する条例等について	教職員課	①
	議案	24	浜松市墓園・墓地条例及び浜松市立学校給食センター条例の一部改正の議会提案について	健康安全課	①
	議案	25	浜松市立図書館条例の一部改正の議会提案について	中央図書館	①
	議案	26	浜松市立小中学校特別教室空調整備事業に関する契約締結の議会提案について	教育施設課	①
	議案	27	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市かわな野外活動センター）	指導課	①
	議案	28	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市秋野不矩美術館）	美術館	①
	議案	29	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市立中央図書館駅前分室、浜松市立南図書館）	中央図書館	①
	議案	30	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市立城北図書館）	中央図書館	①
	議案	31	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市立流通元町図書館）	中央図書館	①
	議案	32	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市立西図書館）	中央図書館	①
	議案	33	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市立東図書館）	中央図書館	①
	議案	34	指定管理者の指定の議会提案について（浜松市立南陽図書館）	中央図書館	①
	議案	35	教職員の人事について	教職員課	②
	報告	20	令和6年度全国・東海中学校総合体育大会結果について	指導課	
	報告	21	令和6年度浜松市立高等学校の部活動の状況（中間報告）について	市立高等学校	

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
11月26日（火） 傍聴2人	議案	36	工事請負契約締結の議会提案について （浜松市立西部中学校校舎改築工事（外構整備工事））	教育施設課	①
	議案	37	浜松市教育職員の期末手当及び勤勉手当に関する規則の一部改正について	教職員課	③
	報告	22	令和7年度浜松市奨学生の選考結果について	教育支援課	
12月25日（水） 傍聴2人	議案	38	教職員の人事について	教職員課	②
	議案	39	退職手当の支給制限について	教職員課	②
	報告	23	令和6年度浜松市優秀教職員表彰について	教職員課	
	報告	24	学校用非常食配備事業について	健康安全課	
1月29日（水） 傍聴5人	議案	40	令和6年度2月補正予算（案）の議会提案について		①
	議案	41	令和7年度当初予算（案）の議会提案について		①
	議案	42	浜松市教育職員の給与に関する条例の一部改正の議会提案について	教職員課	①
	議案	43	浜松市教育職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正の議会提案について	教職員課	①
	議案	44	浜松市学童等災害共済条例の一部改正の議会提案について	健康安全課	①
	議案	45	浜松市幼稚園条例の一部改正の議会提案について	幼保運営課	①
	議案	46	浜松市立小学校及び中学校条例の一部改正の議会提案について	教育総務課	①
	議案	47	物品購入契約締結の議会提案について （学校等体育館スポットクーラー）	教育施設課	①
	議案	48	浜松市指定文化財の指定解除について	文化財課	⑦
	報告	25	第17回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰について	教育総務課	
	報告	26	令和6年度幼稚園教諭・保育士採用試験結果について（R7年度採用）	幼保運営課	
2月17日（月） （臨時）非公開	議案	49	教育長の辞職の同意について	教育総務課	②
2月28日（金） 傍聴2人	議案	50	浜松市立幼保連携型認定こども園における教育課程に関する基本的事項の策定について	幼保運営課	①
	議案	51	浜松市教育職員の特殊勤務手当に関する条例施行規則の一部改正について	教職員課	③
	議案	52	第4次浜松市教育総合計画の策定について	教育総務課	⑤
	議案	53	令和6年度末市立幼稚園関係職員人事異動（案）について	幼保運営課	②
	議案	54	令和6年度末教職員人事異動（案）について	教職員課	②
	議案	55	令和6年度末学校関係職員（給食員・用務員）人事異動（案）について	教職員課	②
	報告	27	令和7年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制について	教職員課	
	報告	28	令和6年度末永年勤続表彰について	教職員課	
	報告	29	「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果（概要）について	教育センター	
	報告	30	こども向け無形民俗文化財紹介動画の公開について	文化財課	

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
3月14日（金）	議案	56	浜松市教育委員会事務局事務分掌規則の一部改正について	教育総務課	③
(臨時)非公開	議案	57	令和6年度末学校関係職員（市立高校）人事異動（案）について	教職員課	③
	議案	58	令和6年度末教育委員会事務局職員人事異動（案）について	教育総務課	③
3月26日（水）	議案	59	浜松市教育委員会公印規則の一部改正について	教育総務課	③
傍聴3人	議案	60	浜松市指導力向上教員の取扱いに関する規則の一部改正について	教職員課	③
	議案	61	浜松市教育職員の給与に関する規則等の一部改正について	教職員課	③
	議案	62	浜松市学校運営協議会規則の一部改正について	教育総務課	③
	議案	63	浜松市立幼稚園園則の一部改正について	幼保運営課	③
	議案	64	浜松市学校事務センターに関する規則の一部改正について	教職員課	③
	議案	65	浜松市立学校給食センター条例施行規則の一部改正について	健康安全課	③
	議案	66	浜松市立小学校、中学校及び高等学校の教職員の人事評価に関する規則及び浜松市立幼稚園の教育職員の人事評価に関する規則の廃止について	教職員課	③
	議案	67	浜松市教育委員会職員のうち特殊な勤務に従事するものの勤務時間等に関する規程の一部改正について	教育総務課	③
	議案	68	浜松市教育委員会職員安全衛生規程の一部改正について	教育総務課	③
	議案	69	浜松市立小・中学校通学区域の一部改正について	教育支援課	③
	議案	70	浜松市指定文化財の指定について	文化財課	⑦
	報告	31	令和8年度採用浜松市立小・中学校教員採用選考試験志願状況について	教職員課	

2 教育委員会の活動状況

月	定例会・協議会	会議出席	会議以外の活動
4	24 定例会 協議会	24 浜松市奨学生選考委員会 教育委員会室	10 校長会議 教育会館 25 静岡県市町教育委員会 連絡協議会理事会 富士市
5	29 定例会 協議会		31 関東甲信越静岡市町村教育委員 会連合会総会及び研修会 茨城県古河市
6	24 定例会 協議会		
7	24 定例会 協議会	3 第1回第4次浜松市 教育総合計画策定委員会 教育委員会室	5 遵法教室視察 白脇小学校 12 三遠南信教育サミット 愛知県蒲郡市 19 教科書採択勉強会 教育委員会室
8	28 定例会 協議会	26 第1回総合教育会議 庁議室	1 教育研究会第2回研修会 市内学校 巡回訪問
9	27 定例会 協議会	7 第1回移動教育委員会 教育会館	
10	30 定例会 協議会	24 浜松市奨学生選考委員会 教育委員会室	4 指定校授業公開 大瀬小学校 17 法教育出前授業視察 金指小学校
11	26 定例会 協議会	11 第2回第4次浜松市 教育総合計画策定委員会 教育委員会室 24 指定教育研究報告会 教育会館	6 指定「研修幼稚園」保育参観 中川幼稚園 13 指定校授業公開 清竜中学校 15 第63回静岡県 市町教育委員会研修会 富士市 26 総合教育会議勉強会 教育委員会室

月	定例会・協議会	会議出席	会議以外の活動
12	25 定例会 協議会	13 第2回移動教育委員会 クリエイト浜松	4 人事関係業務 教育センター 5 人事関係業務 教育センター
1	29 定例会 協議会		29 総合教育会議勉強会 教育委員会室
2	17 臨時会 28 定例会 協議会	17 第2回総合教育会議 庁議室 18 第3回第4次浜松市 教育総合計画策定委員会 教育委員会室	2 研究員研究発表会 オンライン
3	14 臨時会 26 定例会 協議会 26 定例会 協議会		23 閉校記念式典 浦川小学校
計	定例会 12回 臨時会 2回 協議会 12回	移動教育委員会 2回 総合教育会議 2回 その他会議 6回	18回



3 附属機関及び庁内会議

(1) 附属機関 9 機関 (R5: 9 機関)

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
1	浜松市学校運営協議会	令和2年4月1日	保護者及び地域住民等の対象学校の運営への参画を促進し、当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図ることを目的とする。 (1)対象学校の校長が作成する学校経営に関する基本的な方針の承認 (2)対象学校の運営及び当該運営への必要な支援についての協議 (3)対象学校の運営及び対象学校の職員の採用その他任用に関する意見の申出（任意）	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5 浜松市学校運営協議会規則	教育総務課
2	浜松市いじめ問題第三者委員会	令和4年4月1日	いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第14条第3項の規定に基づき設置し、委員会は、次に掲げる事項について、教育委員会の諮問に応じ調査審議する。 (1) 法第14条第3項に規定するいじめの防止等のための対策に関すること。 (2) 重大事態の調査に関すること。	いじめ防止対策推進法第14条第3項 浜松市いじめ問題第三者委員会条例	教育総務課
3	「小中学校特別教室空調整備事業」における浜松市PFI等審査委員会	令和5年7月1日	民間資金等の活用による公共施設等の整備に関する法律に基づき実施する浜松市立小中学校特別教室の空調整備事業について以下の事項について審議を行う。 (1)実施方針の策定に関すること (2)特定事業の選定に関すること (3)民間事業の選定に関すること (4)前各号に掲げるもののほか、本事業に関し必要な事項	浜松市PFI等審査委員会条例（令和4年条例第16号）	教育施設課
4	浜松市スポーツ推進審議会	昭和37年4月1日	スポーツ基本法第35条の規定による諮問に対する答申を行うほか、次に掲げる事項について、教育委員会の諮問に応じ調査審議し、又は意見を述べる。 (1)スポーツ基本法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること (2)スポーツの施設及び設備の整備に関すること (3)スポーツの指導者の養成及び資質の向上に関すること (4)スポーツの事業の実施及び奨励に関すること (5)スポーツの団体の育成に関すること (6)スポーツの技術水準の向上に関すること (7)前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること	スポーツ基本法第31条 浜松市スポーツ推進審議会に関する条例	スポーツ振興課
5	浜松市社会教育委員会	昭和25年2月1日	社会教育に関する諸計画の立案及び調査研究を行うとともに、教育委員会の諮問に応じ意見を述べる。	社会教育法第15条第1項 浜松市社会教育委員条例	創造都市・文化振興課
6	浜松市文化財保護審議会	昭和52年4月1日	教育委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項について教育委員会に建議する。	文化財保護法第190条第1項 浜松市文化財保護条例	文化財課
7	浜松市博物館協議会	昭和54年4月1日	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。	博物館法第23条第1項 浜松市博物館条例	博物館

開催回数		R 6 平均 開催 時間	委員数				情報公開			令和6年度の主な審議・活動内容	No.
R 5	R 6		学 識 経 験 者	市 民 委 員	行 政 職 員 等	計	傍 聴	会 議 録	会 議 資 料		
523	539	2時間	0	1201	0	1201	公開	公開	公開	(1)学校運営の基本方針について (2)学校支援活動について (3)学校関係者評価 (4)学校運営協議会自己評価 ※全市立小中高等学校に学校運営協議会を設置済	1
49	4	2時間	10	0	0	10	非公開	非公開	非公開	(1)「浜松市いじめの防止等のための基本的な方針」の見直し (2)いじめの重大事態事案に関する調査 ・教育委員会からの諮問に対する調査の実施、答申（報告書）の作成 ・いじめの事実の全容解明、再発防止策の提言のため関係者からの聴き取り調査、資料調査	2
2	2	2時間	3	0	2	5	非公開 (議事部分のみ)	公開	非公開	(1)実施方針について (2)要求水準書（案）について (3)特定事業の選定について (4)落札者決定基準について (5)入札説明書について	3
1	3	1時間 15分	8	0	0	8	公開	公開	公開	(1)浜松市スポーツ推進ビジョン（第3期浜松市スポーツ推進計画）について (2)スポーツ推進施策に対する報告・協議	4
4	4	1時間 30分	1	9	0	10	公開	公開	公開	(1)生涯学習の主要事業等の実績及び計画について (2)生涯学習推進大綱の改定について (3)生涯学習事業について	5
3	3	1時間 48分	9	0	0	9	公開	公開	公開	(1)令和5年度文化財保護事業報告について (2)令和6年度文化財保護事業計画について (3)文化財の現況調査と報告、協議 (4)文化財指定等に係る諮問 (5)浜松市地域遺産（認定文化財）について (6)浜松市文化財保存活用地域計画進捗管理・事業評価について	6
3	3	2時間	8	0	0	8	公開	公開	公開	(1)令和5年度博物館事業報告等について (2)令和6年度博物館事業計画等について (3)博物館リニューアル・史跡蛸塚遺跡再整備事業について (4)令和5年度博物館事業評価について (5)史跡蛸塚遺跡の再整備に伴う調査研究事業について (6)浜松市文化財保存活用地域計画の進捗管理・事業評価について (7)令和7年度博物館事業予定等について (8)最近の博物館事業について	7

No.	名称	設置 年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
8	浜松市美術館 協議会	昭和46年 7月1日	美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。	博物館法第23 条第1項 浜松市美術館 条例	美術館
9	浜松市立図書館 協議会	昭和25年 9月5日	図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる。	図書館法第14 条第1項 浜松市立図書館 協議会条例	中央図書館

開催回数		R 6 平均 開催 時間	委員数				情報公開			令和6年度の主な審議・活動内容	No.
R 5	R 6		学 識 経 験 者	市 民 委 員	行 政 職 員 等	計	傍 聴	会 議 録	会 議 資 料		
2	3	1時間 30分	6	0	2	8	公開	公開	公開	(1)令和5年度浜松市美術館事業報告について (2)令和5年度浜松市秋野不矩美術館事業報告について (3)外部評価について (4)施設運営について (5)令和7年度浜松市美術館事業計画について (6)令和7年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について	8
3	3	2時間	8	0	0	8	公開	公開	公開	(1)令和5年度図書館事業報告について (2)令和6年度図書館事業計画について (3)令和5年度図書館評価について (4)令和6年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果について (5)令和7年度図書館評価指標について	9

(2) 庁内会議 14組織 (R5:14組織)

No.	名称	設置 年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
1	第4次浜松市教育 総合計画策定委員会	令和5年 4月1日	教育基本法第17条第2項に基づく本市における教育の振興のための 施策に関する基本的な計画（以下「教育総合計画」という。）を 策定するため、次に掲げる事項について協議する。 (1)教育総合計画の策定に関する事項 (2)その他教育総合計画の策定に必要な事項	第4次浜松市 教育総合計画 策定委員会設 置要綱	教育総務課
2	浜松市立中学校に おける「学校に着 ていく服」のあり 方検討委員会	令和5年 6月27日	浜松市立中学校における「学校に着ていく服」のあり方と今後の 方向性について検討するため、次に掲げる事項について検討す る。 (1)浜松市立中学校における「学校に着ていく服」のあり方に関す る事項 (2)その他、制服のあり方に関する検討に必要な事項	浜松市立中 学校におけ る「学校に 着ていく服 」のあり方 検討委員 会設置要綱	教育総務課
3	浜松市学校施設整 備適正化推進本部	令和3年 3月26日	市立小中学校における施設整備の適正化を図るため、教育体制の 変化や社会的ニーズ、法改正、局所的な人口増加など、様々な課 題を教育委員会全体で共有し、総合的かつ計画的な整備方針の策 定に向けた協議を行う。	浜松市学校施 設整備適正化 推進本部設置 要綱	教育施設課
4	浜松市教職員 健康審査会	平成19年 4月1日	市立小中学校及び高等学校に勤務する教職員の健康管理の適正を 図るため、必要事項について審査する。 (1)教職員の健康管理に関すること (2)教育長が必要と認めた者の休職の可否又は復職の可否につい て、病状の審査及び判定 (3)職員として採用しようとする者の健康状態に係る審査及び判定 (4)その他教育長が必要と認めたこと	浜松市教職員 健康審査会実 施要綱	教職員課
5	浜松市指導力向上 教員審査委員会	平成20年 4月1日	幼児・児童・生徒に対する教員の指導力向上を図るため、必要事 項について審査する。 (1)指導力向上教員の判定に関すること (2)精神的な疾患の疑いのある教員の医療機関への受診の可否に関 すること (3)職場復帰に関すること (4)上記に掲げるもののほか、指導力向上教員への対応に関するこ と	浜松市指導力 向上教員審査 委員会設置要 綱	教職員課

開催回数		R6 平均 開催 時間	委員数			情報公開			令和6年度の主な審議・活動内容	No.
R5	R6		有識者等	行政職員等	計	傍聴	会議録	会議資料		
3	3	2時間	5	8	13	公開	公開	公開	①第1回 本年度の検討組織及び策定スケジュールについて ②第2回 (1)計画の最終案について (2)各施策における具体的取組（案）について ③第3回 (1)第3次浜松市教育総合計画 後期計画 令和6年度評価・検証について (2)第4次浜松市教育総合計画について ア 計画最終案について イ 成果指標の目標値設定について ウ 各施策の取組工程表について	1
2	4	1時間 45分	-	6	6	公開	公開	公開	①第3回 検討の視点・方向性及び今後の論点について ②第4回（書面開催） (1)「学校に着ていく服」の定義・ロードマップ（案）について (2)「学校に着ていく服」の検討の必要性について ③第5回 (1)「学校に着ていく服」のあり方検討に係る論点（再提案） (2)「学校に着ていく服」の理念と目指す方向性、ロードマップの方向性（再提案） ④第6回 (1)「学校に着ていく服」の理念と目指す方向性（再提案） (2)「学校に着ていく服」の実現に向けて必要となる観点と取組	2
5	5	1時間	-	13	13	非公開	非公開	非公開	【審議事項】 (1)体育館及び武道場整備の進め方について (2)施設整備における中学校学級定数について (3)R5基本構想対象校における基盤設定 (4)R6発達支援学級新增設校の決定 など 【活動内容】 (1)体育館、武道場整備における法令確認、整備内容等に関する基盤整備、設置方針作成、関係所管課協議など (2)現在および将来の中学校学級状況の整理、教職人配置状況の整理（法令、実態）方針検証 (3)学校施設整備プロセス（案）の作成（教育施設課）、これに基づく関係課協議、施設長寿命化を考慮した基盤の設定 (4)将来推計・施設状況の把握、新增設による将来的な影響の検証 など	3
12	10	45分	4	0	4	非公開	非公開	非公開	(1)審査部会 ・第1部会：結核性疾患に係る事項（該当者なしのため開催せず） ・第2部会：精神・神経系障害に係る事項（5回開催） ・第3部会：生活習慣病等に係る事項（5回開催） (2)審議内容等 ・書類審査 診断書・経過観察報告書・職場復帰訓練実施報告書・訓練日誌等 ・所属長等から経過報告、職場復帰訓練結果報告（実施者のみ）、復職の際の配慮事項の説明 ・委員等からの質疑応答 ・職務復帰、復職に係る審査及び判定 ・判定や指示事項の報告（報告先：休職復職判定会）	4
0	0	-	4	3	7	非公開	非公開	非公開	※会議に諮る事項が生じなかったため開催せず	5

No.	名称	設置 年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
6	浜松市立小中学校 統括安全衛生委員 会	令和3年 4月1日	市立小中学校の安全衛生管理の円滑な推進を図るため、教職員の安全及び衛生に関する重要事項について協議する。 (1)教職員の健康の保持増進に関すること (2)教職員の職場における危険又は健康障害の防止に関すること (3)公務災害上の原因及び再発防止対策に関すること (4)上記に掲げるもののほか、教職員の安全及び衛生管理上必要な事項に関すること	浜松市立小中学校統括安全衛生委員会設置要綱	教職員課
7	地域クラブ活動協 議会	令和5年 7月13日	浜松市立中学校の生徒にとって、持続可能で、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境を実現するため、「休日の部活動の地域移行に向けた取組方針」に基づき、具体的な方策を検討し、改善案等をまとめる。	地域クラブ活動協議会設置要綱	指導課
8	浜松市就学支援 委員会	平成16年 4月1日	特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適正な就学支援を行い、発達支援教育の推進を図るため、必要事項について協議する。 (1)特別支援学校入学者及び発達支援学級入級者の判断と就学支援に関すること (2)障害のある幼児・児童・生徒の就学支援に関する諸問題、研究に関すること (3)その他目的を達成するために必要な事項に関すること	浜松市就学支援委員会規則	教育支援課
9	浜松市不登校対策 推進協議会	平成28年 4月1日	本市の小中学校に在籍している不登校児童生徒等に対する指導の充実及び不登校対策について協議する。 (1)市内10か所の校外まなびの教室及び市内45か所の校内まなびの教室の運営及び協議 (2)不登校対策についての情報交換及び協議	浜松市不登校対策推進協議会設置要綱	教育支援課
10	浜松市外国人子供 支援協議会	平成22年 4月1日	外国につながる子供への教育支援を充実させるため、外国人児童生徒の現状把握及び必要な教育支援等について協議する。 (1)外国人子供教育支援の現状把握に関すること (2)外国人子供教育支援の改善充実に関すること (3)その他必要な事項に関すること	浜松市外国人子供支援協議会設置要綱	教育支援課
11	浜松市学童等 災害共済会議	平成22年 4月1日	浜松市学童等災害共済条例施行規則第6条に規定する見舞金の支給決定に関する意見を聴取する。 (1)会員より請求があり事務審査が完了した傷害見舞金に関すること (2)会員より請求があった障害見舞金及び特別見舞金に関すること (3)共済に関する基本的な施策について必要な事項の調査審議に関すること (4)上記に規定するもののほか、共済見舞金について必要な事項	浜松市学童等災害共済会議設置要綱	健康安全課

開催回数		R 6 平均 開催 時間	委員数			情報公開			令和6年度の主な審議・活動内容	No.
R 5	R 6		有識者等	行政職員等	計	傍聴	会議録	会議資料		
1	1	2時間	1	10	11	非公開	非公開	非公開	(1)ストレスチェックの結果報告 ・ストレスチェックの実施状況及び分析結果の報告、医師等による面接指導の実施状況等 (2)公務災害発生状況等報告 ・公務災害の発生状況、発生事例の共有、衛生推進者に対する調査の報告等 (3)時間外在校等時間の状況 ・時間外在校等時間の報告、取組み事例の共有等	6
3	4	2時間 45分	6	13	19	公開	公開	公開	休日の部活動の地域移行に関するガイドラインの策定について	7
3	3	3時間	4	17	21	非公開	非公開	非公開	(1)幼稚園・学校等の支援が必要な子供の実態把握 ・幼稚園、保育園、施設等で「支援が必要な子供」についての実態調査実施 ・小学校、中学校で「支援が必要な子供」についての実態調査実施 ・保護者へ就学教育相談の案内送付 (2)専門調査並びに就学教育相談の実施 ・幼稚園・保育園・施設等を訪問し、専門調査並びに就学教育相談の実施 ・小学校、中学校を訪問し、専門調査並びに就学教育相談の実施 (3)就学先の判断と就学支援の実施 ・第1回浜松市就学支援委員会：新学齢児・学齢児の就学先の判断 ・第2回浜松市就学支援委員会：学齢児の就学先の判断 ・第3回浜松市就学支援委員会：本年度の活動総括と次年度に向けて	8
3	3	2時間	5	6	11	非公開	非公開	非公開	(1)不登校児童生徒の現状について ・不登校児童生徒数の現状 ・不登校の要因・背景について (2)浜松市における不登校対策について ・不登校児童生徒の居場所づくり（校外・校内まなびの教室）、状況調査について ・不登校の若年化への対応として、小学校低学年の学習支援の在り方について ・不登校の長期化への対応として、ICTを活用した支援について ・官民連携について	9
2	2	2時間	7	8	15	非公開	非公開	非公開	(1)外国人児童生徒等の現状と課題の検証 ・外国人児童生徒等の現状説明 ・日本語指導の必要なすべての外国人児童生徒等への支援の拡充へ向けて ①令和6年度からの支援事業の現状と支援の課題 ②多様性の受入れと包摂的な支援（切れ目のない支援体制） (2)日本語指導の必要なすべての外国人児童生徒等への支援の拡充 ・多様性の受入れと包摂的な支援（切れ目のない支援体制） ・幼→小→中→高につなげる支援 ・各立場から見た外国人の子供に対する支援	10
6	6	1時間	3	7	10	非公開	一部公開	一部公開	(1)事務局が行った事務審査（会員の請求に基づき、診断証明書等による災害の認定と傷害見舞金を確定）の審査決定に関する意見聴取 (2)会員の請求に基づく障害見舞金及び特別見舞金の審査決定に関する意見聴取 (3)その他共済見舞金に関する必要事項について	11

No.	名称	設置 年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
12	浜松市子ども読書活動推進会議	平成19年 4月1日	本市における子ども（0歳からおおむね18歳まで）の読書活動が「浜松市子ども読書活動推進計画」を指針として積極的に推進されるよう進捗状況を管理する。 (1)子ども読書活動推進計画の推進に関すること (2)子ども読書活動推進計画の進行管理に関すること (3)その他必要な事項に関すること	浜松市子ども読書活動推進会議設置要綱	中央図書館
13	浜松市幼児教育推進協議会	平成29年 8月31日	幼児教育への社会的関心及び関連する教育・保育施設等の需要が高まる中で、国や県の動向を踏まえ、幼児教育の目指すべき姿を全市で共有し、本市幼児教育のより良い環境を構築することにより、未来を担う人材を育成していくため、必要事項について協議する。 (1)浜松市教育総合計画及び浜松市子ども・若者支援プランの幼児教育推進に関すること (2)関連施設における課題の共有と解決に向けた取組に関すること (3)その他就学前における教育・保育の振興と充実に関すること	浜松市幼児教育推進協議会設置要綱	幼保運営課
14	【新設】 学校給食の提供に関する検討委員会	令和7年 1月31日	（設置目的） 浜松市の学校給食について、栄養摂取量や提供方法等の検討を行い、食材にかかるコストの適正化を図るため、学校給食の提供に関する検討委員会を設置する。 （所掌事務） 検討委員会は、次に掲げる事項について検討する。 (1)適切な栄養摂取量等の基準に関する事項 (2)食材選定及び提供方法等に関する事項 (3)食材にかかるコストの適正化に関する事項 (4)食材費の保護者負担額に関する事項 (5)その他、学校給食の提供に関して検討が必要な事項	学校給食の提供に関する検討委員会設置要綱	健康安全課

開催回数		R 6 平均 開催 時間	委員数			情報公開			令和6年度の主な審議・活動内容	No.
R 5	R 6		有識者等	行政職員等	計	傍聴	会議録	会議資料		
3	3	2時間	4	4	8	公開	公開	公開	(1)令和5年度の活動報告及び令和6年度の取組について確認 ・市立図書館の実績と計画 ・学校図書館の実績と計画 (2)磐田市立中央図書館見学 ・市内小・中学校への電子図書提供の取組状況について ・その他、主として子供の読書活動推進に繋がる活動について (3)令和6年度の活動報告及び令和7年度の取組について	12
3	3	2時間	8	6	14	公開	公開	公開	(1)幼児教育・保育の質の向上について ・浜松市幼児教育の指針の浸透及び教職員用指導資料の活用促進について ・研修の実施について ・幼児教育アドバイザー派遣事業について ・「幼児期に育てたい力」の育みについて （社会福祉法人 松寿会 まつばこども園の保育参観を通して） (2)幼児期の教育と小学校教育の接続について ・浜松市版「つながる」カリキュラム参考資料（幼小接続期の教育・保育実践の参考資料）について (3)「第3次浜松市教育総合計画後期計画」及び「第2期浜松市子ども・若者支援プラン」に係る実施状況について	13
-	1	2時間	3	6	9	非公開	非公開	非公開	(1)本市の学校給食の現状について (2)本市の学校給食の課題について	14

令和6年度
教育委員会点検・評価報告書
令和7年5月

浜松市教育委員会 教育総務課
〒430-0929
浜松市中央区中央一丁目2番1号
イーステージ浜松オフィス棟6F
TEL：053-457-2401 FAX：050-3730-8496
Email：somu@city.hamamatsu-szo.ed.jp

令和6年度における学校施設等の被害状況について

報告ア

教育施設課
幼保運営課

令和6年度に市立幼稚園・小学校・中学校において発生した、施設被害の状況(自然災害等を除く)を報告します。

1 発生件数

(1) 年度別発生件数

年度	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	対前年度比 増減
4	幼稚園													0	—
	小学校	1		1	1	1	3			1	2			10	
	中学校			1	1	1	1	3		1	3		1	12	
	小中一貫校													0	
	発生件数	1	0	2	2	2	4	3	0	2	5	0	1	22	4
5	幼稚園							1						1	—
	小学校	1		4	1	2	2	1	3		1		1	16	
	中学校		2	1		1	2	1					1	8	
	小中一貫校												1	1	
	発生件数	1	2	5	1	3	4	3	3	0	1	0	3	26	4
6	幼稚園					1								1	—
	小学校		1	1	1	1	1		1	2	1	1	1	11	
	中学校			1	3		1	2	1			1		9	
	小中一貫校					1								1	
	発生件数	0	1	2	4	3	2	2	2	2	1	2	1	22	△4

(2) 施設被害の状況

ア 事故内容(重複あり)

年度	ガラス 破損	器物 破損	車両 による 破損	落 書 き	不法 侵入	そ の 他	合 計
4	8	3	9	2	7	0	29
5	6	2	17	1	2	0	28
6	5	3	14	0	3	0	25

イ 加害者の特定等

年 度	判 明	不 明	合 計	被害総額 (加害者不明に より市が負担し た補修額)
4	9	13	22	約55万円
5	21	5	26	約29万円
6	18	4	22	約27万円

ウ 区別発生件数 (※旧7区で集計)

年 度	中 区	東 区	西 区	南 区	北 区	浜 北 区	天 竜 区	合 計
4	6	1	5	4	2	1	3	22
5	7	5	6	1	1	2	4	26
6	10	5	2	1	1	1	2	22

年 度	中 央 区	浜 名 区	天 竜 区	合 計
4	16	3	3	22
5	19	3	4	26
6	18	2	2	22

2 今後の対応

- ・各種破損については、発生時に速やかに加害者を特定し、原状回復を図る。
- ・加害者が特定できなかった4件(うち、不法侵入3件)については、防犯カメラを設置(R6:小学校、R7:中学校)し、事件発生の未然抑止や画像記録の有効活用に繋げていく。

令和6年度 教職員の体罰、不適切な言動及びセクシュアル・ハラスメントに関する調査結果について

教職員課

1 体罰、不適切な言動、セクシュアル・ハラスメントの考え方

(1) 体罰

「問題行動を起こす児童生徒に対する指導について（通知）」（18 文科初第 1019 号）における「学校教育法第 11 条に規定する児童生徒の懲戒・体罰に関する考え方」による。

(2) 不適切な言動

児童生徒への優位性を背景に、適正な指導の範囲を超え、児童生徒に対し著しく精神的な苦痛を繰り返し与えるもの

- ① 児童生徒の人格や人権への配慮を欠いた言動
- ② 高圧的・威圧的な指導に終始した言動
- ③ 発達段階への適切な配慮を欠いた言動

(3) セクシュアル・ハラスメント

教職員が児童生徒を不快にさせる「性的な言動」を行うことをいう。この「性的な言動」とは、性的な関心や欲求に基づく言動を指す。また性別により役割分担すべきとする意識が根底にあることに基づく言動も含まれる。

2 調査期間及び内容

体罰・不適切な言動調査期間

(1) 第1次調査

- ① 期間 令和6年4月1日から令和6年12月3日まで
- ② 内容 保護者、児童生徒、教職員へのアンケート

(2) 第2次調査

- ① 期間 令和6年12月4日から令和7年3月31日まで
- ② 内容 第1次調査以降、学校が把握した事案や児童生徒、保護者から訴えのあった事案を令和7年3月31日まで随時報告

セクシュアル・ハラスメント調査期間

(1) 第1次調査

- ① 期間 令和6年4月1日から令和6年12月3日まで
- ② 内容 教職員へのアンケート

(2) 第2次調査

- ① 期間 令和6年12月4日から令和7年3月31日まで
- ② 内容 第1次調査以降、学校が把握した事案や児童生徒、保護者から訴えのあった事案を令和7年3月31日まで随時報告

3 調査上の配慮事項

- (1) アンケートについては、Google フォームのアンケート機能を活用した調査方法に変更した。回答は、浜松市教育委員会が集約し、結果を各校に通知した。
- (2) 所属学年・学級、氏名については、自由記載としたが、任意の記載欄を設定し、記載できるようにした。
- (3) Google アカウントと回答の紐づけを行わないことで、匿名性を確保した。

4 調査結果

(1) 体罰について

① 体罰の件数 (件)

年度	小学校	中学校	高等学校	計
R4	43	15	0	58
R5	26	19	0	45
R6	23	9	0	32

② 体罰の発生の場面 ※高等学校においては、報告件数が0であったため割愛 (件)

年度	授業中		放課後		休み時間		部活動		H R		その他		計	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
R4	28	2	2	1	9	5	1	3	1	0	2	4	43	15
R5	15	3	1	3	7	5	0	6	0	2	3	0	26	19
R6	11	3	0	0	8	2	0	2	1	1	3	1	23	9

③ 体罰の発生の場所 ※高等学校においては、報告件数が0であったため割愛 (件)

年度	教室		職員室		運動場・ 体育館		教材室・ 生徒指導室		廊下・ 階段		その他		計	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
R4	24	4	0	0	11	5	0	0	5	3	3	3	43	15
R5	17	6	0	0	7	6	0	0	1	4	1	3	26	19
R6	16	4	0	0	3	2	0	0	3	2	1	1	23	9

(2) 不適切な言動について

① 不適切な言動の件数 (件)

年度	小学校	中学校	高等学校	計
R4	26	20	2	48
R5	46	41	0	87
R6	42	17	2	61

② 不適切な言動の発生の場面 (件)

	授業中		放課後		休み 時間		部活動			学校行事			H R		その他			計		
	小	中	小	中	小	中	小	中	高	小	中	高	小	中	小	中	高	小	中	高
R4	22	8	0	1	0	2	0	9	2	0	0	0	1	0	3	0	0	26	20	2
R5	33	18	0	3	2	2	0	10	0	0	0	0	2	1	9	7	0	46	41	0
R6	30	8	0	1	7	1	1	4	0	0	0	1	2	3	2	0	1	42	17	2

③ 不適切な言動の発生の場所 (件)

年度	教室		職員室		運動場・ 体育館			教材室・ 生徒指導室		廊下・ 階段		その他			計		
	小	中	小	中	小	中	高	小	中	小	中	小	中	高	小	中	高
R4	21	12	0	0	1	7	2	0	0	3	3	1	1	0	26	23	2
R5	35	18	0	1	12	0	0	0	0	0	1	9	9	0	46	41	0
R6	30	12	0	1	4	3	0	0	0	4	0	4	1	2	42	17	2

(3) セクシュアル・ハラスメントについて

① セクシュアル・ハラスメントの件数 (件)

年度	小学校	中学校	高等学校	計
R4	1	3	0	4
R5	2	6	0	8
R6	0	1	0	1

② セクシュアル・ハラスメントの発生の場面※高等学校においては、報告件数が0であったため割愛(件)

年度	授業中		放課後		休み時間		部活動		学校行事		H R		その他		計	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
R4	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
R5	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	6
R6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

③ セクシュアル・ハラスメントの発生の場所※高等学校においては、報告件数が0であったため割愛(件)

年度	授業中		放課後		休み時間		部活動		学校行事		H R		その他		計	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
R4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	3	1	3
R5	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	6	2	6
R6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

5 本市のこれまでの取組

(1) 通知文の送付

- ① 【令和6年 4月30日】「倫理研修の実施について(通知)」(教職員課)
 - ② 【令和6年 7月 9日】「体罰・不適切な言動及びセクシュアル・ハラスメントの根絶に向けた取組について(通知)」(教職員課)
 - ③ 【令和6年11月14日】体罰:「体罰根絶に向けた取組の徹底について(通知)」(25 文科初第574号<平成25年8月9日>)
 - ④ 【令和6年11月14日】体罰:「問題行動を起こす児童生徒に対する指導について(通知)」(18 文科初第1019号<平成19年2月5日>)
- ※ ③④は体罰調査依頼通知に合わせ、毎年各校へ送付し周知している。
- ⑤ 【令和6年11月14日】セクハラ:「子供たちを児童生徒性暴力等から守り抜くために～全国の学校関係者の皆様へ～」(文部科学大臣 令和5年10月20日)
 - ⑥ 【令和6年11月14日】セクハラ:「資料:不適切な言動・セクシュアル・ハラスメントと判断される行為やそれにつながる行為」(教職員課 令和4年)
- ※ ⑤⑥はセクシュアル・ハラスメント調査依頼通知に合わせ、毎年各校へ送付し周知している。

(2) 教職員課による学校訪問

校長面談や教頭面談を行い、各学校における取組状況や今後の方策について確認し、体罰、不適切な言動、セクシュアル・ハラスメントの根絶について、教職員への指導の徹底を依頼。また、体罰、不適切な言動、セクシュアル・ハラスメントが指摘された教諭等について、必要に応じて、教職員課担当が学校に出向いて授業参観等を実施。

(3) 研修会等

- ① 【令和6年 4月10日】臨時校長会議における管理職への注意喚起
 - ② 【令和6年 8月 8日】校長倫理研修会において、スクールロイヤーを招いての事例研修の実施
 - ③ 【令和7年 1月24日】臨時校長会議において、浜松市教職員の懲戒処分に関する基準の一部改正と倫理研修確認チェックシートの活用方法について説明
- ※ 倫理研修確認チェックシートについては、全職員が記入して浜松市教育委員会に提出
- ④ 初任者研修や職務別研修等において、教職員の意識を高めるために教職員課の担当者が注意喚起を実施

(4) 管理職による継続した指導

- ① 全教職員との面談及びコンプライアンスセルフチェックシートを活用した倫理研修を各校で実施。
- ② 各校において、具体的事例を基に体罰等の防止について考える「ケースメソッド研修」を実施。
- ③ セクシュアル・ハラスメント状況調査時に「資料：不適切な言動・セクシュアル・ハラスメントと判断される行為やそれにつながる行為」を使つての確認と倫理研修を実施。
- ④ 体罰・不適切な言動調査、セクシュアル・ハラスメント調査の分析と総括を各校で管理職が実施。

6 令和7年度における取組（計画）

《新規》

- (1) 「教職員による児童生徒性暴力等が発生した場合の初動マニュアル」と説明資料をグループウェア内に格納。第2回校長会議の折に説明し、各校において研修を実施。

《拡充》

- (2) 各校において、第1回目の倫理研修を6月13日までに実施（コンプライアンスセルフチェックシートの活用）。本年度から、重点項目を設定。
- (3) 7月31日に静岡大学塩田教授を講師に迎え、校長倫理研修会を実施。研修内容を生かした校内研修の実施を指示。

《継続》

- (4) 体罰、不適切な言動、セクシュアル・ハラスメントの根絶に向けた通知文送付の際、具体事例をあげることで、偶発的な事案であっても児童・生徒・保護者のとらえ方によっては、体罰、不適切な言動、セクシュアル・ハラスメントとして受け取られることがあるという認識がもてるようにするとともに、適切で丁寧な対応を行っていきけるよう啓発。
- (5) 全校への学校訪問を行い、校長面談や教頭面談を通して、各学校における取組状況や今後の方策について確認。勤務服務（不祥事根絶）について、再度伝えるとともに、体罰、不適切な言動、セクシュアル・ハラスメントの根絶について全教職員へ指導の徹底を依頼。
- (6) 管理職による教職員面談時に、体罰・不適切な言動調査、セクシュアル・ハラスメント根絶のための指導を実施。
- (7) 初任者研修や職務別研修等において、教職員課担当者による注意喚起の継続実施。
- (8) 複数回体罰・不適切な言動等を行った教職員に対して、必要に応じた個別研修を実施。

令和6年度 問題行動、いじめ及び不登校の実態について

指導課
教育支援課

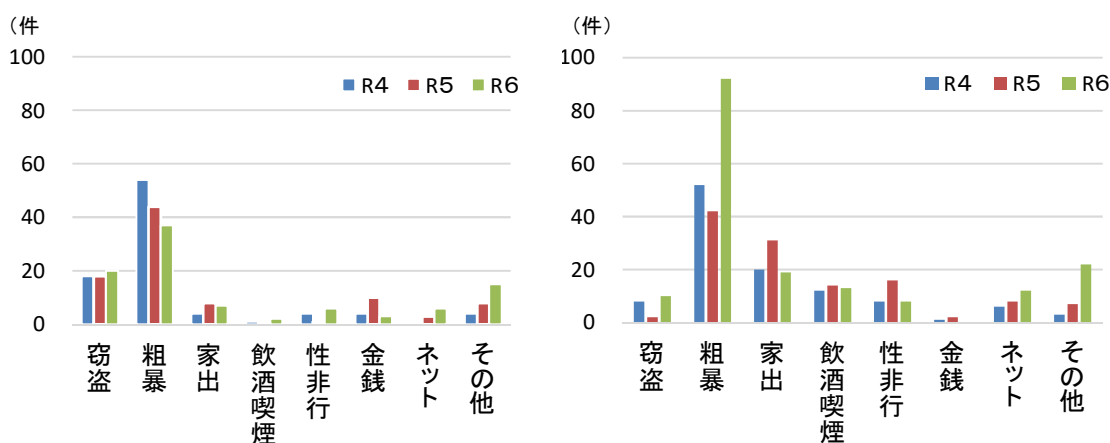
1 問題行動

問題行動の経年推移＜表1＞

項目 校種	窃盗		粗暴		家出等		飲酒喫煙		性非行		金銭		携帯の誹謗等 ネットのトラブル		その他		小計		合計 (件)
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	
R4	18	8	54	52	4	20	1	12	4	8	4	1	0	6	4	3	89	110	199
R5	18	2	44	42	8	31	0	14	1	16	10	2	3	8	8	7	92	122	214
R6	20	10	42	95	7	19	2	13	6	8	3	0	6	12	15	22	101	179	280

※「家出等」には無断外泊、深夜徘徊を含む ※「その他」は薬物乱用、不健全娯楽、建造物侵入、火遊び等

問題行動の経年推移＜グラフ1＞



【対応について】

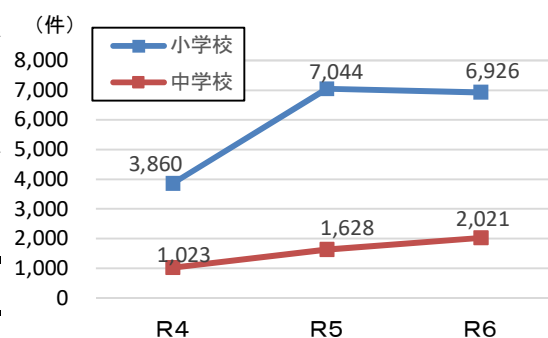
- 教職員全体の生徒指導体制を構築するとともに、児童生徒の規範意識を高める教育活動を継続して行っていく。
- 問題行動を行った児童生徒の発達特性や家庭背景の理解に努め、適切な支援に繋げていくため、学校と家庭の協力だけではなく、スクールソーシャルワーカー（SSW）を活用し、医療、福祉等の専門機関との連携を図る。（市内SSWの人数 R5：18人 R6：17人 R7：21人）
- 児童生徒に対しては、遵法教室（指導主事による訪問実施）を充実させ、触法行為等の問題行動の抑止に繋げる。（実施校数 R4：25校、R5：24校、R6：43校）中学校での粗暴行為が倍増していることを受け、本年度より中学校においても遵法教室を実施する。
- 家出、性非行の対応については、スクールカウンセラー（SC）やSSW、警察（サポートセンター）とも連携して、子供の心や家庭の教育環境の変化を見逃さないようにし、悩みや不安を把握して早期対応していく。
- SNS利用に起因する問題行動が増加していることから情報モラル講座やネットパトロール事業の活用によりSNS利用に起因する問題行動の未然防止や早期発見を図る。

2 いじめ

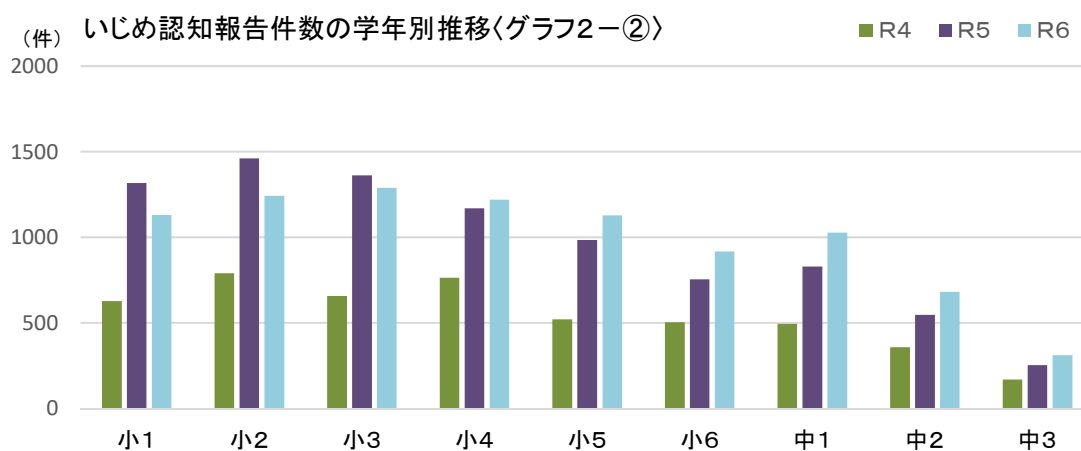
いじめの状況<表2>

項目 校種	認知件数（件）		認知件数（人）	
	小	中	小	中
R4	3,860	1,023	3,049	895
R5	7,044	1,628	4,600	1,239
R6	6,926	2,021	4,531	1,561

いじめ認知件数（件）の経年推移<グラフ2-①>



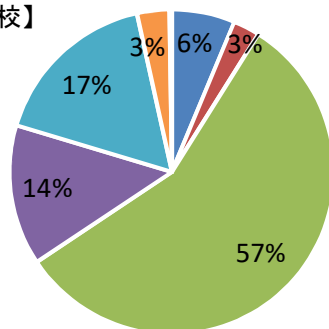
いじめ認知報告件数の学年別推移<グラフ2-②>



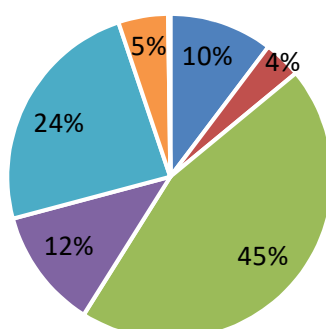
発見のきっかけ<グラフ2-③>

【小学校】

R5

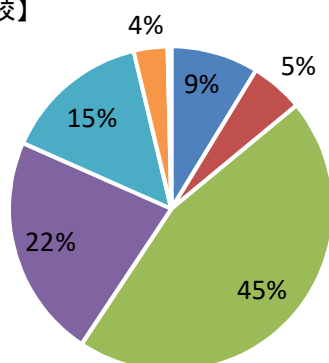


R6

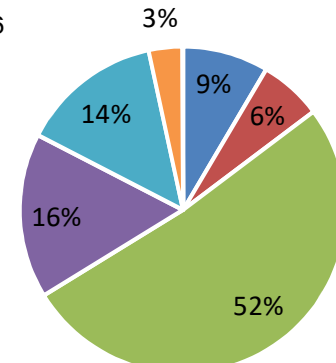


【中学校】

R5



R6



- 担任
- 担任以外の職員
- アンケート
- 本人
- 本人の保護者
- 他の児童生徒・保護者等
- その他

【対応について】

《学校》

- ・「浜松市いじめ防止等のための基本的な方針」や「学校いじめ防止基本方針」に基づき、教師と児童生徒の信頼関係の構築やいじめの未然防止の学級・学校風土づくりに努める。
- ・「校内いじめ対策委員会」を機能させ、学校体制での組織的対応に努める。
- ・「どの子にも、いじめは起こりうる」という危機感を持ち、アンケートを中心に児童生徒の心の声を拾う機会を増やし、いじめを訴えやすい相談体制を構築する。
- ・タブレット端末を活用した「はままついじめアンケート」を年2回以上実施することでいじめの早期発見に役立てる。また、アンケート後に個別に聴取りを行うことで、児童生徒の訴えを丁寧に聞き、適切な対応につなげるとともに、児童生徒との信頼関係を醸成し、被害を訴えやすい環境づくりを行う。

《教育委員会》

- ・児童生徒間のトラブルに対して、積極的ないじめ認知が認知件数を増加させている。今後も「いじめ見逃しゼロ」を目指し、いじめ認知をより確実に行うよう、研修などを通じて教職員への周知を徹底する。
- ・指導主事による市立全小中高等学校の訪問を実施し、「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめに関する研修計画、校内いじめ対策委員会の実施状況、SCやSSW等の専門家等との連携、児童生徒の特性等の理解や具体的な対応についての研修の実施状況等を確認する。また、いじめの未然防止のための具体的な方策について確認する。
- ・学校がいじめを認知したら、その都度教育委員会に報告する仕組みを活用し、教育委員会が学校に対し、迅速な支援・指示を行う。
- ・校長のリーダーシップにより「法令等を遵守した対応」や「組織での対応」などができるよう、市立小中学校の全校長を対象とした「校長いじめ対応研修」を実施する。
- ・教職員向けの「いじめ対応フローチャート及びチェックリスト」の周知を促進し、法令等に基づいたいじめ対応の徹底を図る。
- ・保護者用いじめリーフレットをデータ配布し、「いじめの定義」や「いじめの理解」、「学校や家庭の役割」等について周知を図る。
- ・SNS上でのいじめについては、ネットパトロール事業の活用や情報モラル講座を推進することで未然防止や早期発見に繋げる。

いじめの定義

「いじめ」とは、学校に在籍する児童又は生徒（以下「児童等」という。）に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

【いじめ防止対策推進法 平成25年6月制定】

3 不登校

不登校児童生徒の状況＜表3-①＞

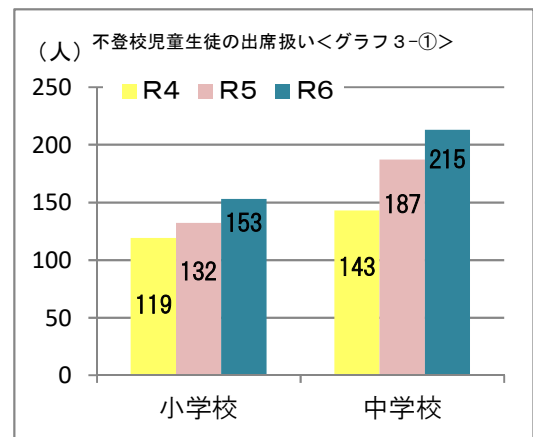
項目校種		R 4		R 5		R 6	
(人)	小	803	(12)	1,067	(19)	1,178	/39,348人 (19)
不登校数(全欠)	中	1,407	(27)	1,630	(52)	1,563	/19,840人 (29)
	計	2,210	(39)	2,697	(71)	2,741	/59,188人 (48)
(%)	小	2.03%		2.65%		2.99%	
不登校 出現率	中	7.12%		8.12%		7.88%	
	計	3.60%		4.47%		4.63%	
(%)	小	377	46.9%	465	43.6%	551	46.8%
継続数(人)	中	736	52.3%	919	56.4%	877	56.1%
	計	1,113	50.4%	1,384	51.3%	1,428	52.1%
(%)	小	426	53.1%	602	56.4%	627	53.2%
新規数(人)	中	671	47.7%	711	43.6%	686	43.9%
	計	1,097	49.6%	1,313	48.7%	1,313	47.9%

校内まなびの教室の開設校総数と利用者数＜表3-②＞

	R 4		R 5		R 6	
	校数(校)	利用者数(人)	校数(校)	利用者数(人)	校数(校)	利用者数(人)
小	7	82	10	94	13	135
中	23	421	35	494	37	556
合計	30	503	45	588	50	691

校外まなびの教室の開設数及び入級者数と学校復帰の人数・割合＜表3-③＞

	R 4	R 5	R 6
開設数(カ所)	9	10	10
入級者数(人)	207	248	267
学校復帰数(人)	120	184	204
学校復帰率	58.0%	74.2%	76.4%



※「学校復帰」…校外まなびの教室の併用も含め、1日でも学校に登校できた場合。

対応

＜学校＞

- ・ 日頃から児童生徒の様子の把握や教育相談等を通して個々の状況を確実に把握する。月欠席3日で「不登校のサイン」、月欠席5日で「不登校の状態」といった認識のもと、早期対応、長期化防止を組織的に行う。
- ・ 不登校傾向を把握した場合、速やかにアセスメントシートを作成し、校内で共有した上で支援方針や支援策を明確にし、組織体制を構築する。また、保護者の同意を得た上で、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門職及び、医療・福祉機関や校内・外まなびの教室等の校外機関とも連携を図り、児童生徒理解を進める。

＜教育委員会＞

- ・ 不登校支援対策の指針や具体及び学校での対応等、早期発見から組織的な対応における一連の支援・対応の流れについて、フローチャート等を作成し、学校が迅速かつ丁寧に対応できるようにする。

【不登校の定義】 ※文部科学省より

- ・ 何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）をいう。
- ・ 上記の定義に当てはまり、年間30日以上欠席した児童生徒の数を調査統計する。

令和7年度 浜松市放課後児童会入会児童数及び待機児童数について

教育総務課

令和7年5月1日現在、旧行政区ごとの放課後児童会入会児童数及び待機児童数等は、以下のとおり。待機児童数は、国調査基準に基づく受入できなかった児童のうち引き続き入会希望を継続する児童数。

表 1 旧行政区ごとの入会児童数及び待機児童数(各年5月1日現在)

(単位:人)

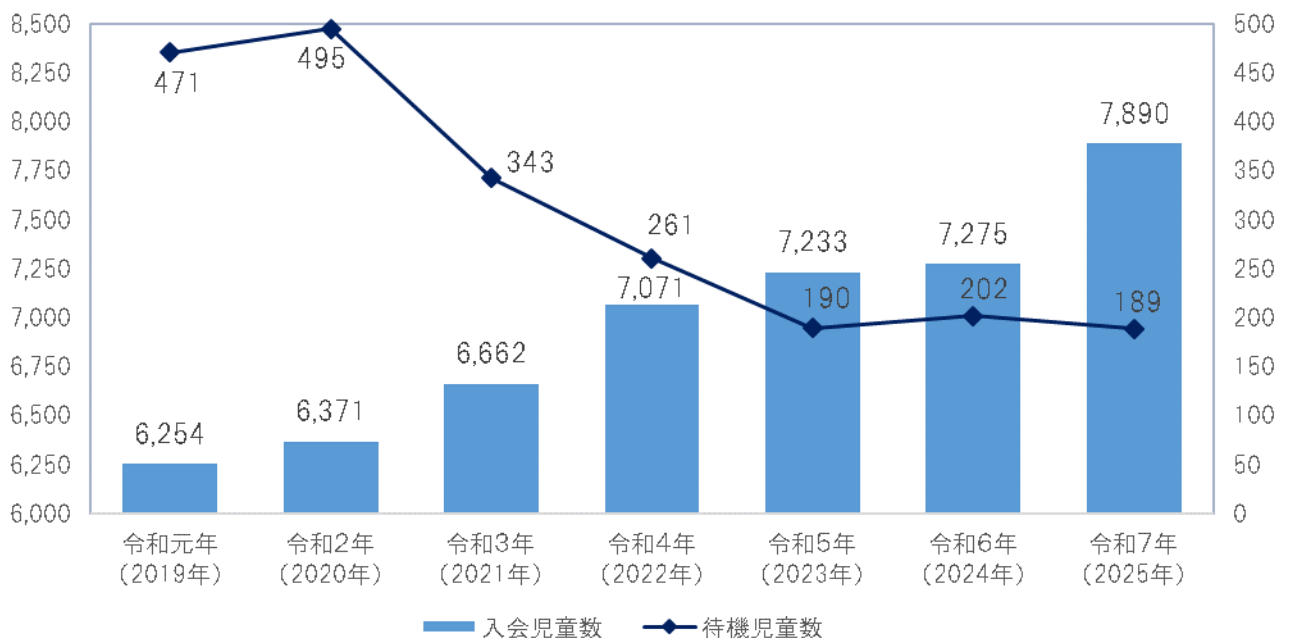
	令和6年				令和7年				増減			
	① 箇所数	② 定員	③入会 児童数	④待機 児童数	① 箇所数	② 定員	③入会 児童数	④待機 児童数	① 箇所数	② 定員	③入会 児童数	④待機 児童数
旧中	46	2,091	2,004	44	48	2,156	2,102	51	2	65	98	7
旧東	28	1,231	1,189	40	31	1,361	1,309	23	3	130	120	▲ 17
旧西	20	1,036	939	4	21	1,076	1,009	32	1	40	70	28
旧南	19	1,024	845	15	20	1,064	912	42	1	40	67	27
旧北	23	1,059	971	40	23	1,059	973	41	0	0	2	1
旧浜北	27	1,201	1,202	59	33	1,471	1,456	0	6	270	254	▲ 59
天竜	4	135	125	0	4	135	129	0	0	0	4	0
総計	167	7,777	7,275	202	180	8,322	7,890	189	13	545	615	▲ 13

※定員割れしている児童会があり、旧区ごとに集計していることから、②>③でも待機児童が生じる。

※児童の利用状況等により、定員を超えて登録を行う場合がある。

表 2 放課後児童会入会児童数及び待機児童数の推移(各年5月1日現在)

(単位:人)



	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)
箇所数	142	142	151	165	166	167	180
定員	6,527	6,558	7,093	7,533	7,644	7,777	8,322
入会児童数	6,254	6,371	6,662	7,071	7,233	7,275	7,890
待機児童数	471	495	343	261	190	202	189